

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2016 外国語学部 授業  
計画  
外国語学科

**Ⅲ**

外 国 語 学 部

(学部略号：L)

Faculty of Foreign Studies

外国語学科

(学科略号：L)

Department of Foreign Studies

## 外国語学部 教育目標

外国語学部外国語学科は、外国語と日本語によるコミュニケーション能力および異文化と日本の文化に対する理解を涵養し、人間力・実践力・統合力を身につけた、異文化接触の現場で活躍できる知的専門職業人を養成することを目的とする。

※**外国語学部 外国語学科Ⅲ**に掲載されているのは、目次:P.3～P.14、  
基礎科目：P.1045～P.1132、教養科目：P.1133～P.1250、キャリア形成科目：P.1251～P.1274、教職科目：P.1275～P.1311 になります。  
専門科目：P.15～P.512 は **I** に、専門科目：P.513～P.1044 は **II** に、  
に掲載されております。





# 授 業 計 画



科目名	担当者	ページ
<b>ア</b>		
アカデミック スタディーズ	マイケル ハーキー	17
Academic Writing	家 口 美智子	18
Academic Writing	杉 浦 秀 行	20
Academic Reading	フーバー トッド	22
Academic Reading	天 野 貴 史	23
朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	荻 田 喜代一	1135
アジア文化論	森 田 良 成	24
アドバンスト イングリッシュ a	後 藤 一 章	25
アドバンスト イングリッシュ a	杉 浦 秀 行	27
アドバンスト イングリッシュ a	ニール カー	28
アドバンスト イングリッシュ a	皆 本 智 美	29
アドバンスト イングリッシュ a	東 野 厚 子	30
アドバンスト イングリッシュ a	マーティン オイクル	32
アドバンスト イングリッシュ b	俣 野 裕 美	34
アドバンスト イングリッシュ b	杉 浦 秀 行	35
アドバンスト イングリッシュ b	ニール カー	36
アドバンスト イングリッシュ b	皆 本 智 美	37
アドバンスト イングリッシュ b	東 野 厚 子	38
アドバンスト イングリッシュ b	マーティン オイクル	40
アドバンスト ライティング a	齋 藤 安以子	42
アドバンスト ライティング a	西 川 眞由美	43
アドバンスト ライティング a	マイケル ハーキー	44
アドバンスト ライティング a	天 野 貴 史	45
アドバンスト ライティング a	ダニエル マリンズ	46
アドバンスト ライティング b	齋 藤 安以子	49
アドバンスト ライティング b	西 川 眞由美	50
アドバンスト ライティング b	マイケル ハーキー	51
アドバンスト ライティング b	天 野 貴 史	52
アドバンスト ライティング b	ダニエル マリンズ	53
アメリカ史学	大原関 一 浩	56
アメリカ文化論	大原関 一 浩	57

<b>イ</b>		
ESP(English for Specific Purposes) a	家 口 美智子	58
ESP(English for Specific Purposes) a	中 島 直 嗣	59
ESP(English for Specific Purposes) a	西 川 眞由美	60
ESP(English for Specific Purposes) a	齋 藤 安以子	61
ESP(English for Specific Purposes) a	住 吉 誠	63
ESP(English for Specific Purposes) a	田 中 秀 毅	64
ESP(English for Specific Purposes) b	家 口 美智子	65
ESP(English for Specific Purposes) b	中 島 直 嗣	66
ESP(English for Specific Purposes) b	西 川 眞由美	67
ESP(English for Specific Purposes) b	神 崎 舞	68
ESP(English for Specific Purposes) b	住 吉 誠	69
ESP(English for Specific Purposes) b	田 中 秀 毅	70
異文化コミュニケーション論	門 脇 薫	71
異文化接触論	篠 原 愛 人	72
異文化ビジネス論	中 島 直 嗣	73
English for TOEFL	皆 本 智 美	75
English for TOEFL	大原関 一 浩	76

科目名	担当者	ページ
イングリッシュ プレゼンテーション I b	フーバー トッド	77
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ダニエル マリンズ	78
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ニール カー	80
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マシュー ケーパー	81
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マーティン オイクル	82
イングリッシュ プレゼンテーション I b	アレク ニール	83
English Language Teaching	齋 藤 安以子	84
インターンシップ I	石 井 三 恵	1136
インターンシップ II	石 井 三 恵	1137
Integrated Skills Training	鳥 居 祐 介	85
Integrated Skills Training	松 田 早 恵	86
インドネシア・マレー語圏概論	森 田 良 成	87
インドネシア・マレー語圏近現代史	森 田 良 成	88
インドネシア・マレー語圏の諸言語	山 口 真佐夫	89
インドネシア・マレー社会論	上 田 達	90
インドネシア語 I	山 口 玲 子	1047
インドネシア語 I	エニ レスタリ	1048
インドネシア語 II	エニ レスタリ	1049
インドネシア語 II	山 口 玲 子	1050
インドネシア語 II a	山 口 玲 子	91
インドネシア語 II b	エニ レスタリ	92
インドネシア語 III a	山 口 真佐夫	93
インドネシア語 III b	山 口 真佐夫	94
インドネシア語 IV a	浦 野 崇 央	95
インドネシア語 IV b	浦 野 崇 央	96
インドネシア語コムニカシ II a	エニ レスタリ	97
インドネシア語コムニカシ II b	エニ レスタリ	99
インドネシア語コムニカシ I a	エニ レスタリ	100
インドネシア語コムニカシ I b	エニ レスタリ	101
インドネシア語コムニカシ II a (1)	エニ レスタリ	102
インドネシア語コムニカシ II a (2)	エニ レスタリ	104
インドネシア語コムニカシ II b (1)	大 坪 紀 子	105
インドネシア語コムニカシ II b (2)	大 坪 紀 子	106
インドネシア語コムニカシ III a	大 坪 紀 子	108
インドネシア語コムニカシ III b	大 坪 紀 子	109
インドネシア語コムニカシ IV a	エニ レスタリ	110
インドネシア語コムニカシ IV b	エニ レスタリ	111
インドネシア語入門 a (1)	山 口 真佐夫	112
インドネシア語入門 a (2)	浦 野 崇 央	113
インドネシア語入門 b (1)	山 口 真佐夫	114
インドネシア語入門 b (2)	浦 野 崇 央	115
インドネシア語入門 b (3)	大 坪 紀 子	116
インドネシア語表現法	大 坪 紀 子	117
インドネシア語表現法 a	大 坪 紀 子	118
インドネシア語ボキャブラリー a	山 口 玲 子	119
インドネシア語ボキャブラリー b	大 坪 紀 子	120
インドネシアトピックス	大 坪 紀 子	121

<b>エ</b>		
エアラインビジネス論	塩 崎 裕 司	123
エアラインビジネス論 I	塩 崎 裕 司	125
エアラインビジネス論 II	塩 崎 裕 司	127

科目名	担当者	ページ
映画のスペイン語Ⅰ	サトウハチロー 大塚 勉	129
映画のスペイン語Ⅰ	穂原 三佳	130
映画のスペイン語Ⅰ	サトウハチロー 大塚 勉	131
映画のスペイン語Ⅰ	マツダイラ キーメル	132
映画のスペイン語Ⅱ	穂原 三佳	133
映画のスペイン語Ⅱ	サトウハチロー 大塚 勉	134
映画のスペイン語Ⅲ	オラシオ ゴメス	135
映画のスペイン語Ⅲ	ディアス イバン	136
映画のスペイン語Ⅳ	ディアス イバン	137
映画のスペイン語Ⅳ	オラシオ ゴメス	138
英語Ⅰ	東野 厚子	1051
英語Ⅰ	関 初海	1052
英語Ⅰ	小川 一美	1054
英語Ⅰ	クリストファー ジョンソン	1055
英語Ⅰ	曾我直隆	1056
英語Ⅰ	ショーン マクガバン	1058
英語Ⅰ	鈴木大介	1059
英語Ⅰ	フーパー トッド	1061
英語Ⅱ	高橋 章夫	1062
英語Ⅱ	関 初海	1063
英語Ⅱ	小川 一美	1065
英語Ⅱ	クリストファー ジョンソン	1066
英語Ⅱ	曾我直隆	1067
英語Ⅱ	ショーン マクガバン	1068
英語Ⅱ	鈴木大介	1069
英語Ⅱ	フーパー トッド	1071
英語Ⅲ	表谷 純子	1072
英語Ⅳ	表谷 純子	1073
英語意味論・語用論	後藤 一章	139
英語科教育法Ⅰ	家口 美智子	1277
英語科教育法Ⅱ	齋藤 安以子	1278
英語科教育法Ⅲ	齋藤 安以子	1280
英語科教育法Ⅳ	家口 美智子	1282
英語学Ⅰ	家口 美智子	140
英語学Ⅱ	後藤 一章	141
英語学Ⅲ	田中 秀毅	142
英語学概論	家口 美智子	143
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	神崎 舞	144
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	フーパー トッド	145
英語圏概論	神崎 舞	146
英語圏概論	フーパー トッド	147
英語構造論	田中 秀毅	148
映像中国語 a	中西 正樹	149
映像中国語 b	中西 正樹	150
英米文学	皆本 智美	152
エコツアーリズム論	原 秀禎	153
エリアスタディーズ（アフリカ）	伊東 未来	154
エリアスタディーズ（オセアニア）	杉浦 秀行	155
エリアスタディーズ（北アメリカ）	大原 関一 浩	156
エリアスタディーズ（東南アジア）	原 秀禎	157
エリアスタディーズ（日本）	赤澤 春彦	158
エリアスタディーズ（東アジア）	瀬戸 宏	159

科目名	担当者	ページ
エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	林田 敏子	160
エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	北條 ゆかり	161
エンプロイメントデザインⅠ	石井 三恵	1253
エンプロイメントデザインⅡ	水野 武	1255

## オ

オーラル コミュニケーションⅠ a	田浦 アマンダ	162
オーラル コミュニケーションⅠ a	クロー オーエン	163
オーラル コミュニケーションⅠ a	アイビス ウィリアム	164
オーラル コミュニケーションⅠ a	ジョセフ シウンシ	165
オーラル コミュニケーションⅠ a	フーパー トッド	166
オーラル コミュニケーションⅠ a	リチャード ダイアース	167
オーラル コミュニケーションⅠ a	スコット ライリー	168
オーラル コミュニケーションⅠ a	アーサー ロリングスン	170
オーラル コミュニケーションⅠ a	宮久保 まゆみ	171
オーラル コミュニケーションⅠ a	中道 英美子	172
オーラル コミュニケーションⅠ a	松下 乃重	173
オーラル コミュニケーションⅠ a	久田 歩	175
オーラル コミュニケーションⅠ a	ショーン マクガバン	176
オーラル コミュニケーションⅠ a	鈴木大介	177
オーラル コミュニケーションⅠ b	田浦 アマンダ	178
オーラル コミュニケーションⅠ b	クロー オーエン	179
オーラル コミュニケーションⅠ b	アイビス ウィリアム	180
オーラル コミュニケーションⅠ b	ジョセフ シウンシ	181
オーラル コミュニケーションⅠ b	フーパー トッド	182
オーラル コミュニケーションⅠ b	リチャード ダイアース	183
オーラル コミュニケーションⅠ b	スコット ライリー	184
オーラル コミュニケーションⅠ b	アーサー ロリングスン	185
オーラル コミュニケーションⅠ b	宮久保 まゆみ	186
オーラル コミュニケーションⅠ b	中道 英美子	187
オーラル コミュニケーションⅠ b	松下 乃重	188
オーラル コミュニケーションⅠ b	久田 歩	189
オーラル コミュニケーションⅠ b	ショーン マクガバン	190
オーラル コミュニケーションⅠ b	鈴木大介	191
オーラル コミュニケーションⅡ a	ステイブ トマシェフスキー	192
オーラル コミュニケーションⅡ a	曾我直隆	194
オーラル コミュニケーションⅡ b	ステイブ トマシェフスキー	195
オーラル コミュニケーションⅡ b	曾我直隆	197
音声学	中島 直嗣	198

## カ

海外インターンシップ	岩間 香	199
海外実習	マイケル ハーキー	200
海外実習	兪 鳴蒙	201
海外実習	篠原 愛人	202
海外実習	北條 ゆかり	203
海外実習	山口 真佐夫	204
海外留学事前演習	住吉 誠	205
海外留学事前演習	天野 貴史	207
海外留学事前演習	神崎 舞	208
海外留学事前演習	後藤 一章	209
海外留学事前演習	西川 真由美	211

科目名	担当者	ページ
海外留学事前演習	兪 鳴 蒙	212
海外留学事前演習	杉 浦 秀 行	213
海外留学事前演習	北 條 ゆかり	214
海外留学事前演習	安 達 直 樹	215
海外留学事前演習	浦 野 崇 央	216
海外留学事前演習	上 田 達	217
海外ワークキャンプ	浅 野 英 一	218
カレント イングリッシュ a	サトラー トニー	219
カレント イングリッシュ b	サトラー トニー	221
環境学	原 秀 禎	1139
観光中国語 a	孫 輝	222
観光中国語 b	孫 輝	223
韓国語 I	千 英 子	1074
韓国語 I	沈 明 姫	1075
韓国語 II	千 英 子	1076
韓国語 II	沈 明 姫	1077
韓国語 II a	千 英 子	224
韓国語 II a	沈 明 姫	225
韓国語 II b	千 英 子	226
韓国語 II b	沈 明 姫	227
韓国語 III a	北 島 由紀子	229
韓国語 III b	北 島 由紀子	230
韓国語 IV a	千 英 子	231
韓国語 IV b	千 英 子	232
歓待の哲学	森 本 誠 一	233

## キ

基礎演習 I	北 條 ゆかり	235
基礎演習 I	神 崎 舞	236
基礎演習 I	兪 鳴 蒙	237
基礎演習 I	赤 澤 春 彦	238
基礎演習 I	大原関 一 浩	239
基礎演習 I	神 崎 舞	240
基礎演習 I	田浦 アマンダ	241
基礎演習 I	フーバー トッド	242
基礎演習 I	中 島 直 嗣	243
基礎演習 I	兪 鳴 蒙	244
基礎演習 I	橋 本 正 俊	245
基礎演習 I	林 田 敏 子	246
基礎演習 I	マイケル ハーキー	247
基礎演習 I	門 脇 薫	248
基礎演習 I	西 川 眞由美	249
基礎演習 I	有 馬 善 一	250
基礎演習 I	住 吉 誠	251
基礎演習 I	門 脇 薫	252
基礎演習 II	フーバー トッド	253
基礎演習 II	天 野 貴 史	254
基礎演習 II	原 秀 禎	255
基礎演習 II	小 川 豊 生	256
基礎演習 II	松 田 早 恵	257
基礎演習 II	田浦 アマンダ	258
基礎演習 II	岩 間 香	259

科目名	担当者	ページ
基礎演習 II	門 脇 薫	260
基礎演習 II	浦 野 崇 央	261
基礎演習 II	大原関 一 浩	262
基礎演習 II	橋 本 正 俊	263
基礎演習 II	吉 村 征 洋	264
基礎演習 II	山 口 真佐夫	265
基礎演習 II	後 藤 一 章	266
基礎演習 II	大原関 一 浩	267
基礎演習 II	齋 藤 安以子	268
基礎演習 II	橋 本 正 俊	269
基礎演習 II	中 西 正 樹	270
基礎教養演習 II a	原 秀 禎	271
基礎教養演習 II b	赤 澤 春 彦	272
基礎ゼミナール	赤 澤 春 彦	273
基礎ゼミナール	浅 野 英 一	274
基礎ゼミナール	安 達 直 樹	275
基礎ゼミナール	天 野 貴 史	276
基礎ゼミナール	有 馬 善 一	277
基礎ゼミナール	上 田 達	278
基礎ゼミナール	門 脇 薫	279
基礎ゼミナール	神 崎 舞	280
基礎ゼミナール	後 藤 一 章	281
基礎ゼミナール	鈴 木 大 介	282
基礎ゼミナール	住 吉 誠	283
基礎ゼミナール	瀬 戸 宏	284
基礎ゼミナール	鳥 居 祐 介	285
基礎ゼミナール	中 島 直 嗣	286
基礎ゼミナール	橋 本 正 俊	287
基礎ゼミナール	林 田 敏 子	288
基礎ゼミナール	松 田 早 恵	289
基礎ゼミナール	皆 本 智 美	290
基礎マレー語 a	上 田 達	291
基礎マレー語 b	上 田 達	292
北河内を知る	尾 山 廣	1140
キャリアデザイン	亀 田 峻 宣	1257
キャリアプランニング	中 西 正 樹	1259
キャリアプランニング	田浦 アマンダ	1261
キャリアプランニング	赤 澤 春 彦	1263
教育課程論	大 野 順 子	1283
教育経営論	朝 日 素 明	1285
教育原理	小 山 裕 樹	1287
教育実習 I	大 野 順 子	1289
教育実習 II	朝 日 素 明	1291
教育実習 III	朝 日 素 明	1292
教育社会学	大 野 順 子	1293
教育心理学	吉 田 佐治子	1295
教育相談	吉 田 佐治子	1296
教育方法論	林 茂 樹	1297
教職実践演習 (中・高)	吉 田 佐治子	1299
教師論	朝 日 素 明	1301

科目名	担当者	ページ
<b>ク</b>		
暮らしの中の文化	林 田 敏 子	293
グラマー	杉 浦 秀 行	294
クリエイティブビジネス論	針 尾 大 嗣	295
Global Issues	大原関 一 浩	297
Global Issues	久 田 歩	298
Global Issues	田浦 アマンダ	299
グローバル経済論	野 口 義 直	300

<b>ケ</b>		
経済学入門	平 野 泰 朗	1141
経済のしくみ	平 野 泰 朗	1142
芸術論	岩 間 香	1143
芸能と文化	岩 間 香	301
芸能文化論	岩 間 香	302
健康科学	藤 林 真 美	1145
健康論	西 村 和 恵	1079
言語学	山 口 真佐夫	303
現代学術論	小 川 豊 生	304
現代社会と法	小 野 晃 正	1147
現代社会論	浦 野 崇 央	305
現代中国論	大 西 紀	306
現代東南アジア論	上 田 達	307
現代ラテンアメリカ論	北 條 ゆかり	308

<b>コ</b>		
国際関係の基礎理解	早 川 真 悠	309
国際関係論	早 川 真 悠	310
国際機構論	浅 野 英 一	311
国際協力論	浅 野 英 一	312
国際貢献実習演習	浅 野 英 一	313
国際社会論	有 馬 善 一	314
国際文化概論 I	有 馬 善 一	315
国際文化概論 II	赤 澤 春 彦	316
国際平和論	伊 東 未 来	317
国際ボランティア論	浅 野 英 一	318
ことばと意味	西 川 真由美	319

<b>シ</b>		
視覚芸術論	中 川 馨	320
時事インドネシア・マレー語 a	上 田 達	321
時事インドネシア・マレー語 b	浦 野 崇 央	323
時事問題 I	西 垣 有	1080
時事問題 I	堂 馬 隆 之	1081
時事問題 I	早 川 真 悠	1082
時事問題 I	伊 東 未 来	1083
時事問題 II	西 垣 有	1084
時事問題 II	堂 馬 隆 之	1085
時事問題 II	早 川 真 悠	1086
時事問題 II	伊 東 未 来	1087
自然科学の理解	青 笹 治	1149

科目名	担当者	ページ
自然科学の理解	坂 本 淳 二	1151
自然科学の理解	西 惠 理	1152
自然科学の理解	安 井 幸 則	1154
思想と文化	小 川 豊 生	324
実践インドネシア・マレー語 a	大 坪 紀 子	325
実践インドネシア・マレー語 b	上 田 達	326
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1156
就職実践基礎	永 見 誠 二	1157
就職実践基礎	津 村 忠	1158
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1159
生涯学習概論	橋 本 孝 成	327
生涯学習論	橋 本 孝 成	328
上級検定インドネシア語	山 口 玲 子	329
情報処理 I	星 山 幸 子	1088
情報処理 I	藤 木 健 史	1089
情報処理 I	星 山 幸 子	1090
情報処理 I	藤 木 健 史	1091
情報処理 II	星 山 幸 子	1092
情報処理 II	藤 木 健 史	1094
情報処理 II	星 山 幸 子	1095
情報処理 II	藤 木 健 史	1096
初級検定インドネシア語	山 口 玲 子	330
食品機能学	青 笹 治	1160
初年次ゼミナール	赤 澤 春 彦	331
初年次ゼミナール	浅 野 英 一	332
初年次ゼミナール	天 野 貴 史	333
初年次ゼミナール	有 馬 善 一	334
初年次ゼミナール	岩 間 香	335
初年次ゼミナール	浦 野 崇 央	336
初年次ゼミナール	大原関 一 浩	337
初年次ゼミナール	小 川 豊 生	338
初年次ゼミナール	門 脇 薫	339
初年次ゼミナール	神 崎 舞	340
初年次ゼミナール	篠 原 愛 人	341
初年次ゼミナール	杉 浦 秀 行	342
初年次ゼミナール	田 中 秀 毅	343
初年次ゼミナール	中 西 正 樹	344
初年次ゼミナール	橋 本 正 俊	345
初年次ゼミナール	林 田 敏 子	346
初年次ゼミナール	山 口 真佐夫	347
初年次ゼミナール	吉 村 征 洋	348
人体の構造と機能	松 浦 哲 郎	1161
心理学	吉 田 佐治子	1162

<b>ス</b>		
数的能力開発	山 岡 亮 太	1265
スキルズ トレーニング I a	吉 村 征 洋	349
スキルズ トレーニング I b	ショーン マクガバン	350
スキルズ トレーニング a	鳥 居 祐 介	351
スキルズ トレーニング a	神 崎 舞	352
スキルズ トレーニング a	田 中 秀 毅	353
スキルズ トレーニング a	松 田 早 恵	354

科目名	担当者	ページ
スキルズ トレーニング a	後藤 一章	355
スキルズ トレーニング a	吉村 征洋	356
スキルズ トレーニング b	松田 早恵	357
スキルズ トレーニング b	後藤 一章	358
スキルズ トレーニング b	鳥居 祐介	359
スキルズ トレーニング b	田中 秀毅	360
スキルズ トレーニング b	神崎 舞	361
スキルズ トレーニング b	大原 関一 浩	362
スキルズ トレーニング b	ショーン マクガバン	363
スピーキング I a	ジョセフ シウンシ	364
スピーキング I b	ジョセフ シウンシ	366
スピーキング II a	グラント バーミンハム	368
スピーキング II b	グラント バーミンハム	369
スピーキング&ライティング I a	マイケル ハーキー	370
スピーキング&ライティング I a	フーパー トッド	371
スピーキング&ライティング I a	マシュー クーパー	372
スピーキング&ライティング I a	アレン ニール	374
スピーキング&ライティング I a	ニール カー	375
スピーキング&ライティング I a	ジェーン パーメンター	376
スピーキング&ライティング I a	ダニエル マリンズ	377
スピーキング&ライティング I a	マーティン オイクル	378
スピーキング&ライティング I a	グラント バーミンハム	379
スピーキング&ライティング I a	ショーン マクガバン	380
スピーキング&ライティング I a	ジョセフ シウンシ	381
スピーキング&ライティング I b	マイケル ハーキー	382
スピーキング&ライティング I b	マシュー クーパー	383
スピーキング&ライティング I b	グラント バーミンハム	385
スピーキング&ライティング I b	マーティン オイクル	386
スピーキング&ライティング I b	ダニエル マリンズ	387
スピーキング&ライティング I b	ニール カー	388
スピーキング&ライティング I b	ジェーン パーメンター	389
スピーキング&ライティング I b	アレン ニール	390
スピーキング&ライティング I b	ショーン マクガバン	391
スピーキング&ライティング I b	リチャード ダイアース	392
スピーキング&ライティング I b	ジェフリー ベル	393
スピーキング&ライティング I b	フーパー トッド	394
スピーキング&ライティング I b	ジョセフ シウンシ	395
スピーキング&ライティング II a	マイケル ハーキー	396
スピーキング&ライティング II a	田浦 アマンダ	397
スピーキング&ライティング II a	フーパー トッド	398
スピーキング&ライティング II a	ブルース ライリー	399
スピーキング&ライティング II a	ジョン カール	400
スピーキング&ライティング II a	グラント バーミンハム	401
スピーキング&ライティング II a	プライアン スレーター	402
スピーキング&ライティング II a	アイビス ウイリアム	403
スピーキング&ライティング II b	マイケル ハーキー	404
スピーキング&ライティング II b	田浦 アマンダ	405
スピーキング&ライティング II b	フーパー トッド	406
スピーキング&ライティング II b	ブルース ライリー	407
スピーキング&ライティング II b	ジョン カール	408
スピーキング&ライティング II b	グラント バーミンハム	409
スピーキング&ライティング II b	プライアン スレーター	410

科目名	担当者	ページ
スピーキング&ライティング II b	アイビス ウイリアム	411
スペイン語 I	穂原 三佳	1097
スペイン語 I	ササド 七花 ダニエル 久	1098
スペイン語 I	マツダイラ キーメル	1099
スペイン語 II	ササド 七花 ダニエル 久	1100
スペイン語 II	マツダイラ キーメル	1101
スペイン語 II	穂原 三佳	1102
スペイン語 II a	穂原 三佳	412
スペイン語 II b	ササド 七花 ダニエル 久	413
スペイン語 III a	岡 あゆみ	414
スペイン語 III b	岡 あゆみ	415
スペイン語 IV a	ササド 七花 ダニエル 久	416
スペイン語 IV b	ササド 七花 ダニエル 久	417
スペイン語応用 I	磯野 吉美	418
スペイン語応用 I	酒井 真梨奈	419
スペイン語応用 I	西村 初美	420
スペイン語応用 II	酒井 真梨奈	421
スペイン語応用 II	西村 初美	422
スペイン語応用 II	磯野 吉美	423
スペイン語オラル II A	宮多良 ディスネル	424
スペイン語オラル II A	オラシオ ゴメス	426
スペイン語オラル I	オラシオ ゴメス	428
スペイン語オラル I	ササド 七花 ダニエル 久	430
スペイン語オラル I	宮多良 ディスネル	432
スペイン語オラル I	ディアス イバン	434
スペイン語オラル II	宮多良 ディスネル	436
スペイン語オラル II	ディアス イバン	438
スペイン語オラル II	オラシオ ゴメス	440
スペイン語オラル II	ササド 七花 ダニエル 久	442
スペイン語オラル III	トロヌ カルラ	444
スペイン語オラル III	宮多良 ディスネル	445
スペイン語オラル III	ササド 七花 ダニエル 久	446
スペイン語オラル IV	宮多良 ディスネル	447
スペイン語オラル IV	ササド 七花 ダニエル 久	448
スペイン語オラル IV	トロヌ カルラ	449
スペイン語オラル I A	オラシオ ゴメス	450
スペイン語オラル I A	宮多良 ディスネル	452
スペイン語オラル III A	トロヌ カルラ	454
スペイン語オラル III A	宮多良 ディスネル	455
スペイン語オラル III B	マツダイラ キーメル	456
スペイン語オラル IV A	宮多良 ディスネル	457
スペイン語オラル IV A	ササド 七花 ダニエル 久	458
スペイン語オラル IV B	マツダイラ キーメル	459
スペイン語オラル V	ディアス イバン	460
スペイン語オラル V	トロヌ カルラ	461
スペイン語オラル VI	トロヌ カルラ	462
スペイン語オラル VI	ディアス イバン	463
スペイン語オラル VII	オラシオ ゴメス	464
スペイン語オラル VIII	オラシオ ゴメス	465
スペイン語学	安達 直樹	466
スペイン語基礎 A	西村 初美	467
スペイン語基礎 A	岡 あゆみ	468

科目名	担当者	ページ
スペイン語基礎A	西村 初美	469
スペイン語基礎A	岡 あゆみ	470
スペイン語基礎A	北條 ゆかり	471
スペイン語基礎B	宮多良 ディスネル	472
スペイン語基礎B	篠原 愛人	473
スペイン語基礎B	宮多良 ディスネル	474
スペイン語基礎B	篠原 愛人	475
スペイン語基礎B	三浦 知佐子	476
スペイン語基礎C	安達 直樹	477
スペイン語基礎C	酒井 真梨奈	478
スペイン語基礎C	安達 直樹	479
スペイン語基礎C	酒井 真梨奈	480
スペイン語基礎C	穂原 三佳	481
スペイン語圏概論	篠原 愛人	482
スペイン語圏トピックスⅢ	林 安紀子	483
スペイン語圏トピックスⅣ	北條 ゆかり	484
スペイン語圏トピックスⅣ	林 安紀子	485
スペイン語圏の芸術	オラシオ ゴメス	486
スペイン語講読Ⅰ	宮多良 ディスネル	487
スペイン語講読Ⅰ	三浦 知佐子	488
スペイン語講読Ⅱ	三浦 知佐子	489
スペイン語講読Ⅱ	篠原 愛人	490
スペイン語総合A	北條 ゆかり	491
スペイン語総合A	西村 初美	492
スペイン語総合A	岡 あゆみ	493
スペイン語総合B	三浦 知佐子	494
スペイン語総合B	篠原 愛人	495
スペイン語総合B	宮多良 ディスネル	496
スペイン語通訳ガイドⅠ	安達 直樹	497
スペイン語通訳ガイドⅠ	篠原 愛人	498
スペイン語通訳ガイドⅡ	篠原 愛人	499
スペイン語通訳ガイドⅡ	安達 直樹	500
スペイン語トピックス	北條 ゆかり	501
スペイン語トピックス	林 安紀子	502
スペイン語入門A	北條 ゆかり	503
スペイン語入門A	西村 初美	504
スペイン語入門A	北條 ゆかり	505
スペイン語入門A	西村 初美	506
スペイン語入門A	岡 あゆみ	507
スペイン語入門B	三浦 知佐子	508
スペイン語入門B	宮多良 ディスネル	509
スペイン語入門B	三浦 知佐子	510
スペイン語入門B	宮多良 ディスネル	511
スペイン語入門B	篠原 愛人	512
スペイン語入門C	穂原 三佳	513
スペイン語入門C	安達 直樹	514
スペイン語入門C	穂原 三佳	515
スペイン語入門C	安達 直樹	516
スペイン語入門C	酒井 真梨奈	517
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	518
スペイン語文章構成Ⅰ	安達 直樹	520
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	522

科目名	担当者	ページ
スペイン語文章構成Ⅰ	安達 直樹	524
スペイン語文章構成Ⅰ	北條 ゆかり	526
スペイン語文章構成Ⅱ	安達 直樹	528
スペイン語文章構成Ⅱ	北條 ゆかり	529
スペイン語文章構成Ⅱ	安達 直樹	530
スペイン語文章構成Ⅱ	北條 ゆかり	531
スペイン語文章構成Ⅱ	林 安紀子	532
スペイン語文章構成Ⅲ	磯野 吉美	533
スペイン語文章構成Ⅲ	安達 直樹	534
スペイン語文章構成Ⅳ	安達 直樹	535
スペイン語文章構成Ⅳ	磯野 吉美	536
スペイン語翻訳	北條 ゆかり	537
スペインの社会と文化	安達 直樹	538
スペシャリストインドネシア・マレー語	山口 玲子	539
スポーツ科学実習Ⅰ	川野 裕姫子	1103
スポーツ科学実習Ⅰ	川野 裕姫子	1104
スポーツ科学実習Ⅰ	横山 喬之	1163
スポーツ科学実習Ⅱ	川野 裕姫子	1105
スポーツ科学実習Ⅱ	川野 裕姫子	1106
スポーツ科学実習Ⅱ	横山 喬之	1164
住まいとデザイン	北本 裕之	1165
住まいとデザイン	鄭 弼溶	1167

## セ

生活のなかの数学	小林 俊公	1169
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英一	1170
生徒指導論	朝日 素明	1302
生命科学入門	大塚 正人	1171
生命と物質	松浦 哲郎	1173
世界の宗教	村上 司樹	540
世界の政治	森田 良成	1174
世界の地理	今野 泰三	541
世界の文化の比較	村上 司樹	543
世界の歴史	林田 敏子	544
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本 正治	1175
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田 裕子	1176
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野 英一	1177
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保 貞也	1178
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂 貴恵	1179
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色 美博	1181
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	田中 賢太郎	1182
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鳥居 祐介	1183
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	天野 貴史	1184
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木 紀哉	1185
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	安久 典宏	1186
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井 信輝	1187
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	内 部 昭彦	1188
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林 真美	1189
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	荻田 喜代一	1190
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本 正治	1191
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田 裕子	1192
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野 英一	1193



科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトII	久保貞也	1194
摂南大学PBLプロジェクトII	鶴坂貴恵	1195
摂南大学PBLプロジェクトII	一色美博	1197
摂南大学PBLプロジェクトII	田中賢太郎	1198
摂南大学PBLプロジェクトII	鳥居祐介	1199
摂南大学PBLプロジェクトII	天野貴史	1200
摂南大学PBLプロジェクトII	栢木紀哉	1201
摂南大学PBLプロジェクトII	安久典宏	1202
摂南大学PBLプロジェクトII	石井信輝	1203
摂南大学PBLプロジェクトII	内 部 昭 彦	1204
摂南大学PBLプロジェクトII	藤 林 真 美	1205
摂南大学PBLプロジェクトII	荻 田 喜代一	1206
専門日本語F I	中 岡 樹 里	1107
専門日本語F II	中 岡 樹 里	1108
専門日本語R	中 岡 樹 里	1109

## ソ

総合インドネシア語 a (1)	浦 野 崇 央	545
総合インドネシア語 a (2)	山 口 真 佐 夫	546
総合インドネシア語 b (1)	浦 野 崇 央	547
総合インドネシア語 b (2)	山 口 真 佐 夫	548
総合スペイン語 I	磯 野 吉 美	549
総合スペイン語 I	酒 井 真 梨 奈	550
総合スペイン語 II	酒 井 真 梨 奈	551
総合スペイン語 II	西 村 初 美	552
総合スペイン語 III A	北 條 ゆかり	553
総合スペイン語 III A	西 村 初 美	554
総合スペイン語 III B	三 浦 知 佐 子	555
総合スペイン語 III B	篠 原 愛 人	556
総合中国語 a	段 飛 虹	557
総合中国語 b	段 飛 虹	558
総合マレー語 a	上 田 達	559
総合マレー語 b	上 田 達	560
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	1207
組織と経営	西 之 坊 穂	1209
卒業研究 I	赤 澤 春 彦	561
卒業研究 I	浅 野 英 一	562
卒業研究 I	天 野 貴 史	563
卒業研究 I	有 馬 善 一	564
卒業研究 I	岩 間 香	565
卒業研究 I	上 田 達	566
卒業研究 I	浦 野 崇 央	567
卒業研究 I	小 川 豊 生	568
卒業研究 I	門 脇 薫	569
卒業研究 I	後 藤 一 章	570
卒業研究 I	齋 藤 安 以 子	571
卒業研究 I	篠 原 愛 人	572
卒業研究 I	ショーン マクガバン	573
卒業研究 I	住 吉 誠	574
卒業研究 I	瀬 戸 宏	575
卒業研究 I	田 浦 アマンダ	576
卒業研究 I	田 中 秀 毅	577

科目名	担当者	ページ
卒業研究 I	鳥 居 祐 介	578
卒業研究 I	中 島 直 嗣	579
卒業研究 I	中 西 正 樹	580
卒業研究 I	西 川 眞 由 美	581
卒業研究 I	橋 本 正 俊	582
卒業研究 I	林 田 敏 子	583
卒業研究 I	原 秀 禎	584
卒業研究 I	北 條 ゆかり	585
卒業研究 I	マイケル ハーキー	586
卒業研究 I	松 田 早 恵	587
卒業研究 I	皆 本 智 美	588
卒業研究 I	家 口 美 智 子	589
卒業研究 I	兪 鳴 蒙	590
卒業研究 I	吉 村 征 洋	591
卒業研究 I	山 口 真 佐 夫	592
卒業研究 II	赤 澤 春 彦	593
卒業研究 II	浅 野 英 一	594
卒業研究 II	天 野 貴 史	595
卒業研究 II	有 馬 善 一	596
卒業研究 II	岩 間 香	597
卒業研究 II	上 田 達	598
卒業研究 II	浦 野 崇 央	599
卒業研究 II	小 川 豊 生	600
卒業研究 II	門 脇 薫	601
卒業研究 II	後 藤 一 章	602
卒業研究 II	齋 藤 安 以 子	603
卒業研究 II	篠 原 愛 人	604
卒業研究 II	ショーン マクガバン	605
卒業研究 II	住 吉 誠	606
卒業研究 II	瀬 戸 宏	607
卒業研究 II	田 浦 アマンダ	608
卒業研究 II	田 中 秀 毅	609
卒業研究 II	鳥 居 祐 介	610
卒業研究 II	中 島 直 嗣	611
卒業研究 II	中 西 正 樹	612
卒業研究 II	西 川 眞 由 美	613
卒業研究 II	橋 本 正 俊	614
卒業研究 II	林 田 敏 子	615
卒業研究 II	原 秀 禎	616
卒業研究 II	北 條 ゆかり	617
卒業研究 II	マイケル ハーキー	618
卒業研究 II	松 田 早 恵	619
卒業研究 II	皆 本 智 美	620
卒業研究 II	家 口 美 智 子	621
卒業研究 II	兪 鳴 蒙	622
卒業研究 II	吉 村 征 洋	623
卒業研究 II	山 口 真 佐 夫	624

## タ

体験型特別実習 A	沖 中 美 喜	625
体験型特別実習 B	中 西 正 樹	626
大衆文化論	森 本 誠 一	627

科目名	担当者	ページ
ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	1211
旅と観光の地理	原秀禎	629
旅の文学	小川豊生	630
多文化の共生	林田敏子	631

## チ

地域環境論	原秀禎	632
地域研究論	森田良成	633
地域と国際ビジネス	中島直嗣	634
地域と私	鶴坂貴恵	1213
地域連携教育活動Ⅰ	浅野英一	1215
地域連携教育活動Ⅱ	浅野英一	1216
チームビルディング	水野武	1217
中級検定インドネシア語	山口玲子	636
中国語Ⅰ	兪鳴蒙	1110
中国語Ⅰ	今中崇文	1111
中国語Ⅱ	兪鳴蒙	1112
中国語Ⅱ	今中崇文	1113
中国語Ⅱ a	兪鳴蒙	637
中国語Ⅱ a	今中崇文	638
中国語Ⅱ b	兪鳴蒙	639
中国語Ⅱ b	今中崇文	640
中国語Ⅲ a	欒玉璽	641
中国語Ⅲ b	欒玉璽	642
中国語Ⅳ a	今中崇文	643
中国語Ⅳ b	今中崇文	644
中国語 L L I a	馮艶	645
中国語 L L I b	馮艶	646
中国語 L L II a	馮艶	647
中国語 L L II b	馮艶	648
中国語科教育法Ⅰ	瀬戸宏	1303
中国語科教育法Ⅱ	中西正樹	1304
中国語科教育法Ⅲ	瀬戸宏	1306
中国語科教育法Ⅳ	兪鳴蒙	1307
中国語圏概論	今中崇文	649
中国語会話Ⅰ a	曹櫻	650
中国語会話Ⅰ b	曹櫻	651
中国語会話Ⅱ a	欒玉璽	652
中国語会話Ⅱ b	欒玉璽	653
中国語会話表現法Ⅰ a	曹櫻	654
中国語会話表現法Ⅰ b	曹櫻	655
中国語会話表現法Ⅱ a	孫輝	656
中国語会話表現法Ⅱ b	孫輝	657
中国語学Ⅰ	中西正樹	659
中国語学Ⅱ	兪鳴蒙	660
中国語研究	兪鳴蒙	661
中国語原書講読Ⅰ a	大西紀	662
中国語原書講読Ⅰ b	大西紀	663
中国語原書講読Ⅱ a	李英杰	664
中国語原書講読Ⅱ b	李英杰	665
中国語講読Ⅰ a	瀬戸宏	666
中国語講読Ⅰ b	瀬戸宏	667

科目名	担当者	ページ
中国語講読Ⅱ a	段飛虹	668
中国語講読Ⅱ b	段飛虹	669
中国語コミュニケーション a	李英杰	670
中国語コミュニケーション b	李英杰	671
中国語作文Ⅰ a	兪鳴蒙	672
中国語作文Ⅰ b	兪鳴蒙	673
中国語作文Ⅱ a	李英杰	674
中国語作文Ⅱ b	李英杰	675
中国語視聴専科 a	中西正樹	676
中国語視聴専科 b	中西正樹	677
中国語トピックス a	馮艶	679
中国語トピックス b	馮艶	680
中国語を書くⅠ a	兪鳴蒙	681
中国語を書くⅠ b	兪鳴蒙	682
中国語を書くⅡ a	李英杰	683
中国語を書くⅡ b	李英杰	684
中国語を聞くⅠ a	馮艶	685
中国語を聞くⅠ a	兪鳴蒙	686
中国語を聞くⅠ b	馮艶	687
中国語を聞くⅠ b	兪鳴蒙	688
中国語を聞くⅡ a	馮艶	689
中国語を聞くⅡ b	馮艶	690
中国語を話すⅠ a	曹櫻	691
中国語を話すⅠ a	中西正樹	692
中国語を話すⅠ b	曹櫻	693
中国語を話すⅠ b	中西正樹	694
中国語を話すⅡ a	欒玉璽	695
中国語を話すⅡ b	欒玉璽	696
中国語を読むⅠ a	瀬戸宏	697
中国語を読むⅠ b	瀬戸宏	698
中国語を読むⅡ a	段飛虹	699
中国語を読むⅡ b	段飛虹	700
中国史学	森川裕貫	701
中国地誌学	瀬戸宏	702
中国文学	瀬戸宏	703

## ツ

通訳・翻訳インドネシア・マレー語	山口真佐夫	704
ツーリズム論Ⅰ	原秀禎	705
ツーリズム論Ⅱ	塩崎裕司	706

## テ

ディスプレイ論	毛呂祐子	708
ディスプレイ論	毛呂祐子	709
ディベート	住吉誠	710
ディベート	ニールカー	711
ディベート	ジェフリーベル	712
哲学から学ぶ	有馬善一	1218

## ト

統計学	星山幸子	1219
道徳教育の研究	小山裕樹	1308

科目名	担当者	ページ
東南アジア史学	森田良成	713
東南アジア人類学	森田良成	714
東南アジア地誌学	原秀禎	715
東南アジア文化論	大坪紀子	716
特別活動の理論と方法	林茂樹	1310
トピック スタディーズI	アレン ニール	718
トピック スタディーズI	吉村征洋	719
トピック スタディーズI	ニール カー	720
トピック スタディーズI	サトラー トニー	721
トピック スタディーズI a	ニール カー	722
トピック スタディーズI a	プライアン スレーター	723
トピック スタディーズI a	サトラー トニー	725
トピック スタディーズI a	アレン ニール	726
トピック スタディーズI b	アレン ニール	727
トピック スタディーズI b	吉村征洋	728
トピック スタディーズI b	ニール カー	729
トピック スタディーズI b	サトラー トニー	730
トピック スタディーズII	ジョセフ シウンシ	731
トピック スタディーズII	谷脇康子	732
トピック スタディーズII	アーサー ロリングスン	734
トピック スタディーズII	アイビス ウイリアム	735
トピック スタディーズII a	フーパー トッド	736
トピック スタディーズII a	谷脇康子	737
トピック スタディーズII a	クロー オーエン	738
トピック スタディーズII a	リチャード ダイアース	739
トピック スタディーズII b	ジョセフ シウンシ	740
トピック スタディーズII b	谷脇康子	741
トピック スタディーズII b	アーサー ロリングスン	743
トピック スタディーズII b	アイビス ウイリアム	744
トピック スタディーズIII	皆本智美	745
トピック スタディーズIII	マイケル ハーキー	746
トピック スタディーズIII	松下乃亜	747
トピック スタディーズIII	中野華子	748
ドラマ	神崎舞	749
ドラマ	マーティン オイクル	750
ドラマ	ダニエル マリンズ	751
ドラマ	ニール カー	753
ドラマ	マシュー クーパー	754
ドラマI	神崎舞	755
ドラマI	マーティン オイクル	756
ドラマI	ダニエル マリンズ	757
ドラマI	ニール カー	759
ドラマI	マシュー クーパー	760
ドラマII	田浦アマンダ	761
ドラマII	吉村征洋	762
トランスレーション トレーニングa	久田歩	763
トランスレーション トレーニングa	湊由妃子	764
トランスレーション トレーニングa	瀧川宏樹	765
トランスレーション トレーニングa	内山知美	766
トランスレーション トレーニングa	鈴木三千代	767
トランスレーション トレーニングb	久田歩	768
トランスレーション トレーニングb	湊由妃子	769

科目名	担当者	ページ
トランスレーション トレーニングb	瀧川宏樹	770
トランスレーション トレーニングb	内山知美	771
トランスレーション トレーニングb	鈴木三千代	772
—		
日常の謎を解く心理学	牧野幸志	1220
日米関係論	有馬善一	773
日米比較文化	鳥居祐介	774
日米文化交流史	鳥居祐介	776
日中関係論	大西紀	778
日中観光文化と通訳法	中西正樹	779
日中翻訳法II a	曹櫻	781
日中翻訳法II b	曹櫻	783
日本語音韻論	橋本正俊	785
日本語会話F I	高井美穂	1114
日本語会話F II	高井美穂	1115
日本語会話R	高井美穂	1116
日本語学I	橋本正俊	786
日本語学II	橋本正俊	787
日本語学III	小川豊生	788
日本語教育実習演習	門脇薫	789
日本語教授法I	門脇薫	790
日本語教授法II	藤原京佳	791
日本語教授法III	宮崎玲子	792
日本国憲法	小野晃正	1221
日本語史概説	橋本正俊	793
日本語上級会話F I	高井美穂	794
日本語上級会話F II	高井美穂	795
日本語上級作文F I	中岡樹里	796
日本語上級作文F II	中岡樹里	797
日本語上級読解F I	古川由理子	798
日本語上級読解F II	古川由理子	799
日本語総合F I	古川由理子	1117
日本語総合F II	古川由理子	1118
日本語総合R	古川由理子	1119
日本語読解F I	中岡樹里	1223
日本語読解F II	中岡樹里	1120
日本語読解R	中岡樹里	1121
日本語能力開発I	澤野加奈	1266
日本語能力開発I	高嶋藍	1267
日本語能力開発I	田中教子	1268
日本語能力開発I	人形寺英利子	1269
日本語能力開発II	澤野加奈	1270
日本語能力開発II	高嶋藍	1271
日本語能力開発II	田中教子	1272
日本語能力開発II	人形寺英利子	1273
日本語表現作文F I	中岡樹里	1122
日本語表現作文F II	中岡樹里	1123
日本語表現作文R	中岡樹里	1124
日本語表現論	橋本正俊	800
日本語文法F I	中岡樹里	1125
日本語文法F II	中岡樹里	1126

科目名	担当者	ページ
日本語文法R	中 岡 樹 里	1127
日本史学	赤 澤 春 彦	801
日本史学	赤 澤 春 彦	1224
日本事情 F I	門 脇 薫	1128
日本事情 F II	門 脇 薫	1129
日本事情 R I	門 脇 薫	1130
日本事情 R II	門 脇 薫	1131
日本と世界の出会	村 上 司 樹	802
日本の思想	中 村 翼	803
日本の歴史	赤 澤 春 彦	804
日本文学	小 川 豊 生	805
人間の探求	池 田 清	1225

## ハ

博物館概論	谷 直 樹	806
博物館学 I	谷 直 樹	808
博物館学 II	岩 間 香	810
博物館学 III	赤 澤 春 彦	811
博物館教育論	毛 呂 祐 子	812
博物館実習	赤 澤 春 彦	814
博物館情報・メディア論	中 川 馨	815
博物館資料保存論	赤 澤 春 彦	816
博物館資料論	岩 間 香	817
パブリックスピーキング a	ステイブ トマシェフスキー	819
パブリックスピーキング a	ショーン マクガバン	821
パブリックスピーキング b	ステイブ トマシェフスキー	822
パブリックスピーキング b	ショーン マクガバン	824
犯罪被害者の支援と法的救済	小 野 晃 正	1226

## ヒ

ビジネスイングリッシュ a	リチャード ダイアース	825
ビジネスイングリッシュ a	ジェフリー ベル	826
ビジネスイングリッシュ a	マーティン オイクル	827
ビジネスイングリッシュ a	ダニエル マリンズ	828
ビジネスイングリッシュ a	梅 田 尋 道	830
ビジネスイングリッシュ b	リチャード ダイアース	831
ビジネスイングリッシュ b	ジェフリー ベル	832
ビジネスイングリッシュ b	マーティン オイクル	833
ビジネスイングリッシュ b	ダニエル マリンズ	834
ビジネスイングリッシュ b	梅 田 尋 道	836
ビジネスインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	837
ビジネス心理学	武 居 奈緒子	838
ビジネス中国語 II a	瀬 戸 宏	839
ビジネス中国語 II b	瀬 戸 宏	840
ビジネス中国語 III a	李 英 杰	841
ビジネス中国語 III b	今 中 崇 文	842
ビジネス中国語 a	大 西 紀	843
ビジネス中国語 b	大 西 紀	844
ビジネスマナー	仁 平 章 子	1228
美術の歩み	岩 間 香	845

科目名	担当者	ページ
<b>フ</b>		
風土と地理	原 秀 禎	847
武道論	横 山 喬 之	1230
Practical English Conversation	田浦 アマンダ	848
Practical English Conversation	アイビス ウイリアム	849
Practical English Conversation	アーサー ロリングスン	850
Practical English Conversation	ジョセフ シウンシ	851
フランス語 I	中 井 裕 之	1231
フランス語 II	中 井 裕 之	1232
フランス語 II a	中 井 裕 之	852
フランス語 II b	中 井 裕 之	853
フランス語 III a	藤 本 武 司	854
フランス語 III b	藤 本 武 司	855
フランス語 IV a	中 井 裕 之	856
フランス語 IV b	中 井 裕 之	857
プレゼンテーション	フーパー トッド	858
プレゼンテーション	ダニエル マリンズ	859
プレゼンテーション	ニール カー	861
プレゼンテーション	マシュー ケーパー	862
プレゼンテーション	マーティン オイクル	863
プレゼンテーション	アレン ニール	864
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	865
プレゼンテーション論	石 井 三 恵	1233
フレッシュマンイングリッシュ	田 中 秀 毅	866
文化演習 I	天 野 貴 史	867
文化演習 I	齋 藤 安以子	868
文化演習 I	住 吉 誠	869
文化演習 I	田浦 アマンダ	870
文化演習 I	田 中 秀 毅	871
文化演習 I	鳥 居 祐 介	872
文化演習 I	西 川 眞由美	873
文化演習 I	大原関 一 浩	874
文化演習 I	家 口 美智子	875
文化演習 I	篠 原 愛 人	876
文化演習 I	北 條 ゆかり	877
文化演習 I	上 田 達	878
文化演習 I	浦 野 崇 央	879
文化演習 I	山 口 眞佐夫	880
文化演習 I	赤 澤 春 彦	881
文化演習 I	浅 野 英 一	882
文化演習 I	有 馬 善 一	883
文化演習 I	岩 間 香	884
文化演習 I	門 脇 薫	885
文化演習 I	橋 本 正 俊	886
文化演習 I	林 田 敏 子	887
文化演習 I	後 藤 一 章	888
文化演習 I	中 島 直 嗣	889
文化演習 I	マイケル ハーキー	890
文化演習 I	松 田 早 恵	891
文化演習 I	皆 本 智 美	892
文化演習 I	吉 村 征 洋	893

科目名	担当者	ページ
文化演習 I	兪 鳴 蒙	894
文化演習 I	中 西 正 樹	895
文化演習 I	瀬 戸 宏	896
文化演習 I	小 川 豊 生	897
文化演習 I	神 崎 舞	898
文化演習 II	天 野 貴 史	899
文化演習 II	齋 藤 安以子	900
文化演習 II	住 吉 誠	901
文化演習 II	田浦 アマンダ	902
文化演習 II	田 中 秀 毅	903
文化演習 II	鳥 居 祐 介	904
文化演習 II	西 川 眞由美	905
文化演習 II	大原関 一 浩	906
文化演習 II	家 口 美智子	907
文化演習 II	篠 原 愛 人	908
文化演習 II	北 條 ゆかり	909
文化演習 II	上 田 達	910
文化演習 II	浦 野 崇 央	911
文化演習 II	山 口 真佐夫	912
文化演習 II	赤 澤 春 彦	913
文化演習 II	浅 野 英 一	914
文化演習 II	有 馬 善 一	915
文化演習 II	岩 間 香	916
文化演習 II	門 脇 薫	917
文化演習 II	橋 本 正 俊	918
文化演習 II	林 田 敏 子	919
文化演習 II	後 藤 一 章	920
文化演習 II	中 島 直 嗣	921
文化演習 II	マイケル ハーキー	922
文化演習 II	松 田 早 恵	923
文化演習 II	皆 本 智 美	924
文化演習 II	吉 村 征 洋	925
文化演習 II	兪 鳴 蒙	926
文化演習 II	中 西 正 樹	927
文化演習 II	瀬 戸 宏	928
文化演習 II	小 川 豊 生	929
文化演習 II	神 崎 舞	930
文化観光実習演習	原 秀 禎	931
文化人類学	西 垣 有	1235
文化と表現	橋 本 正 俊	932

## へ

平和の思想	西 垣 有	933
-------	-------	-----

## ホ

ボキャブラリー&グラマー a	松 田 早 恵	934
ボキャブラリー&グラマー a	後 藤 一 章	935
ボキャブラリー&グラマー a	中 島 直 嗣	936
ボキャブラリー&グラマー a	齋 藤 安以子	937
ボキャブラリー&グラマー a	鳥 居 祐 介	938
ボキャブラリー&グラマー a	西 川 眞由美	939
ボキャブラリー&グラマー a	家 口 美智子	940

科目名	担当者	ページ
ボキャブラリー&グラマー a	神 崎 舞	941
ボキャブラリー&グラマー a	皆 本 智 美	942
ボキャブラリー&グラマー a	杉 浦 秀 行	943
ボキャブラリー&グラマー a	田 中 秀 毅	944
ボキャブラリー&グラマー b	西 川 眞由美	945
ボキャブラリー&グラマー b	鳥 居 祐 介	946
ボキャブラリー&グラマー b	齋 藤 安以子	947
ボキャブラリー&グラマー b	家 口 美智子	948
ボキャブラリー&グラマー b	大原関 一 浩	949
ボキャブラリー&グラマー b	皆 本 智 美	950
ボキャブラリー&グラマー b	中 島 直 嗣	951
ボキャブラリー&グラマー b	天 野 貴 史	952
ボキャブラリー&グラマー b	田浦 アマンダ	953
ボキャブラリー&グラマー b	田 中 秀 毅	954
ボキャブラリー&グラマー b	松 田 早 恵	955
ボキャブラリー&グラマー b	後 藤 一 章	956
ボキャブラリー&グラマー b	杉 浦 秀 行	957
ホスピタリティ・インターンシップ	塩 崎 裕 司	958
ホスピタリティ演習	塩 崎 裕 司	959
ホスピタリティ論	沖 中 美 喜	961
ホスピタリティ論 I	沖 中 美 喜	962
ホスピタリティ論 II	沖 中 美 喜	963
ホテルビジネス論	塩 崎 裕 司	964
ホテルビジネス論 I	塩 崎 裕 司	966
ホテルビジネス論 II	塩 崎 裕 司	968
ボランティア論	浅 野 英 一	970
翻訳文化論	小 川 豊 生	971
翻訳文化論	小 川 豊 生	972

## マ

マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	1236
マーケティング入門	鶴 坂 貴 恵	1237
マイノリティ論	有 馬 善 一	973
マスコミ論	上 島 誠 司	974
マレー語圏トピックス	ノレハ ビンティ	975

## ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	1239
ミュージアムコレクション論	岩 間 香	976
ミュージアムへの招待	谷 直 樹	977
ミュージアムマネジメント論	赤 澤 春 彦	979

## メ

メディア イングリッシュ a	里 井 真理子	980
メディア イングリッシュ a	中 道 英美子	981
メディア イングリッシュ a	アーサー ロングスン	982
メディア イングリッシュ a	俣 野 裕 美	983
メディア イングリッシュ a	クロー オーエン	984
メディア イングリッシュ b	里 井 真理子	985
メディア イングリッシュ b	中 道 英美子	986
メディア イングリッシュ b	アーサー ロングスン	987
メディア イングリッシュ b	俣 野 裕 美	988

科目名	担当者	ページ
メディア イングリッシュ b	クロー オーエン	989
メディア中国語 a	中 西 正 樹	990
メディア中国語 b	中 西 正 樹	991
メディアのスペイン語 I	宮多良 ディスネル	992
メディアのスペイン語 I	三 浦 知佐子	993
メディアのスペイン語 I	宮多良 ディスネル	994
メディアのスペイン語 I	三 浦 知佐子	995
メディアのスペイン語 I	酒 井 真梨奈	996
メディアのスペイン語 II	磯 野 吉 美	997
メディアのスペイン語 II	三 浦 知佐子	998
メディアのスペイン語 II	篠 原 愛 人	999
メディアのスペイン語 II	宮多良 ディスネル	1000
メディアのスペイン語 III	磯 野 吉 美	1001
メディア文化論	森 本 誠 一	1002
メディアリテラシー論	有 馬 善 一	1004

## モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	1241
ものづくりインターンシップ基礎	川 野 常 夫	1243
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	1244
ものづくり海外インターンシップ	川 野 常 夫	1246

## ヤ

役立つ金融知力	陸 川 富 盛	1247
---------	---------	------

## ヨ

ヨーロッパ史学	林 田 敏 子	1006
ヨーロッパ思想	池 田 清	1007

## ラ

ライティング a	鈴 木 大 介	1008
ライティング b	スコット ライリー	1009
ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	1249
ラテンアメリカ史学	篠 原 愛 人	1011
ラテンアメリカの社会と文化	北 條 ゆかり	1012
ラテンアメリカ文学	梶 原 三 佳	1013

## リ

リーディング I a	松 田 早 恵	1015
リーディング I a	瀧 川 宏 樹	1016
リーディング I a	湊 由 妃子	1017
リーディング I a	住 吉 誠	1018
リーディング I a	西 谷 継 治	1019
リーディング I a	中 野 阿 佐子	1020
リーディング I b	住 吉 誠	1021
リーディング I b	瀧 川 宏 樹	1022
リーディング I b	松 田 早 恵	1023
リーディング I b	西 谷 継 治	1024
リーディング I b	中 野 阿 佐子	1025
リーディング I b	湊 由 妃子	1026
リーディング I b	岩 橋 一 樹	1027
リーディング II a	木 村 ゆ み	1028

科目名	担当者	ページ
リーディング II a	湊 由 妃子	1029
リーディング II a	ショーン マクガバン	1030
リーディング II a	ジェーン パーメンター	1031
リーディング II a	ジェフリー ベル	1032
リーディング II b	木 村 ゆ み	1033
リーディング II b	湊 由 妃子	1034
リーディング II b	ショーン マクガバン	1035
リーディング II b	ジェーン パーメンター	1036
リーディング II b	ジェフリー ベル	1037
旅行インドネシア・マレー語	大 坪 紀 子	1038
旅行インドネシア語	大 坪 紀 子	1040

## レ

歴史に学ぶ	林 田 敏 子	1250
-------	---------	------

## ロ

ロマンス語研究 I	柱 本 元 彦	1042
ロマンス語研究 II	柱 本 元 彦	1043

# 基礎科目





科目名	インドネシア語 I	科目名 (英文)	Indonesian I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと
4	挨拶 (1)	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	挨拶 (2)	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	紹介 (1)	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	紹介 (2)	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	紹介 (3)	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テスト	これまでに学んだことの再確認
10	数詞 (1)	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	数詞 (2)	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	数詞 (3)	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	数詞 (4)	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	10回から13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回から13回までの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	総復習

関連科目	インドネシア II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的な参加度合、中間テスト、理解度確認テスト等に基づき総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
-----------	------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	毎週の子習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも1時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。
----	--

科目名	インドネシア語 I	科目名 (英文)	Indonesian I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。																																																																		
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。																																																																		
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方 インドネシア語の特徴</td> <td>学んだことの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文字と発音</td> <td>アルファベットの読み方</td> <td>アルファベットをきちんと読めるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発音</td> <td>基本単語の発音練習</td> <td>単語の読み方を理解しておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>挨拶 ①</td> <td>挨拶表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>挨拶 ②</td> <td>感謝・謝罪</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>紹介 ①</td> <td>自己紹介、人称代名詞について</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>紹介 ②</td> <td>自己紹介、疑問詞を用いた表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>紹介 ③</td> <td>家族、友人を紹介、疑問詞用いた表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>8回までのまとめ</td> <td>これまでに学んだことの復習 中間テスト</td> <td>これまでに学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>数詞 ①</td> <td>数詞の仕組み</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>数詞 ②</td> <td>序数詞や分数</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>数詞 ③</td> <td>電話番号と数詞の練習問題</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>数詞 ④</td> <td>日付の言い表仕方</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>10回～13回までのまとめ</td> <td>数詞を使った表現の復習</td> <td>10回～13回までの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>これまでに学んだことの総復習理解度 確認テスト</td> <td>総復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習	2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておく	3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと	4	挨拶 ①	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	5	挨拶 ②	感謝・謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること	6	紹介 ①	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること	7	紹介 ②	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	8	紹介 ③	家族、友人を紹介、疑問詞用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テスト	これまでに学んだことの再確認	10	数詞 ①	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること	11	数詞 ②	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること	12	数詞 ③	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること	13	数詞 ④	日付の言い表仕方	プリントの会話部分を練習し覚えること	14	10回～13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回～13回までの再確認	15	総復習	これまでに学んだことの総復習理解度 確認テスト	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習																																																																
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておく																																																																
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと																																																																
4	挨拶 ①	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
5	挨拶 ②	感謝・謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
6	紹介 ①	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
7	紹介 ②	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
8	紹介 ③	家族、友人を紹介、疑問詞用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テスト	これまでに学んだことの再確認																																																																
10	数詞 ①	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
11	数詞 ②	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
12	数詞 ③	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
13	数詞 ④	日付の言い表仕方	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
14	10回～13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回～13回までの再確認																																																																
15	総復習	これまでに学んだことの総復習理解度 確認テスト	総復習																																																																
関連科目	インドネシア語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加度合、中間テスト、理解産確認テスト等に基づき総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょ																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については少なくとも1時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は30H間である。授業時間以外での質問は非常勤室にてお昼休みに対応する。																																																																		

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名(英文)	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習	前期の項目を復讐してから授業に進むこと
2	曜日 ①	曜日、月の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
3	曜日 ②	季節の表現方法	プリントの会話部分を練習し覚えること
4	時間 ①	時間の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	時間 ②	時間を使った会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	色 ①	色および形容詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	色 ②	助数詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
9	ショッピング ①	値段の尋ね方	プリントの会話部分を練習し覚えること
10	ショッピング ②	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	ショッピング ③	その他役に立つ表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	位置 ①	位置の表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	位置 ②	道を尋ねる	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	9回～13回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習	9回～13回までに学んできたことの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認

関連科目 インドネシア語Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業への積極的な参加度合、中間テスト、理解度確認テスト等に基づき総合的に評価する。

学生へのメッセージ 授業へは積極的に'加'しましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 毎週の子習は基本的に必要ないが復讐については毎週少なくとも1時間は行うこと。半期中の事後学習は30時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名(英文)	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。			
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。			
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。			
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習	前期の項目を復習してから授業に臨むこと
	2	曜日(1)	曜日、月の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
	3	曜日(2)	季節の表現方法	プリントの会話部分を練習し覚えること
	4	時間(1)	時間の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
	5	時間(2)	時間を使った会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
	6	色(1)	色および形容詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
	7	色(2)	助数詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
	8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
	9	ショッピング(1)	値段の尋ね方	プリントの会話部分を練習し覚えること
	10	ショッピング(2)	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
	11	ショッピング(3)	その他役に立つ表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
	12	位置(1)	位置の表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
	13	位置(2)	道を尋ねる	プリントの会話部分を練習し覚えること
	14	9回から13回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置にかんする表現の復習	9回から13回までに学んできたことの再確認
15	総復習	これまでに学んできたことの総復習 理解度確認テスト	総復習	
関連科目	インドネシア語Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
評価方法(基準)	授業への積極的な参加度合、中間テスト、理解度確認テスト等に基づき総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎週の子習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも1時間は行うこと。半期中の事後学習総時間は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。			

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Unit 1 Sales Can Be Like Acting	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Unit 2 Travel Opens Up the World	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	unit 3 Love Sells Cars	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Unit 4 Translating Is More Than Words	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Unit 5 Serve Up the Best Possible Service	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Unit 6 Toast Your Success!	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Review (1)	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Unit 7. Teaching Is Helping Others Perform Their Best	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Unit 8. Build a Happy Life!	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Unit 9. Life is Like Riding a Bicycle	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 10. Trade Ideas for Positive Change	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 11. Connect Workers With Companies	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Unit 12. Necessity Is the Mother of Invention	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review (2) Review Quiz	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Working in Japan	Alice Gordenker / John Rucynski	CENGAGE Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ  
努力は報われます。頑張りましょう。

担当者の研究室等  
7号館2階 非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 3
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	関 初海

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1 の予習
	2	Unit 1	Education and Gender (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 2 の予習
	3	Unit 2	Global Warming (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 3 の予習
	4	Unit 3	Drinking Water (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 4 の予習
	5	Unit 4	Poverty and Hunger (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 5 の予習
	6	Unit 5	Fighting Disease (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 6 の予習
	7	Unit 6	Terrorism (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 7 の予習
	8	Unit 7	Internment (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 8 の予習
	9	Unit 8	Atomic Weapons (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 9 の予習
	10	Unit 9	Genocide and Crimes against Humanity (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 10 の予習
	11	Unit 10	Landmines (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 11 の予習
	12	Unit 11	Refugees (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 12 の予習
	13	Unit 12	Nelson Mandela (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 13 の予習
	14	Unit 13	Aung San Suu Kyi (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	Unit 1~Unit 13 までの復習
	15	まとめ	前期の総まとめ	総復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生への	

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。



科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 5
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 一美

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1 Steve Jobs, A Dismissed Founder	成績評価方法について確認を行うとともに、Unit1 を通してパラグラフ構成方法< I >について学ぶ。	事後学習⇒Unit1 の課題 事前学習⇒Unit2
2	Unit2 Saving the Hubble Space Telescope	Unit2 を通してパラグラフ構成方法< II >について学ぶ。	事後学習⇒Unit2 の課題 事前学習⇒Unit3
3	Unit3 Invention of the Microwave Oven	Unit3 を通して例示方法について学ぶ。	事後学習⇒Unit3 の課題 事前学習⇒Unit4
4	Unit4 The Unbeatable Chess Computer	Unit4 を通して統計情報を読み解く方法について学ぶ。	事後学習⇒Unit4 の課題 事前学習⇒Unit5
5	Unit5 The Hillsborough Disaster	Unit5 を通して代名詞(前方照応)について学ぶ。	事後学習⇒Unit5 の課題 事前学習⇒Unit6
6	Unit6 What Happened to JAL123?	Unit6 を通して代名詞(後方照応)について学ぶ。	事後学習⇒Unit6 の課題 事前学習⇒Unit7
7	Unit7 The Titanic Tragedy	Unit7 を通してディスコース< I >について学ぶ。	事後学習⇒Unit7 の課題 事前学習⇒Unit8
8	Unit8 Penicillin: It All Started with Mold	Unit8 を通してディスコース< II >について学ぶ。	事後学習⇒Unit8 の課題 事前学習⇒Unit9
9	Unit9 The Apollo 13 Mission: "A Successful Failure"	Unit9 を通して強調表現について学ぶ。	事後学習⇒Unit9 の課題 事前学習⇒Unit10
10	Unit10 The Sampoong Department Store Collapse	Unit10 を通して比較/対比の展開方法について学ぶ。	事後学習⇒Unit10 の課題 事前学習⇒Unit11
11	Unit11 The Hotel New Japan Fire	Unit11 を通して原因-結果の展開方法について学ぶ。	事後学習⇒Unit11 の課題 事前学習⇒Unit12
12	Unit12 Why Did the French Hate the Eiffel Tower?	Unit12 を通して問題解決の展開方法について学ぶ。	事後学習⇒Unit12 の課題 事前学習⇒Unit13
13	Unit13 The Myth of Nuclear Safety	Unit13 を通して未知語の推測方法< I >(語形成に基づく推測)について学ぶ。	事後学習⇒Unit13 の課題 事前学習⇒Unit14
14	Unit14 BSE Outbreak in Japan	Unit14 を通して未知語の推測方法< II >(文脈情報に基づく推測)について学ぶ。	事後学習⇒Unit14 の課題 事前学習⇒Unit15
15	Unit15 De Lesseps' Panama Canal Failure	Unit15 を通して複雑な文構造を持つパラグラフの読み解き方について学ぶ。	事後学習⇒Unit15 の課題

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Phoenix from the Flames		セングージラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7 号館 2F 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。



科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 7
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	クリスティー ジョストン

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		70%

学生へのメッセージ  
All the classwork and all course assignments will be in English. Be prepared and willing to study and learn using English.

担当者の研究室等  
7 号館 2 階 非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。  
Prints and teacher-prepared materials will be given.

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅していただくことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる宿舎が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。

	<p>時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。  お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。  自分の英語が通じるか心配？ なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。



科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 4
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	In this course you will gain practice using your listening, speaking, reading and writing skills.
到達目標	Part of the course will focus on expanding vocabulary. Speaking activities will include pair work and presentations. Reading activities will include preparing your speaking projects. Writing activities will involve writing short reports about yourself and preparing speaking transcripts.
授業方法と留意点	This course will help you to develop strategies to make your language learning more successful.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course overview	Come to class prepared to actively participate in all the course activities.
	2	Self-introduction preparation	Writing and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	3	Self-introduction	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	4	Daily routines	Writing and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	5	Presentation	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	6	Pronunciation and intonation	Learning strategies	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	7	Talking about the past	Writing and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	8	Topic presentation preparation	Writing and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	9	How visuals communicate	Communication design	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	10	Presentation	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	11	Vocabulary building	Learning strategies	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	12	Research presentation	Writing and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	13	Topic presentation preparation	Writing and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	14	Pair preparation	Writing and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	15	Presentation	Speaking and active listening	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be based on regular attendance with active participation, 50%; Speaking performances, 25% and short reports, 25%.
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	マクガバン研究室 (7号館5階)
----------	------------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 6
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
	2	Unit 1: The Case of the Big Dipper Unit 2: The Case of Death in the Air	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	3	Unit 3: The Case of the Happy Baby Unit 4: The Case of the Uneasy Squirrel	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	4	Unit 5: The Case of the Dowager's Jewels Unit 6: The Case of the Lobster Joint	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	5	Unit 7: The Case of the Dead Man's Medals Unit 8: The Case of the Doubting Uncle	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	6	Unit 9: The Case of the Five Candidates Unit 10: The Case of the Murdered Vocalist	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	7	Unit 11: The Case of the Suicide Note Unit 12: The Case of the Railroad Crash	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	8	Exam: Unit 1-12	Unit 1-12 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 1-12 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
	9	Unit 13: The Case of the Barbecue Murder Unit 14: The Case of the Dropped Cuff Link	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	10	Unit 15: The Case of the Italian Grocer Unit 16: The Case of the Old-Fashioned Pen	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	11	Unit 17: The Case of the Stunned Nephew Unit 18: The Case of the Bogus Hero	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	12	Unit 19: The Case of the Arctic Explorer Unit 20: The Case of Edmund Bayne	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	13	Unit 21: The Case of the Nature Lover Unit 22: The Case of the New Year's Eve Murder	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	14	Unit 23: The Case of the Pudgy Playboy Unit 24: The Case of the Mona Lisa	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	15	Exam: Unit 13-24	Unit 13-24 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 13-24 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目									
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Solve the Mystery and Improve Your English Reading</td> <td>Donald J. Sobol</td> <td>英宝社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Solve the Mystery and Improve Your English Reading	Donald J. Sobol	英宝社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	Solve the Mystery and Improve Your English Reading	Donald J. Sobol	英宝社						

		Skills			
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
	3				
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%				
学生への メッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。				
担当者の 研究室等	7号館3F				
備考	スチューデントアワー：月曜日5時限 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。				

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 8
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to English I	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Prepare note taking materials
	2	All about You I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	3	All about You II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	4	In Class I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	5	In Class II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	6	Favorite People I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	7	Favorite People II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	8	Test 1	The test covers weeks 1-7	E-learning; Review the notes from weeks 1-7
	9	Everyday Life I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	10	Everyday Life II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	11	Free Time I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	12	Free Time II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	13	Neighborhoods I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	14	Neighborhoods II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	15	Test 2	The test covers weeks 9-14	E-learning; Review the notes from weeks 9-14

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touchstone IA	Michael McCarthy, Jeanne McCarten, Helen Sandiford	Cambridge
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ  
This course included productive skills (speaking and writing), so you will need to participate actively in class to succeed.

担当者の研究室等  
7 号館 3F

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。  
You will need a dictionary in class.

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、評価方法などの説明、Unit 1の前半部分	特になし
	2	Unit 1 Listen Carefully	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 1の復習、Unit 2のCheckLinkの問題を解く
	3	Unit 2 World Famous	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 2の復習、Unit 3のCheckLinkの問題を解く
	4	Unit 3 A Healthy Diet	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 3の復習、Unit 4のCheckLinkの問題を解く
	5	Unit 4 Heavy Traffic	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 4の復習、Unit 5のCheckLinkの問題を解く
	6	Unit 5 Fighting Fire	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 5の復習、Unit 6のCheckLinkの問題を解く
	7	Unit 6 Enjoying Sports	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 1-6の復習
	8	まとめテスト1	Unit 1-6のまとめテスト、復習	Unit 7のCheckLinkの問題を解く
	9	Unit 7 Throwing a Party	まとめテスト1の返却、予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 7の復習、Unit 8のCheckLinkの問題を解く
	10	Unit 8 A Good Salary	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 8の復習、Unit 9のCheckLinkの問題を解く
	11	Unit 9 A New Album	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 9の復習、Unit 10のCheckLinkの問題を解く
	12	Unit 10 Leaving the Company	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 10の復習、Unit 11のCheckLinkの問題を解く
	13	Unit 11 The Train Ride	予習テスト、ディクテーション、英作文、その他応用問題	Unit 7-11の復習
	14	まとめテスト2	Unit 7-11のまとめテスト、復習	Unit 1-11の復習
15	まとめ	まとめテスト2の返却、応用問題	なし	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Listening 英語リスニング実践道場	Graeme Todd/Roger Palmer/加野まきみ	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	ネイティブスピードの大量の英語を聴き、①大意を把握し、②英語特有の発音を理解し、③重要な表現を覚え、④それを発信できるよう、繰り返し訓練します。教科書付属のE-Learningを利用して予習テストを行いますので、教科書は、古書ではなく必ず新書で購入してください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。



科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E4
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	関 初海

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1の予習
	2	Unit 1	Education and Gender (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 2の予習
	3	Unit 2	Global Warming (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 3の予習
	4	Unit 3	Drinking Water (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 4の予習
	5	Unit 4	Poverty and Hunger (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 5の予習
	6	Unit 5	Fighting Disease (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 6の予習
	7	Unit 6	Terrorism (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 7の予習
	8	Unit 7	Internment (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 8の予習
	9	Unit 8	Atomic Weapons (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 9の予習
	10	Unit 9	Genocide and Crimes against Humanity (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 10の予習
	11	Unit 10	Landmines (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 11の予習
	12	Unit 11	Refugees (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 12の予習
	13	Unit 12	Nelson Mandela (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	復習・Unit 13の予習
	14	Unit 13	Aung San Suu Kyi (DVDの視聴と内容理解、リーディング、ペアでの会話、ライティング)	Unit 1～Unit 13までの復習
	15	まとめ	前期の総まとめ	総復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生への

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業曜日以外の質問・連絡はメールで受け付ける。詳細は第1回目の授業で指示する。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E6
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 一美

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事後学習	事前学習
1	オリエンテーション Unit1 5文型	成績評価方法について確認を行うとともに、Unit1を通して5文型の基礎を確認する。	事後学習⇒Unit1の課題	事前学習⇒Unit2-Unit8
2	Unit2-Unit8	Unit2-Unit8を通して、一つ一つの文型の特徴や規則について学ぶ。	事後学習⇒取り組んだところまでの課題	事前学習⇒Unit2-Unit8
3	Unit2-Unit8	Unit2-Unit8を通して、一つ一つの文型の特徴や規則について学ぶ。	事後学習⇒取り組んだところまでの課題	事前学習⇒Unit9
4	Unit9 基本時制	Unit9を通して時制(現在・過去・未来)の基本用法から発展用法について学ぶ。	事後学習⇒Unit9の課題	事前学習⇒Unit10
5	Unit10 進行形・完了形	Unit10を通して進行形や完了形の基本表現ならびに進行形に用いない動詞について学ぶ。	事後学習⇒Unit10の課題	事前学習⇒Unit11
6	Unit11 主語の選択	Unit11を通して主語(名詞・代名詞・to不定詞・動名詞・名詞節など)について学ぶ。	事後学習⇒Unit11の課題	事前学習⇒Unit12
7	Unit12 郡動詞の活用	Unit12を通して郡動詞(動詞+前置詞/副詞・動詞+副詞+前置詞など)について学ぶ。	事後学習⇒Unit12の課題	事前学習⇒Unit13
8	Unit13 助動詞の活用<1>	Unit13を通して助動詞<can/could・may/might・must・will/would・shall/should>について学ぶ。	事後学習⇒Unit13の課題	事前学習⇒Unit14
9	Unit14 助動詞の活用<2>	Unit14を通して助動詞を用いた表現<would rather  など>について学ぶ。	事後学習⇒Unit14の課題	事前学習⇒Unit15
10	Unit15 受動態の活用	Unit15を通して受動態<時制・受動態にならない動詞など>について学ぶ。	事後学習⇒Unit15の課題	事前学習⇒Unit16
11	Unit16 比較表現	Unit16を通して比較<原級・比較・最上級・比較構文>について学ぶ。	事後学習⇒Unit16の課題	事前学習⇒Unit17
12	Unit17 否定表現	Unit17を通して否定表現<not, hardly, not all, never~ without など>について学ぶ。	事後学習⇒Unit17の課題	事前学習⇒Unit18
13	Unit18 関係詞の活用	Unit18を通して関係代名詞/副詞・制限/非制限について学ぶ。	事後学習⇒Unit18の課題	事前学習⇒Unit19
14	Unit19 接続詞の活用	Unit19を通して接続詞<等位接続詞・相関接続詞・従位接続詞>について学ぶ。	事後学習⇒Unit19の課題	事前学習⇒Unit20
15	Unit20 仮定法の活用	Unit20を通して仮定法<wish・仮定法過去・慣用表現>について学ぶ。	事後学習⇒これまで取り組んできた内容	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題A 全学共通英語課題B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
----------	---	-------------------

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2F 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E8
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	クリスティー ジョスト

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅していただくことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。

時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。自分の英語が通じるか心配? なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E3
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Review and introduction of new semester	Listening and grammar activities	Come to class prepared to actively participate in all the course activities.
	2	Interviews	Pair speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	3	Presentation preparation	Grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	4	Presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	5	Pronunciation and intonation	Speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	6	Presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	7	Describing places	Vocabulary and grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	8	Presentation preparation	Grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	9	Presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	10	Storytelling	Listening for key words and phrases	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	11	Talking about the future	Grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	12	Topic research	Learning strategies	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	13	Visuals preparation	More principles of visual design	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	14	Presentation preparation	Grammar activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	15	Presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Grades in this class are based on regular attendance with active participation, 50%; speaking performances, 25% and short reports, 25%.
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	マクガバン研究室(7号館5階)
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E5
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法、英語共通課題などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
	2	Unit 1: The Case of the Big Dipper Unit 2: The Case of Death in the Air	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	3	Unit 3: The Case of the Happy Baby Unit 4: The Case of the Uneasy Squirrel	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	4	Unit 5: The Case of the Dowager's Jewels Unit 6: The Case of the Lobster Joint	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	5	Unit 7: The Case of the Dead Man's Medals Unit 8: The Case of the Doubting Uncle	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	6	Unit 9: The Case of the Five Candidates Unit 10: The Case of the Murdered Vocalist	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	7	Unit 11: The Case of the Suicide Note Unit 12: The Case of the Railroad Crash	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	8	Exam: Unit 1-12	Unit 1-12 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 1-12 のテスト勉強、及びテスト内容の復習
	9	Unit 13: The Case of the Barbecue Murder Unit 14: The Case of the Dropped Cuff Link	教科書演習	Unit の予習、及び文法や教科書内容の復習
	10	Unit 15: The Case of the Italian Grocer Unit 16: The Case of the Old-Fashioned Pen	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	11	Unit 17: The Case of the Stunned Nephew Unit 18: The Case of the Bogus Hero	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	12	Unit 19: The Case of the Arctic Explorer Unit 20: The Case of Edmund Bayne	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	13	Unit 21: The Case of the Nature Lover Unit 22: The Case of the New Year's Eve Murder	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	14	Unit 23: The Case of the Pudgy Playboy Unit 24: The Case of the Mona Lisa	文法小テスト及び教科書演習	Unit の予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
	15	Exam: Unit 13-24	Unit 13-24 の内容についてテストの実施とその解説	Unit 13-24 のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目									
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Solve the Mystery and Improve Your English Reading</td> <td>Donald J. Sobol</td> <td>英宝社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Solve the Mystery and Improve Your English Reading	Donald J. Sobol	英宝社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	Solve the Mystery and Improve Your English Reading	Donald J. Sobol	英宝社						

		Skills			
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
	3				
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A			20%	
	全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)			10%	
学生への メッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。				
担当者の 研究室等	7号館5F				
備考	スチューデントアワー：月曜日5時限 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。				



科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E7
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to English II	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	E-learning
	2	Out and About I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	3	Out and About II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	4	Shopping I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	5	Shopping II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	6	A Wide World I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	7	A Wide World II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	8	Test 1	The test covers weeks 1-7	E-learning; Review the notes from weeks 1-7
	9	Busy Lives I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	10	Busy Lives II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	11	Looking Back I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	12	Looking Back II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	13	Fabulous Food I	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	14	Fabulous Food II	Reading, listening, speaking, and writing activities	E-learning
	15	Test 2	The test covers weeks 9-14	E-learning; Review the notes from weeks 9-14

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touchstone IB	Michael McCarthy, Jeanne McCarten, Helen Sandiford	Cambridge
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ  
This course included productive skills (speaking and writing), so you will need to participate actively in class to succeed.

担当者の研究室等  
7号館3F

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。  
You will need a dictionary in this class.

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	表谷 純子

授業概要・目的	身近な話題について英語で会話を行えるようにします。これまで学習した英語の知識を会話の中で学びなおし、英語が「わかる」から「できる」に変えていくことを目指します。
到達目標	4技能のスキルをさらに磨き、できるだけ自然な英語で口頭表現ができるようになる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、TOEICについての説明 TOEIC模擬テスト	教科書の予習
2	Unit1 Were you texting while walking 頻度を表す副詞と数量を表す表現	Listening Speaking	教科書の予習復習
3	Unit 1 Were you texting while walking パラグラフの構造 1	Reading Writing	教科書の予習復習
4	Unit 2 Do you work part-time? 動詞+to 不定詞/動名詞	Listening Speaking	教科書の予習復習
5	Unit 2 Do you work part-time? パラグラフの構造 2 支持文	Reading Writing	教科書の予習復習
6	Unit 3 Personality and appearance 見た目や性格を表す形容詞	Listening Speaking	教科書の予習復習、英単語の暗記 9 8 2 - 9 9 4
7	Unit 3 Personality and appearance パラグラフの構造 3 結論文	Reading Writing	教科書の予習復習
8	Unit 4 Past event Be 動詞・一般動詞の過去形	Listening Speaking	教科書の予習復習、英単語の暗記 1 0 0 8 - 1 0 2 0
9	Unit 4 Past event 2つの語・句・節をつなぐ接続詞	Reading Writing	教科書の予習復習
10	プレゼンテーション課題の準備	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション準備、英単語の暗記 1 0 3 4 - 1 0 4 6
11	Unit 5 Manners: Be a good guest 現在進行形と過去進行形	Listening Speaking	教科書の予習復習
12	プレゼンテーション	発表	プレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション	発表	プレゼンテーション準備
14	Unit 5 Manners: Be a good guest 二つの事柄を並べて説明する	Reading Writing	教科書の予習復習
15	まとめテスト	テスト 答え合わせ	これまでの復習

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Beams Essential Skills for Talking and Writing	Junko Omotedani / Mariko Kawasaki / Ayed Hasian /Paul Aaloe	金星堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト、プレゼンテーション等含む)	100%
----------	-------------------------------------	------

学生へのメッセージ	予習と復習に力を入れてください。「知っている」知識を「使える」知識にする為には繰り返す練習することが重要です。読む・聞く・話す・書くとアプローチを変えて、何度もインプットとアウトプットをすることが英語力の向上につながります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	英語IV	科目名(英文)	English IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	表谷 純子

授業概要・目的 身近な話題について英語で会話を行えるようにします。これまで学習した英語の知識を会話の中で学びなおし、英語が「わかる」から「できる」に変えていくことを目指します。

到達目標 4技能のスキルをさらに磨き、できるだけ自然な英語で口頭表現ができるようになる。

授業方法と留意点 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

科目学習の効果(資格) TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法などの説明	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 7 Dogs are so much better 前半	新出単語テスト 演習問題 listening & speaking	新出単語テスト 指定範囲の予習
3	Unit 7 Dogs are so much better 後半	新出単語テスト 演習問題 reading & writing	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
4	Unit 9 We are going on a cruise 前半	新出単語テスト 演習問題 listening & speaking	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
5	Unit 9 We are going on a cruise 後半	新出単語テスト 演習問題 reading & writing	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
6	Unit 10 Have you ever volunteered before? 前半	新出単語テスト 演習問題 listening & speaking	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
7	Unit 10 Have you ever volunteered before? 後半	新出単語テスト 演習問題 reading & writing	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
8	プレゼンテーション課題 準備	プレゼンテーション作成	プレゼンテーションの準備
9	Unit 11 Think before you post 前半	新出単語テスト 演習問題 listening & speaking	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
10	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
11	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
12	Unit 11 Think before you post 後半	新出単語テスト 演習問題 reading & writing	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
13	Unit 12 You lied to her 前半	新出単語テスト 演習問題 listening & speaking	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
14	Unit 12 You lied to her 後半	新出単語テスト 演習問題 reading & writing	新出単語テスト 指定範囲の予習 前回の復習
15	まとめテスト	これまでの総まとめ	期末試験の準備

関連科目 英語関係全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Beams Essential Skills for Talking and Writing	Junko Omotedani / Mariko Kawasaki / Ayed Hasian / Paul Aaloe	金星堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) Student grades will be based on class participation, presentation, homework, and tests.

学生へのメッセージ 予習と復習に力を入れてください。「知っている」知識を「使える」知識にするためには繰り返す練習することが重要です。読む・聞く・話す・書くとアプローチを変えて、何度もインプットとアウトプットをすることが英語力の向上につながります。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 辞書を持参のこと(電子辞書でも構わない)。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	千 英子

**授業概要・目的**  
 韓国語は日本語と酷似しており、日本語を話す人には学習しやすい言語である。本授業は初めて韓国語を学ぶ人のために、初歩的な日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行なうことで、学習者が主体になって会話できるように指導する。ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一步一步確実に養ってゆこうというねらいである。

**到達目標**  
 教科書を中心に、ロールプレー (Role Play) も行なう。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。

**科目学習の効果 (資格)**  
 韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	韓国語とは	韓国語の歴史、文字構成	テキスト p. 1-2
2	ハングル文字について	基本母音	テキスト P. 3-4
3	ハングル文字について	複合母音	テキスト p. 5-6
4	ハングル文字について	子音 (平音)	テキスト p. 7-8
5	ハングル文字について	子音 (濃音、激音)	テキスト p. 9-10
6	パッチム	文字と発音	テキスト p. 11-12
7	発音規則について	連音化、濃音化	プリント配布
8	発音規則について	激音化、鼻音化、流音化	プリント配布
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマ鑑賞	テキスト p. 14-15
10	出会い	単語、文法	テキスト p. 16-17
11	出会い	文法、本文	テキスト p. 18-19
12	自己紹介	単語、文法	テキスト P. 20-21
13	自己紹介	文法、本文	プリント配布
14	前期のまとめ、交流会	韓国留学生と韓国語で会話の練習をしながら交流する。 前期の内容について、総合的な復習をする。	プリントの配布
15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、質疑回答	後期試験の準備

**関連科目** 韓国語初級

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなで学ぶ韓国語 会話編	金真 など	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。

**学生へのメッセージ**  
 韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！

**担当者の研究室等**  
 7号館2階(非常勤講師室)

**備考**

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	韓国語について	韓国語の歴史、文字構成を説明。授業の進め方についてのガイダンス及び、受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	特になし
2	ハングル文字について	基本母音字	テキストP. 16-19
3	ハングル文字について	基本子音字	テキスト. 20-27
4	ハングル文字について	複合母音字	テキストp. 28-32
5	ハングル文字について	激音、濃音について。自分の名前と家族や友達の名3をハングルで書いてみる	テキストp. 30-39
6	ハングル文字について	パッチムについて。	テキストp. 40-47
7	ハングル文字総合まとめ	ハングルを覚える際に使っていた単語を覚える。韓国で使われている外来語を読んで、意味を予測してみたり、日本語との発音の違い調べてみる。	テキストp. 16-47
8	ハングル文字総合まとめ	中間単語テスト	中間単語テスト勉強
9	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
10	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
11	基本的な助詞をまなぶ。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	宿題;各助詞を使った作文を書いて次回の授業時間に提出する。
12	第6課 こんにちは。	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。	テキスト P. 52-54
13	第6課 こんにちは。	職業は何ですか? 用言の終止形	テキスト p. 55-59
14	前期総合まとめ	ハングル文字の復習 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える。 前期定期試験の準備	テキスト p. 16-59
15	まとめ	前期定期試験	前期定期試に備えての勉強

関連科目 韓国語基礎会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト、期末試験の成績などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	千 英子

授業概要・目的	日韓交流の発展に伴ない、韓国語ができる人材がたくさん必要になるだろう。本授業では前期に引き続き、日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行ない、ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一步一步確実に養ってゆこうというねらいである。学期の終わりには韓国語で簡単な韓国ドラマを理解できるようになるだろう。																																																																		
到達目標																																																																			
授業方法と留意点	教科書を中心に、ロールプレー (Role Play) も行なう。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、K-POP や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。																																																																		
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>日課</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 22-25</td></tr> <tr><td>2</td><td>日課</td><td>文法、本文</td><td>テキスト p. 26-28</td></tr> <tr><td>3</td><td>道で</td><td>単語、本文</td><td>テキスト p. 29</td></tr> <tr><td>4</td><td>道で</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 30-31</td></tr> <tr><td>5</td><td>お店で</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 32-33</td></tr> <tr><td>6</td><td>お店で</td><td>文法、本文</td><td>テキスト p. 34-35</td></tr> <tr><td>7</td><td>電話で約束</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 36-37</td></tr> <tr><td>8</td><td>電話で約束</td><td>文法、本文</td><td>テキスト p. 38-39</td></tr> <tr><td>9</td><td>まとめ</td><td>前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞</td><td>プリント配布</td></tr> <tr><td>10</td><td>食堂で</td><td>単語、本文、練習</td><td>テキスト p. 40-43</td></tr> <tr><td>11</td><td>食堂で、友達の紹介</td><td>文法、本文</td><td>テキスト P.44-46</td></tr> <tr><td>12</td><td>友達の紹介、冬休みの計画</td><td>文法、本文、練習</td><td>テキスト P. 47-50</td></tr> <tr><td>13</td><td>冬休みの計画、休み中の出来事</td><td>単語、文法、本文</td><td>テキスト P.52-53</td></tr> <tr><td>14</td><td>前期・後期のまとめ</td><td>日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して</td><td>小テストの準備</td></tr> <tr><td>15</td><td>前期・後期のまとめ</td><td>韓国ドラマの鑑賞、まとめ</td><td>定期試験の準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	日課	単語、文法	テキスト p. 22-25	2	日課	文法、本文	テキスト p. 26-28	3	道で	単語、本文	テキスト p. 29	4	道で	単語、文法	テキスト p. 30-31	5	お店で	単語、文法	テキスト p. 32-33	6	お店で	文法、本文	テキスト p. 34-35	7	電話で約束	単語、文法	テキスト p. 36-37	8	電話で約束	文法、本文	テキスト p. 38-39	9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	プリント配布	10	食堂で	単語、本文、練習	テキスト p. 40-43	11	食堂で、友達の紹介	文法、本文	テキスト P.44-46	12	友達の紹介、冬休みの計画	文法、本文、練習	テキスト P. 47-50	13	冬休みの計画、休み中の出来事	単語、文法、本文	テキスト P.52-53	14	前期・後期のまとめ	日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して	小テストの準備	15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、まとめ	定期試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	日課	単語、文法	テキスト p. 22-25																																																																
2	日課	文法、本文	テキスト p. 26-28																																																																
3	道で	単語、本文	テキスト p. 29																																																																
4	道で	単語、文法	テキスト p. 30-31																																																																
5	お店で	単語、文法	テキスト p. 32-33																																																																
6	お店で	文法、本文	テキスト p. 34-35																																																																
7	電話で約束	単語、文法	テキスト p. 36-37																																																																
8	電話で約束	文法、本文	テキスト p. 38-39																																																																
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	プリント配布																																																																
10	食堂で	単語、本文、練習	テキスト p. 40-43																																																																
11	食堂で、友達の紹介	文法、本文	テキスト P.44-46																																																																
12	友達の紹介、冬休みの計画	文法、本文、練習	テキスト P. 47-50																																																																
13	冬休みの計画、休み中の出来事	単語、文法、本文	テキスト P.52-53																																																																
14	前期・後期のまとめ	日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して	小テストの準備																																																																
15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、まとめ	定期試験の準備																																																																
関連科目	韓国語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>みんなで学ぶ韓国語 会話編</td><td>金真 など</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	みんなで学ぶ韓国語 会話編	金真 など	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	みんなで学ぶ韓国語 会話編	金真 など	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫

授業概要・目的	ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。
到達目標	1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話ができるようになる。 2. 200文字以上の自己紹介の作文ができるようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第7課 はじめまして。	国の名前、言語について学び、読み書きができるようにする。	テキスト p. 63、プリント
2	第7課 はじめまして。	どの国の人ですか？ 一ではありません。 助詞 -は、-がについて練習。	テキスト p. 62-64
3	第7課 はじめまして。	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 65-68
4	第8課 これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 家族構成員について学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 70-72 次回の授業中会話練習用の、日常で使う頻度の高い物を用意して来る。
5	第8課 これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞-のについて学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 73-77
6	第8課 これは何ですか？ 第9課 週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 テキスト p. 79 私の家族を勉強し、「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 79
7	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
8	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
9	第9課 週末に何をしますか？	助詞-を、-にを使って作文をする。 日常でよく使う動詞20個を覚え、その終止形の活用について学ぶ。 “-と一緒に”という言い方を練習する。	テキスト p. 82-87
10	第9課 週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 いつ、誰と、何を、しますか？ について多数の例文を用いて練習をし、作文をする。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 88-91
11	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 漢数字について学び、漢数字を用いて数える単位を付けて練習する。 位置を表す名詞を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 94-101
12	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 固有数字について学び、固有数字を用いて数える単位を付けて練習する。 時計の読み方を練習する。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 94-101
13	第11課 電話番号は何番ですか？	時計の読み方のテストをする。 数字がスムーズに言えるように練習する。 助詞-は、-も、-のみの使い方を練習する。	時計の読み方を練習する。 テキスト p. 104-111
14	後期総合まとめ	後期授業の中で勉強した全ての単語をテストする。 後期授業の内容整理し、復習をする。 後期定期試験の対策。	後期授業の中で勉強した単語を覚える。 テキスト p. 62-111
15	まとめ	後期定期試験	後期定期試験の勉強

関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト、定期試験の成績などを総合的に評価する。			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を学びましょう。語学がまじめに積み重ねる他方法がありませんので、遅刻・欠席しない用に頑張りましょう。 韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、もしくは将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				



科目名	健康論	科目名(英文)	Health Care
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 和恵

授業概要・目的	健康で充実した人生を歩むための知識を総合的に理解し、実践していくための健康理念を学ぶ。																																																																		
到達目標	(1) 日常生活を点検・改善 (2) 生活習慣病は自身がつくっているものと認識・見直し。 (3) 社会人として生きる知恵を実践していくための方法を学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	講義方式で授業を進める。なお、資料配布など、教育効果を上げる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	この講義を受講することにより、健康な身体を取り戻すための第一歩を踏み出すことができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康に生きる</td> <td>点検</td> <td>健康度をチェックし把握しておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>気づき、学習、行動、評価</td> <td>ライフスタイルを検証</td> <td>各自で健康観をまとめておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自然の摂理</td> <td>今と昔の比較</td> <td>資料記入</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生活習慣の点検、受客、行動変容</td> <td>生活習慣の見直し</td> <td>資料記入</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生活習慣病</td> <td>疾病の種類</td> <td>資料記入</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>食</td> <td>現代食、古代食</td> <td>書き出し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>運動</td> <td>運動不足病</td> <td>現代病</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>休養</td> <td>昼夜逆転生活</td> <td>現代病</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>脳と健康</td> <td>脳の機能</td> <td>脳トレ実践</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>心と脳と神経</td> <td>心はどこ?</td> <td>脳のしくみ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>MC I</td> <td>認知症症状</td> <td>プリント記入</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ストレスマネジメント</td> <td>現代社会病</td> <td>見直し作業</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>老化と健康、生涯健康</td> <td>老化現象、平均寿命</td> <td>生き方検証</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>デスエデュケーション</td> <td>歳のとり方</td> <td>休養スパ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>心身を考える、まとめ</td> <td>心と体と脳の関係</td> <td>小テスト</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	健康に生きる	点検	健康度をチェックし把握しておく。	2	気づき、学習、行動、評価	ライフスタイルを検証	各自で健康観をまとめておく	3	自然の摂理	今と昔の比較	資料記入	4	生活習慣の点検、受客、行動変容	生活習慣の見直し	資料記入	5	生活習慣病	疾病の種類	資料記入	6	食	現代食、古代食	書き出し	7	運動	運動不足病	現代病	8	休養	昼夜逆転生活	現代病	9	脳と健康	脳の機能	脳トレ実践	10	心と脳と神経	心はどこ?	脳のしくみ	11	MC I	認知症症状	プリント記入	12	ストレスマネジメント	現代社会病	見直し作業	13	老化と健康、生涯健康	老化現象、平均寿命	生き方検証	14	デスエデュケーション	歳のとり方	休養スパ	15	心身を考える、まとめ	心と体と脳の関係	小テスト
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	健康に生きる	点検	健康度をチェックし把握しておく。																																																																
2	気づき、学習、行動、評価	ライフスタイルを検証	各自で健康観をまとめておく																																																																
3	自然の摂理	今と昔の比較	資料記入																																																																
4	生活習慣の点検、受客、行動変容	生活習慣の見直し	資料記入																																																																
5	生活習慣病	疾病の種類	資料記入																																																																
6	食	現代食、古代食	書き出し																																																																
7	運動	運動不足病	現代病																																																																
8	休養	昼夜逆転生活	現代病																																																																
9	脳と健康	脳の機能	脳トレ実践																																																																
10	心と脳と神経	心はどこ?	脳のしくみ																																																																
11	MC I	認知症症状	プリント記入																																																																
12	ストレスマネジメント	現代社会病	見直し作業																																																																
13	老化と健康、生涯健康	老化現象、平均寿命	生き方検証																																																																
14	デスエデュケーション	歳のとり方	休養スパ																																																																
15	心身を考える、まとめ	心と体と脳の関係	小テスト																																																																
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト及びレポート(60%)と授業態度(40%)の総合点で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	質問などがある場合は、総合体育館1階事務室へ来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室																																																																		
備考																																																																			

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする	
10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する	
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする	

関連科目 時事問題Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 課題・小テストへの取り組み 30% 中間・最終確認テスト 20%
----------	--

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 非常勤講師室(7号館2階)

備考

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堂馬 隆之

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る
2		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
3		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
4		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
5		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
6		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
7		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
8		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
9		中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
10		「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
11		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
12		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
13		最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
14		「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
15		最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2016 ニュース検定公式テキスト 発展編</td> <td></td> <td>毎日新聞社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度 50% 課題・小テストへの取り組み 30% 中間・最終確認テスト 20%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)																
備考																	

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川 真悠

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする	
10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する	
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする	

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 課題・小テストへの取り組み 30% 中間・最終確認テスト 20%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊東 未来

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする	
10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する	
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする	

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 課題・小テストへの取り組み 30% 中間・最終確認テスト 20%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	7	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 課題・小テストへの取り組み 30% 中間・最終確認テスト 20%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堂馬 隆之

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 2級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
6	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする	
7	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する	
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
9	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる	
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする	

関連科目 時事問題Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)  
 授業への参加度 50%  
 課題・小テストへの取り組み 30%  
 中間・最終確認テスト 20%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 非常勤講師室(7号館2階)

備考

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早川 真悠

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	7	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 課題・小テストへの取り組み 30% 中間・最終確認テスト 20%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊東 未来

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」( <a href="http://www.newskentei.jp/">http://www.newskentei.jp/</a> )を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(準2級 3,000円、2級 4,000円)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	7	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 課題・小テストへの取り組み 30% 中間・最終確認テスト 20%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、およびコンピュータ利用に関する技能検定へ足掛かりとする
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。身近なものとしては MOS (マイクロソフトオフィススペシャリスト) が挙げられる。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス	_____
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	配布資料の確認 確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	配布資料の確認 情報検索課題
4	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	配布資料の確認 文書作成練習課題 1
5	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	配布資料の確認 文書作成練習課題 2
6	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	配布資料の確認 文書作成練習課題 3
7	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術: レポート、論文の作成	配布資料の確認 文書作成練習課題 4
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	配布資料の確認 表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	配布資料の確認 表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	配布資料の確認 表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	配布資料の確認 表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 散布図および分析ツールと回帰分析基本	配布資料の確認 表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	配布資料の確認 Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席率 80%以上を必須とする。 授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後、独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格しています。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	Office「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	—————
2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
3	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1
4	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2
5	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3
6	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4
7	情報の処理技術 (5)	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5
8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題
15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ

関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業ごとに行う練習・課題点をもとに評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
-----------	--

学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
-----------	--

担当者の研究室等	6 号館 1 1 階 (非常勤講師室)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、およびコンピュータ利用に関する技能検定へ足掛かりとする
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。 その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。 授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。 出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。 身近なものとしてはMOS (マイクロソフトオフィススペシャリスト) が挙げられる。 資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス	_____
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	配布資料の確認 確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	配布資料の確認 情報検索課題
4	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	配布資料の確認 文書作成練習課題 1
5	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	配布資料の確認 文書作成練習課題 2
6	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	配布資料の確認 文書作成練習課題 3
7	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術: レポート、論文の作成	配布資料の確認 文書作成練習課題 4
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	配布資料の確認 表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	配布資料の確認 表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	配布資料の確認 表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	配布資料の確認 表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 散布図および分析ツールと回帰分析基本	配布資料の確認 表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	配布資料の確認 Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 出席率80%以上を必須とする。  
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。  
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後、独学でMOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格しています。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	Office「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			———
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	———
2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
3	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1
4	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2
5	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3
6	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4
7	情報の処理技術 (5)	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5
8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題
15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ

関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業ごとに行う練習・課題点をもとに評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
-----------	--

学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
-----------	--

担当者の研究室等	6 号館 1 1 階 (非常勤講師室)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。効果的な論文ツールの学習およびプレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。後半では、アイコンやアバター作成等に必要とされる画像編集等の各種アプリケーションソフトの学習を通じ、情報発信に必要とされる画像処理の基本知識を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解する。
到達目標	効率的な論文ツールの活用、および就職面接等におけるプレゼンテーション能力の獲得を目的とする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	レポート・論文作成におけるツールの学習(1)	効果的な論文作成の為に参考資料リボンによるツールの確認と学習1	配布資料の確認 内容の把握と整理
2	レポート・論文作成におけるツールの学習(2)	論文作成とツールの利用、アウトラインの確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題1
3	レポート・論文作成におけるツールの学習(3)	実践的な論文作成におけるツールの利用とその応用	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題2
4	情報の表現(1)	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術1 スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題1
5	情報の表現(2)	プレゼンテーション技術2 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題2
6	情報の表現(3)	プレゼンテーション技術3 発表の基本確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題3
7	課題制作1(1)	提示テーマに沿ったスライドの作成	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
8	課題制作1(2)	表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノート機能、配布資料、印刷時の注意	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
9	課題制作1(3)	リハーサル機能の活用と発表用原稿とのリンク	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
10	情報の発信(1)	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習とプレゼンテーションソフト上における利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 画像編集練習課題
11	情報の発信(2)	Web上における能動的プレゼンテーションソフトの学習とPowerPointとの互換性の確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 web系プレゼンテーション応用課題
12	課題制作2 グループ発表(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題制作2 グループ発表(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表(1)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表(2)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理

関連科目 「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 80%以上の出席率を必要とする。授業参加状況、毎回の課題(練習問題)、実技を含む試験を総合して評価する。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学で、MOS(Microsoft Office Specialist)マイクロソフト オフィススペシャリストに合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。

	プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果(資格)	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
	2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	3	PowerPoint 図の活用1	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	4	PowerPoint 図の活用2	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	5	PowerPoint 動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	6	PowerPoint 画像処理1	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	7	PowerPoint 画像処理2	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	8	PowerPoint 画像処理3	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	9	PowerPoint 応用1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	10	PowerPoint 応用2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	11	PowerPoint 実践1_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	12	PowerPoint 実践2_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	13	PowerPoint 実践3_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目	「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業ごとに行う練習・課題点をもとに評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくといでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階(非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--



科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。効果的な論文ツールの学習およびプレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。後半では、アイコンやアバター作成等に必要とされる画像編集等の各種アプリケーションソフトの学習を通じ、情報発信に必要とされる画像処理の基本知識を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解する。
到達目標	効率的な論文ツールの活用、および就職面接等におけるプレゼンテーション能力の獲得を目的とする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	レポート・論文作成におけるツールの学習(1)	効果的な論文作成のための参考資料リボンによるツールの確認と学習1	配布資料の確認 内容の把握と整理
2	レポート・論文作成におけるツールの学習(2)	論文作成とツールの利用、アウトラインの確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題1
3	レポート・論文作成におけるツールの学習(3)	実践的な論文作成におけるツールの利用とその応用	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題2
4	情報の表現(1)	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術1 スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題1
5	情報の表現(2)	プレゼンテーション技術2 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題2
6	情報の表現(3)	プレゼンテーション技術3 発表の基本確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題3
7	課題制作1(1)	提示テーマに沿ったスライドの作成	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
8	課題制作1(2)	表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノート機能、配布資料、印刷時の注意	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
9	課題制作1(3)	リハーサル機能の活用と発表用原稿とのリンク	課題作成を通して前半の知識の確認 内容の把握と整理、評価
10	情報の発信(1)	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習とプレゼンテーションソフト上における利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 画像編集練習課題
11	情報の発信(2)	Web上における能動的プレゼンテーションソフトの学習とPowerPointとの互換性の確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 web系プレゼンテーション応用課題
12	課題制作2 グループ発表(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題制作2 グループ発表(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表(1)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表(2)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理

関連科目 「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて資料を配付する。一部、情報処理Ⅰのテキストを使用する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows7・Office2010による情報処理入門	高橋敏夫 他	実教出版
2			
3			

評価方法(基準) 80%以上の出席率を必要とする。授業参加状況、毎回の課題(練習問題)、実技を含む試験を総合して評価する。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学で、MOS(Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィススペシャリスト)に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。
科目学習の効果(資格)	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
	2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	3	PowerPoint 図の活用1	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	4	PowerPoint 図の活用2	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	5	PowerPoint 動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	6	PowerPoint 画像処理1	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	7	PowerPoint 画像処理2	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	8	PowerPoint 画像処理3	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	9	PowerPoint 応用1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	10	PowerPoint 応用2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	11	PowerPoint 実践1_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	12	PowerPoint 実践2_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	13	PowerPoint 実践3_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
	15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目	「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業ごとに行う練習・課題点をもとに評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくといでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階(非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。前期はアルファベットと発音から始めて、教科書の各課を授業二回のペースで進めてゆき、第6課まで学習する予定です。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	アルファベットと発音 教室でよく使う表現	授業後、スペイン語の発音のルールを確認し、教室でよく使う表現を覚えておくこと。
2	第1課 (前半)	あいさつ、人称代名詞、動詞 llamar, ser 名前を尋ねる・答える	授業後、人称代名詞と動詞の対応関係について確認し、あいさつに関わる語彙を覚えておくこと。
3	第1課 (後半)	動詞 vivir, 文の種類 住まいを尋ねる・答える	授業後、否定文や疑問文のつくり方を確認し、1課で習った動詞の意味と活用形を覚えておくこと。
4	第2課 (前半)	名詞の性と数 家族や友達を簡単に紹介する	授業後、名詞の性と数に関わるルールを確認し、国や国籍を示す語彙を覚えておくこと。
5	第2課 (後半)	冠詞、数詞 電話番号を尋ねる・答える	授業後、名詞と冠詞の対応関係を確認し、数詞 (0～20 まで) を覚えておくこと。
6	第3課 (前半)	動詞の直説法現在規則活用 (-ar 型) 話せる言語、学習中の言語について尋ねる・答える	授業後、-ar 型動詞の語尾変化について確認し、言語を示す語彙を覚えておくこと。
7	第3課 (後半)	動詞の直説法現在規則活用 (-er, -ir 型) 大学で学んでいることについて尋ねる・答える	授業後、-er 型、-ir 型動詞の語尾変化について確認し、学問に関わる語彙を覚えておくこと。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第7回までに学習した文法および語彙を総確認しておくこと。
9	第4課 (前半)	動詞 hay と estar 建物や施設の有無、所在について尋ねる・答える	授業後、動詞 hay と estar の使い分けについて確認し、建物や施設に関わる語彙を覚えておくこと。
10	第4課 (後半)	疑問詞、前置詞、動詞 ir 行き先や交通手段について尋ねる・答える	授業後、不規則動詞 ir の活用を確認し、交通手段に関わる語彙を覚えておくこと。
11	第5課 (前半)	目的格人称代名詞 食べ物や飲み物を注文する	授業後、目的格人称代名詞の使い方を確認し、食事に関連した語彙を覚えておくこと。
12	第5課 (後半)	動詞 gustar 好みについて尋ねる・答える	授業後、動詞 gustar の使い方を確認し、自分の好きなもの、好きではないものについて作文してみる。
13	第6課 (前半)	動詞 tener、所有形容詞 家族や友人を描写する	授業後、動詞 tener の用法を確認し、家族や職業を示す語彙を覚えておくこと。
14	第6課 (後半)	その他の不規則動詞、語幹母音変化動詞 年齢や職業について尋ねる・答える	授業後、6課で習った動詞の意味と活用を確認し、数詞 (20～100) を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法内容や語彙および表現の確認テスト	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト+提出物 (発表) + 理解度確認テスト
学生へのメッセージ	リアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	サビド・セグミダニエル・ダン

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。前期はアルファベットと発音から始めて、教科書の各課を授業二回のペースで進めてゆき、第6課まで学習する予定です。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。

科目学習の 効果 (資格)	スペイン語検定6級
------------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	アルファベットと発音 教室でよく使う表現	授業後、スペイン語の発音のルールを確認し、教室でよく使う表現を覚えておくこと。
2	第1課 (前半)	あいさつ、人称代名詞、動詞 llamar, ser 名前を尋ねる・答える	授業後、人称代名詞と動詞の対応関係について確認し、あいさつに関わる語彙を覚えておくこと。
3	第1課 (後半)	動詞 vivir, 文の種類 住まいを尋ねる・答える	授業後、否定文や疑問文のつくり方を確認し、1課で習った動詞の意味と活用形を覚えておくこと。
4	第2課 (前半)	名詞の性と数 家族や友達を簡単に紹介する	授業後、名詞の性と数に関わるルールを確認し、国や国籍を示す語彙を覚えておくこと。
5	第2課 (後半)	冠詞、数詞 電話番号を尋ねる・答える	授業後、名詞と冠詞の対応関係を確認し、数詞 (0～20 まで) を覚えておくこと。
6	第3課 (前半)	動詞の直説法現在規則活用 (-ar 型) 話せる言語、学習中の言語について尋ねる・答える	授業後、-ar 型動詞の語尾変化について確認し、言語を示す語彙を覚えておくこと。
7	第3課 (後半)	動詞の直説法現在規則活用 (-er, -ir 型) 大学で学んでいることについて尋ねる・答える	授業後、-er 型、-ir 型動詞の語尾変化について確認し、学問に関わる語彙を覚えておくこと。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第7回までに学習した文法および語彙を総確認しておくこと。
9	第4課 (前半)	動詞 hay と estar 建物や施設の有無、所在について尋ねる・答える	授業後、動詞 hay と estar の使い分けについて確認し、建物や施設に関わる語彙を覚えておくこと。
10	第4課 (後半)	疑問詞、前置詞、動詞 ir 行き先や交通手段について尋ねる・答える	授業後、不規則動詞 ir の活用を確認し、交通手段に関わる語彙を覚えておくこと。
11	第5課 (前半)	目的格人称代名詞 食べ物や飲み物を注文する	授業後、目的格人称代名詞の使い方を確認し、食事に関連した語彙を覚えておくこと。
12	第5課 (後半)	動詞 gustar 好みについて尋ねる・答える	授業後、動詞 gustar の使い方を確認し、自分の好きなもの、好きではないものについて作文してみる。
13	第6課 (前半)	動詞 tener、所有形容詞 家族や友人を描写する	授業後、動詞 tener の用法を確認し、家族や職業を示す語彙を覚えておくこと。
14	第6課 (後半)	その他の不規則動詞、語幹母音変化動詞 年齢や職業について尋ねる・答える	授業後、6課で習った動詞の意味と活用を確認し、数詞 (20～100) を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法内容や語彙および表現の確認テスト	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト+提出物 (発表) + 理解度確認テスト
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	リアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する。
----	--------------------

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	マツダイラ キーメル

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。前期はアルファベットと発音から始めて、教科書の各課を授業二回のペースで進めてゆき、第6課まで学習する予定です。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	アルファベットと発音 教室でよく使う表現	授業後、スペイン語の発音のルールを確認し、教室でよく使う表現を覚えておくこと。
2	第1課 (前半)	あいさつ、人称代名詞、動詞 llamar, ser 名前を尋ねる・答える	授業後、人称代名詞と動詞の対応関係について確認し、あいさつに関わる語彙を覚えておくこと。
3	第1課 (後半)	動詞 vivir, 文の種類 住まいを尋ねる・答える	授業後、否定文や疑問文のつくり方を確認し、1課で習った動詞の意味と活用形を覚えておくこと。
4	第2課 (前半)	名詞の性と数 家族や友達を簡単に紹介する	授業後、名詞の性と数に関わるルールを確認し、国や国籍を示す語彙を覚えておくこと。
5	第2課 (後半)	冠詞、数詞 電話番号を尋ねる・答える	授業後、名詞と冠詞の対応関係を確認し、数詞 (0～20 まで) を覚えておくこと。
6	第3課 (前半)	動詞の直説法現在規則活用 (-ar 型) 話せる言語、学習中の言語について尋ねる・答える	授業後、-ar 型動詞の語尾変化について確認し、言語を示す語彙を覚えておくこと。
7	第3課 (後半)	動詞の直説法現在規則活用 (-er, -ir 型) 大学で学んでいることについて尋ねる・答える	授業後、-er 型、-ir 型動詞の語尾変化について確認し、学問に関わる語彙を覚えておくこと。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第7回までに学習した文法および語彙を総確認しておくこと。
9	第4課 (前半)	動詞 hay と estar 建物や施設の有無、所在について尋ねる・答える	授業後、動詞 hay と estar の使い分けについて確認し、建物や施設に関わる語彙を覚えておくこと。
10	第4課 (後半)	疑問詞、前置詞、動詞 ir 行き先や交通手段について尋ねる・答える	授業後、不規則動詞 ir の活用を確認し、交通手段に関わる語彙を覚えておくこと。
11	第5課 (前半)	目的格人称代名詞 食べ物や飲み物を注文する	授業後、目的格人称代名詞の使い方を確認し、食事に関連した語彙を覚えておくこと。
12	第5課 (後半)	動詞 gustar 好みについて尋ねる・答える	授業後、動詞 gustar の使い方を確認し、自分の好きなもの、好きではないものについて作文してみる。
13	第6課 (前半)	動詞 tener、所有形容詞 家族や友人を描写する	授業後、動詞 tener の用法を確認し、家族や職業を示す語彙を覚えておくこと。
14	第6課 (後半)	その他の不規則動詞、語幹母音変化動詞 年齢や職業について尋ねる・答える	授業後、6課で習った動詞の意味と活用を確認し、数詞 (20～100) を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法内容や語彙および表現の確認テスト	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト+提出物 (発表) + 理解度確認テスト
学生へのメッセージ	リアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	

科目名	スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サビド・セグミダニエル・ダン

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。 後期は前期の学習内容の確認から始めて、教科書第7課以降の各課を授業二回のペースで進めてゆき、12課まで学習する予定です。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認	前期に習った文法事項や表現を復習する	授業後、復習した動詞の意味と活用の種類(規則・不規則・語幹母音変化等)を確認しておくこと。
2	第7課(前半)	疑問詞、形容詞(復習) 身の回りの物を描写する	授業後、名詞と形容詞の対応関係を確認し、衣類その他装身具に関わる語彙を覚えておくこと。
3	第7課(後半)	動詞 querer、数詞(0~100までの復習) 買い物でよく使う表現	授業後、動詞 quere r の活用と用法を確認し、色や素材に関わる語彙を覚えておくこと。
4	第8課(前半)	動詞 estar と hay (復習)、位置関係を示す前置詞 部屋の中にあるものを描写する	授業後、学習した前置詞の種類と用法を確認して、位置関係を示す語彙を覚えておくこと。
5	第8課(後半)	数詞(100以上)、目的、手段、原因等を示す前置詞 住まいについて尋ねる・答える	授業後、数詞(100以上)とよく使う前置詞の種類および用法を覚えておくこと。
6	第9課(前半)	疑問詞、動詞 ser (復習) 時刻や日付を尋ねる、答える	授業後、月や曜日等、日付に関わる語彙と表現を覚えておくこと。
7	第9課(後半)	再帰動詞の基本的用法 日課について尋ねる、答える	授業後、再帰動詞の活用と用法を確認し、日課に関わるその他の動詞とともに覚えておくこと。
8	学習内容の確認	第7回までに学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に第7回までに習った語彙や表現を総確認しておくこと。
9	第10課(前半)	再帰動詞の派生的用法、無人称の se、 序数 大学生活について話す	授業後、再帰動詞の様々な用法について確認し、序数を覚えておくこと。
10	第10課(後半)	肯定命令文 公共施設でのマナーについて話す	授業後、肯定命令文のつくり方を確認し、10課で習った動詞を覚えておくこと。
11	第11課(前半)	過去分詞、現在完了 娯楽について話す	授業後、現在完了形の活用と用法を確認し、趣味や娯楽に関わる語彙を覚えておくこと。
12	第11課(後半)	動詞 gustar や再帰動詞の現在完了 旅行について話す	授業後、様々な動詞の現在完了の形を確認し、旅行に関連する語彙を覚えておくこと。
13	第12課(前半)	動詞 ir の様々な用法、不定詞の用法 休暇中の予定について話す	授業後、不定詞の使い方に関するルールを確認し、自分の休暇の予定についてスペイン語で書いてみる。
14	第12課(後半)	前置詞句、よく使う動詞の復習 手紙やメールを書く	授業後、よく使う動詞の意味と活用および前置詞句を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に、これまでに学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト+提出物(発表)+理解度確認テスト
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	レアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学修に各1時間を要する。
----	-------------------

科目名	スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マツダイラ キーメル

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。 後期は前期の学習内容の確認から始めて、教科書第7課以降の各課を授業二回のペースで進めてゆき、12課まで学習する予定です。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認	前期に習った文法事項や表現を復習する	授業後、復習した動詞の意味と活用の種類(規則・不規則・語幹母音変化等)を確認しておくこと。
2	第7課(前半)	疑問詞、形容詞(復習) 身の回りの物を描写する	授業後、名詞と形容詞の対応関係を確認し、衣類その他装身具に関わる語彙を覚えておくこと。
3	第7課(後半)	動詞 querer、数詞(0~100までの復習) 買い物でよく使う表現	授業後、動詞 quere r の活用と用法を確認し、色や素材に関わる語彙を覚えておくこと。
4	第8課(前半)	動詞 estar と hay (復習)、位置関係を示す前置詞 部屋の中にあるものを描写する	授業後、学習した前置詞の種類と用法を確認して、位置関係を示す語彙を覚えておくこと。
5	第8課(後半)	数詞(100以上)、目的、手段、原因等を示す前置詞 住まいについて尋ねる・答える	授業後、数詞(100以上)とよく使う前置詞の種類および用法を覚えておくこと。
6	第9課(前半)	疑問詞、動詞 ser (復習) 時刻や日付を尋ねる、答える	授業後、月や曜日等、日付に関わる語彙と表現を覚えておくこと。
7	第9課(後半)	再帰動詞の基本的用法 日課について尋ねる、答える	授業後、再帰動詞の活用と用法を確認し、日課に関わるその他の動詞とともに覚えておくこと。
8	学習内容の確認	第7回までに学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に第7回までに習った語彙や表現を総確認しておくこと。
9	第10課(前半)	再帰動詞の派生的用法、無人称の se、 序数 大学生活について話す	授業後、再帰動詞の様々な用法について確認し、序数を覚えておくこと。
10	第10課(後半)	肯定命令文 公共施設でのマナーについて話す	授業後、肯定命令文のつくり方を確認し、10課で習った動詞を覚えておくこと。
11	第11課(前半)	過去分詞、現在完了 娯楽について話す	授業後、現在完了形の活用と用法を確認し、趣味や娯楽に関わる語彙を覚えておくこと。
12	第11課(後半)	動詞 gustar や再帰動詞の現在完了 旅行について話す	授業後、様々な動詞の現在完了の形を確認し、旅行に関連する語彙を覚えておくこと。
13	第12課(前半)	動詞 ir の様々な用法、不定詞の用法 休暇中の予定について話す	授業後、不定詞の使い方に関するルールを確認し、自分の休暇の予定についてスペイン語で書いてみる。
14	第12課(後半)	前置詞句、よく使う動詞の復習 手紙やメールを書く	授業後、よく使う動詞の意味と活用および前置詞句を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に、これまでに学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト+提出物(発表)+理解度確認テスト
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	レアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。 後期は前期の学習内容の確認から始めて、教科書第7課以降の各課を授業二回のペースで進めてゆき、12課まで学習する予定です。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級
-------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認	前期に習った文法事項や表現を復習する	授業後、復習した動詞の意味と活用の種類(規則・不規則・語幹母音変化等)を確認しておくこと。
2	第7課(前半)	疑問詞、形容詞(復習) 身の回りの物を描写する	授業後、名詞と形容詞の対応関係を確認し、衣類その他装身具に関わる語彙を覚えておくこと。
3	第7課(後半)	動詞 querer、数詞(0~100までの復習) 買い物でよく使う表現	授業後、動詞 quere r の活用と用法を確認し、色や素材に関わる語彙を覚えておくこと。
4	第8課(前半)	動詞 estar と hay (復習)、位置関係を示す前置詞 部屋の中にあるものを描写する	授業後、学習した前置詞の種類と用法を確認して、位置関係を示す語彙を覚えておくこと。
5	第8課(後半)	数詞(100以上)、目的、手段、原因等を示す前置詞 住まいについて尋ねる・答える	授業後、数詞(100以上)とよく使う前置詞の種類および用法を覚えておくこと。
6	第9課(前半)	疑問詞、動詞 ser (復習) 時刻や日付を尋ねる、答える	授業後、月や曜日等、日付に関わる語彙と表現を覚えておくこと。
7	第9課(後半)	再帰動詞の基本的用法 日課について尋ねる、答える	授業後、再帰動詞の活用と用法を確認し、日課に関わるその他の動詞とともに覚えておくこと。
8	学習内容の確認	第7回までに学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に第7回までに習った語彙や表現を総確認しておくこと。
9	第10課(前半)	再帰動詞の派生的用法、無人称の se、序数 大学生生活について話す	授業後、再帰動詞の様々な用法について確認し、序数を覚えておくこと。
10	第10課(後半)	肯定命令文 公共施設でのマナーについて話す	授業後、肯定命令文のつくり方を確認し、10課で習った動詞を覚えておくこと。
11	第11課(前半)	過去分詞、現在完了 娯楽について話す	授業後、現在完了形の活用と用法を確認し、趣味や娯楽に関わる語彙を覚えておくこと。
12	第11課(後半)	動詞 gustar や再帰動詞の現在完了 旅行について話す	授業後、様々な動詞の現在完了の形を確認し、旅行に関連する語彙を覚えておくこと。
13	第12課(前半)	動詞 ir の様々な用法、不定詞の用法 休暇中の予定について話す	授業後、不定詞の使い方に関するルールを確認し、自分の休暇の予定についてスペイン語で書いてみる。
14	第12課(後半)	前置詞句、よく使う動詞の復習 手紙やメールを書く	授業後、よく使う動詞の意味と活用および前置詞句を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に、これまでに学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト+提出物(発表)+理解度確認テスト
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	レアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する
----	-------------------



科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習 I と II で同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業 (競技) への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習 I と II で同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業 (競技) への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。

科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)
----	-------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。)授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・ラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。

科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
----------	-----------------

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)
----	-------------------------------

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
-----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。			
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。			
科目学習の効果 (資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動 1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動 2	自己 PR を書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール 1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール 2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール 3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール 4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール 5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール 6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール 7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール 8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール 9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	(1)宿題 (教員へのメール送信) は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。			

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————
	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習
	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習
	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習
	5	Eメール2	お知らせメール	復習
	6	Eメール3	お誘いメール	復習
	7	Eメール4	リマインドメール	復習
	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習
	9	Eメール6	依頼メール	復習
	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習
	11	Eメール8	お礼のメール	復習
	12	Eメール9	断りメール	復習
	13	Eメール10	クレームのメール	復習
	14	手紙	お礼状を書く	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。

到達目標 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。

授業方法と留意点 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。

科目学習の効果 (資格) 中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	練習問題を解答する。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	練習問題を解答する。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	命令文, 同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第4課 おいくら?	動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第4課 おいくら?	こそあどの言い方, 単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第5課 どの先生が好き?	前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目 中国語 II b

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準) 授業参加と単元テストによる。

学生へのメッセージ 教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1.5時間ずつ要します。

担当者の研究室等 7号館3階 (兪研究室)

備考



科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的 正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。

到達目標 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。

授業方法と留意点 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。

科目学習の効果 (資格) 中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	練習問題を解答する。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	練習問題を解答する。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	命令文, 同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第4課 おいくら?	動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第4課 おいくら?	こそあどの言い方, 単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第5課 どの先生が好き?	前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目 中国語 II b

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準) 授業参加と単元テストによる。

学生へのメッセージ 教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前事後の学修に各1時間要する。

担当者の研究室等 非常勤講師室 (7号館2階)

備考

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第6課 今は3時5分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	副詞「經常」、例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第8課 小説は好きなの？	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第8課 小説は好きなの？	前置詞「離」、前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課 北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト2 助詞「過」、助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課 北京ダックを食べたことある？	副詞「再」、副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」、副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」、仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱa
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	撰南大学 中国語入門	撰南大学外国語学部編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法(基準)	授業参加と単元テストによる。
----------	----------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第6課 今は3時5分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	副詞「經常」、例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第8課 小説は好きなの？	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第8課 小説は好きなの？	前置詞「離」、前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課 北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト2 助動詞「過」、助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課 北京ダックを食べたことある？	副詞「再」、副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」、副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」、仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱa
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業参加と単元テストによる。
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	



科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美徳

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美徳

授業概要・目的	日本語会話F Iと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
	8	トピック⑦	議論	復習
	9	トピック⑧	議論	復習
	10	トピック⑨	議論	復習
	11	トピック⑩	議論	復習
	12	トピック⑪	議論	復習
	13	トピック⑫	議論	復習
	14	トピック⑬	議論	復習
	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る</p> <p>②まとまった内容の文章の大意を把握する</p> <p>③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																



科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る</p> <p>②まとまった内容の文章の大意を把握する</p> <p>③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 I
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。 語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	語彙テスト、授業への参加態度(課題やタスクへの取り組み)等を総合的に評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。																																																																		
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につけることを目指す。
到達目標	レポートや論文の適切な表現、書き方のルールを身につける。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成する。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。 また、授業内で書き進めたレポートを評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学び、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指す。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文Ⅱ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題、授業への参加態度等を総合的に評価する。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級の文法項目が適切に使えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習																																																																
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	日本語文法 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的  
この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標  
中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点  
教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果 (資格)  
高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目  
日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
小テスト、授業への参加態度 (練習への取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!

担当者の研究室等  
7号館2階 (非常勤講師室)

備考  
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。  
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。



科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的 この授業では、中上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。適宜、小テストを行う。

到達目標 中上級の文法項目が適切に使えるようになる。

授業方法と留意点 教員による解説と練習を繰り返しながら進める。

科目学習の効果(資格) 高度な日本語運用能力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目 日本語読解 I

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト、授業への参加態度(練習への取り組み)等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ 日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 (1)授業外の質問等には、メールで対応する。  
(2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
	2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
	9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情F II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	日本事情R II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
----------	--------------

備考	
----	--



# 教 養 科 目





科目名	朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	科目名(英文)	face modern society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	朝日新聞社の現役記者が講師として、様々な社会問題の読み解き方や論理的文章の書き方について講義する。異なるテーマについて、それぞれ学生との意見交換を経たうえで、小論文を作成する。論文は全員分を持ち帰って添削し、後日の講義で講評する。
到達目標	新聞を通じて、社会の諸問題についての理解を深めるとともに、文章力や自己表現力を磨き、学生の「社会力」を高める。
授業方法と留意点	新聞を全員に配布したうえで、講義と意見交換、小論文作成と添削・講評をセットにした授業を展開する。
科目学習の効果(資格)	現代社会への問題意識を深め、文章力や論理的思考力を向上させる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	新聞の読み解き方	講義の目標、進め方、評価方法の説明、新聞の読み解き方の説明	事前に新聞を読んでおく
	2	論理的文章の書き方	論理的文章の書き方の説明	文章を書く習慣をつけておく
	3	海外の若者事情	海外の若者事情について説明	難民問題などについて考えをまとめておく
	4	同上	小論文作成	同上
	5	同上	海外の若者事情について解説、意見交換	同上
	6	同上	小論文の講評	同上
	7	正規雇用と非正規雇用の是非	正規雇用と非正規雇用について説明	雇用問題について考えをまとめておく
	8	同上	小論文作成	同上
	9	同上	正規雇用と非正規雇用について解説、意見交換	同上
	10	同上	小論文の講評	同上
	11	少子高齢化と18歳選挙権	少子高齢化と18歳選挙権について説明	少子化・高齢化と選挙制度との関わりを調べておく
	12	同上	小論文作成	同上
	13	同上	少子高齢化と18歳選挙権について解説、意見交換	同上
	14	同上	小論文の講評	同上
	15	社会問題の読み解き方	社会問題の読み解き方について説明、総括レポート作成	様々な社会問題について考えをまとめておく

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小論文3回×30点、総括レポート10点。100点満点で評価し60点で合格。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	日常的に新聞を読む習慣をつけることで視野が広くなり、社会で生きる力を身につけることができます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	教務部 教務課(寝屋川11号館1階)
------------	--------------------

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。  V科の学習・教育目標との対応：A R科の学習・教育目標との対応：A A科の学習・教育到達目標との対応：A M科の学習・教育到達目標との対応：A1 E科の学習・教育到達目標との対応：B C科の学習・教育到達目標との対応：II
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
	2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
	3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
	4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
	5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
	6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
	7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
	8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
	9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
	10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
	11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
	12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
	13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップII（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ インターシップの流れは以下のとおりである。  
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定）  
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館5階 キャリア教育推進室（石井）

備考 教科書・・・必要に応じてレジュメを配布  
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示  
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。  
なお、事前事後学習には毎回1時間以上かけること。

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的  
インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。

到達目標  
インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。  
V科の学習・教育目標との対応：A  
R科の学習・教育目標との対応：A  
A科の学習・教育到達目標との対応：A  
M科の学習・教育到達目標との対応：A1  
E科の学習・教育到達目標との対応：B  
C科の学習・教育到達目標との対応：II

授業方法と留意点  
「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。  
実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。  
事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。  
受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。

科目学習の効果(資格)  
就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	直前学修① 6月18日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	社会人を意識したスーツ着用のこと。身だしなみを自分なりに整えてくること。
2	直前学修② 6月18日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	マナーについて考えること。
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
8	事後学修① 9月24日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② 9月24日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ 10月1日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ 10月1日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ 10月15日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してくること。
13	事後学修⑥ 10月15日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してくること。
14	事後学修⑦ 10月29日(土) 1限目(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 10月29日(土) 2限目(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ	全員スーツ着用

関連科目  
インターンシップⅠ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。

学生への メッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、2月のガイダンスに出席、し履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。  なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してくること。

科目名	環境学	科目名(英文)	Environmental Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、最も深刻な状況にある環境問題を取り上げ、その現状を分析していく。</li> <li>・ 早急に対策をとらねばならない「地球温暖化問題」について、その現状から対策にいたるまで、詳細に解説する。</li> <li>・ その他、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、砂漠化問題、酸性雨問題、海洋汚染問題などを取りあげる。</li> <li>・ われわれが具体的に取り組まなければならない「保全・対策問題」について明らかにする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球環境問題の現状を理解する。</li> <li>・ さまざまな環境問題についてその解決法を検討する。</li> </ul>
授業方法と留意点	板書を中心に、適宜プリントを配布して解説する。また、ビデオ教材を毎回使用し、具体的な事例を示しつつ、環境問題の深刻さを浮き彫りにしたい。
科目学習の効果(資格)	世界のさまざまな環境問題についての認識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地球環境問題とは何か	環境問題をどのようにとらえるか、地球環境問題の概要	環境問題とは何かを整理する
2	環境変化のプロセス	環境変化の現状、環境変化に対する従来の提言	環境問題の現状をまとめる
3	地球温暖化 I	地球の温度と温室効果、温室効果ガス	温室効果ガスとは何かをまとめる
4	地球温暖化 II	北極圏の現状、永久凍土の融解、気温上昇と生態系の破壊	北極圏の現状を整理する
5	地球温暖化 III	南極の現状、氷河融解とその影響	南極大陸の現状を整理する
6	地球温暖化 IV	赤道地帯の現状、海面上昇と海岸侵食、水没と国土の保全	海面上昇の現状をまとめる
7	第1回から第6回までのまとめと理解度確認テスト	第1回から第6回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テストで解答できなかった内容を整理し、復習する
8	オゾン層破壊	オゾン層とフロン、その破壊のメカニズム、オゾン層破壊とその実態、その影響とフロン対策	オゾン層破壊の現状をまとめる
9	熱帯林破壊	世界の植生と熱帯林、熱帯林減少の要因、熱帯林減少とその影響、熱帯林の保全	熱帯林破壊の現状をまとめる
10	砂漠化	砂漠の分布とその現状、砂漠化の要因、砂漠化改善への対策	砂漠化の現状を整理する
11	大気汚染と酸性雨	酸性雨の現状、酸性雨の影響、酸性雨対策	酸性雨被害をまとめる
12	海洋汚染	海洋汚染の現状、富栄養化と赤潮、原油汚染、人工的有機物と無機物の汚染	海洋汚染の現状をまとめる
13	地球環境問題解決に向けて	現在における環境問題の現状と問題点	環境問題の現状を整理する
14	第8回から第13回までのまとめと理解度確認テスト	第8回から第13回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テストで解答できなかった内容を整理し、復習する
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	地球環境問題の整理とまとめ	環境問題解決の方法をまとめる

関連科目	エコソリズム論、エアスタディズ、風土と地理
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	使用しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜紹介する		
2				
3				

評価方法(基準)	2回の理解度確認テストの成績を中心に、授業参加状況、講義態度も考慮して、総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	板書した内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオ内容も要約して、しっかりノートに取る習慣を身につけて下さい。事前・事後に各1時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(原研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾山 廣

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。地域連携センター所属の教職員が授業の企画・運営に参画する。毎回、授業時間内に授業内容に沿ったレポート課題を課す(15分以上の遅刻には課題用紙を配布しない)。なお、事前に、北河内8市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、自分自身が学ぶ摂南大学の歴史と、地域で活躍する方々の思いや人生観に触れることで、この地域がどのようなところで、そこには何があるのかを発見できる。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内を知る」	摂南大学の歴史と教育の理念、本学と地域社会との関わりなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	2	地域を考える(1)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取り組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	3	地域を考える(2)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取り組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	4	地域を考える(3)	北河内各市や関連地域の現状と課題、本学の学生の取り組みなどを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	5	グループ・ディスカッション(1)	「地域を考える」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
	6	地域をつくる(1)	北河内地域をモデルに都市の景観やシビルデザインの考え方を紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	7	地域をつくる(2)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	8	地域をつくる(3)	北河内地域の交通網やライフラインの整備状況や計画などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	9	地域をつくる(4)	北河内地域の環境とその保全、河川整備や防災対策などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	10	グループ・ディスカッション(2)	「地域をつくる」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
	11	地域をまなぶ(1)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	12	地域をまなぶ(2)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	13	地域をまなぶ(3)	北河内地域の地場産業(商工業、農業)や社会貢献活動などを紹介する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	14	地域をまなぶ(4)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化などを説明する。	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
	15	グループ・ディスカッション(3)	「地域をまなぶ」の全体を通じた課題について討議し、理解を深める。	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の講義におけるレポート課題に対する評価とグループ・ディスカッションの相互評価(外部講師、教職員、学生など)を総合して評価する。なお、受講態度等を勘案し、更なるレポートを課すことがある(評価に加味)。
----------	---

学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?
-----------	----------------------

担当者の研究室等	1号館9階 尾山教授室
----------	-------------

備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。
----	--

教養科目

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平野 泰朗

授業概要・目的	経済現象を理解するために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方、すなわち「エコノミックリテラシー」を、現実の経済現象を事例として参照しながら、系統的に理解することを目的とする。
到達目標	1. 経済関連のニュースに関心をもつ。 2. 日本経済新聞をすらすら読める。 3. 経済関連のニュースを分類しファイルに整理できる。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。
科目学習の効果(資格)	社会に出て働く前に、仕事と経済に関する予備知識を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済世界の出发点:企業とは何か	消費者にとっての企業ではなく、人が働く組織としての企業を「契約の束としての企業」と「能力の蔵としての企業」の観点から分析する。	講義内容の復習
2	企業と労働者(1)労働編成様式と技能形成	企業と老僧社の関係を労働編成様式と技能形成の観点から考察する。	講義内容の復習
3	企業と労働者(2)労使関係	企業と労働者の関係を、具体的には日本的労使関係を例に取り、労使関係の中で考察する。	講義内容の復習
4	企業統治の仕組みとモニタリング	企業を所有・経営・労働の複合体と捉え、その統治の仕組みを考察する。併せて、企業活動のモニタリングの方法についても考察する。	講義内容の復習
5	企業間関係	企業間取引における問題解決方法を、市場的解決、組織的解決、中間組織による解決に分けて考察する。	講義内容の復習
6	流通制度	流通の種類、一般的機能を考察した後、現代日本における流通の特徴について考察する。	講義内容の復習、
7	金融と産業の関係(1)貸付	金融の実務内容を確認した後、社会全体における金融の役割(遊休貨幣の供給)を考察する。その上で、日本のメインバンク制の特徴を理解する。	講義内容の復習
8	金融と産業の関係(2)証券市場	さまざまな有価証券の発行による資金調達とそのリスク分散の仕組みを考察する。	講義内容の復習
9	国民経済(1)再生産圏	企業・産業の視点から社会全体の視点へ分析視角を移す。そこで必要な人間の生存条件(消費財)と生産条件(生産財)の再生産の4条件を考察する。 中間テスト	講義内容の復習
10	国民経済(2)経済成長	経済成長の供給側と需要側の条件が何であるかを考察する。その上で、所得分配と経済成長の関係を考察する。	講義内容の復習
11	国家の役割と財政政策	近代国家の一般的な役割を考察した上で、現代における財政の機能と効果を分析する。	講義内容の復習
12	金融政策と金融危機	ケインズの金融政策の理論と実施方法を考察する。その上で、現代の金融危機の原因と対応策を考察する。	講義内容の復習
13	国際経済(1)貿易と輸出主導型成長	国際貿易(外国為替)の仕組みを理解した上で、そうした仕組みが現実経済にどのように影響するかを、日本の輸出主導型成長を例に取り考察する。	講義内容の復習
14	国際経済(2)海外直接投資と所得収支	貿易以外の国際取引としての海外直接投資のあり方を検討する。同時に、海外子会社から送られる投資収益の国レベルでの集計値である所得収支の意味を考察する。	講義内容の復習
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社
2				
3				

評価方法(基準) 視聴覚教材の感想文20%、中間テスト20%、定期試験60%で評価する。

学生へのメッセージ 就職する前も、就職した後も、経済に関するものの見方を習得しておくことは必要です。経済現象は、架空のことではなく、日々起こっていることがらだからです。まずは、多くのニュースに「なぜ?」と思うことから始めましょう。

担当者の研究室等 1号館7階 平野教授室(経済学部)

備考 受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。

科目名	経済のしくみ	科目名(英文)	Basic Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平野 泰朗

授業概要・目的	経済現象を理解するために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方、すなわち「エコノミックリテラシー」を、現実の経済現象を事例として参照しながら、系統的に理解することを目的とする。
到達目標	1. 経済関連のニュースに関心をもつ。 2. 日本経済新聞をすらすら読める。 3. 経済関連のニュースを分類しファイルに整理できる。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。
科目学習の効果(資格)	社会に出て働く前に、仕事と経済に関する予備知識を獲得できる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業と労働者(1)労働編成様式と技能形成	企業と老舗社の関係を労働編成様式と技能形成の観点から考察する。	講義内容の復習
3	企業と労働者(2)労使関係	企業と労働者の関係を、具体的には日本的労使関係を例に取り、労使関係の中で考察する。	講義内容の復習
4	企業統治の仕組みとモニタリング	企業を所有・経営・労働の複合体と捉え、その統治の仕組みを考察する。併せて、企業活動のモニタリングの方法についても考察する。	講義内容の復習
5	企業間関係	企業間取引における問題解決方法を、市場的解決、組織的解決、中間組織による解決に分けて考察する。	講義内容の復習
6	流通制度	流通の種類、一般的機能を考察した後、現代日本における流通の特徴について考察する。	講義内容の復習、
7	金融と産業の関係(1)貸付	金融の実務内容を確認した後、社会全体における金融の役割(遊休貨幣の供給)を考察する。その上で、日本のメインバンク制の特徴を理解する。	講義内容の復習
8	金融と産業の関係(2)証券市場	さまざまな有価証券の発行による資金調達とそのリスク分散の仕組みを考察する。	講義内容の復習
9	国民経済(1)再生産圏	企業・産業の視点から社会全体の視点へ分析視角を移す。そこで必要な人間の生存条件(消費財)と生産条件(生産財)の再生産の4条件を考察する。 中間テスト	講義内容の復習
10	国民経済(2)経済成長	経済成長の供給側と需要側の条件が何であるかを考察する。その上で、所得分配と経済成長の関係を考察する。	講義内容の復習
11	国家の役割と財政政策	近代国家の一般的な役割を考察した上で、現代における財政の機能と効果を分析する。	講義内容の復習
12	金融政策と金融危機	ケインズの金融政策の理論と実施方法を考察する。その上で、現代の金融危機の原因と対応策を考察する。	講義内容の復習
13	国際経済(1)貿易と輸出主導型成長	国際貿易(外国為替)の仕組みを理解した上で、そうした仕組みが現実経済にどのように影響するかを、日本の輸出主導型成長を例に取り考察する。	講義内容の復習
14	国際経済(2)海外直接投資と所得収支	貿易以外の国際取引としての海外直接投資のあり方を検討する。同時に、海外子会社から送られる投資収益の国レベルでの集計値である所得収支の意味を考察する。	講義内容の復習
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図解雑学 資本主義のしくみ</td> <td>八木紀一郎他</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社														
2																	
3																	

評価方法(基準)	視聴覚教材の感想文20%、中間テスト20%、定期試験60%で評価する。
学生へのメッセージ	就職する前も、就職した後も、経済に関するものの見方を習得しておくことは必要です。経済現象は、架空のことではなく、日々起こっていることがらだからです。 まずは、多くのニュースに「なぜ?」と思うことから始めましょう。
担当者の研究室等	1号館7階 平野教授室(経済学部)
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。



科目名	芸術論	科目名(英文)	Fine Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どのような社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の美術や文化を知ることが、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。

科目学習の効果(資格)	日本文化・美術に関する基本的な知識を身につける。学芸員資格に必要である。
-------------	--------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	奈良時代 飛鳥美術	法隆寺の美術	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、飛鳥時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
2	奈良時代 天平美術	興福寺・東大寺の仏像	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、天平時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
3	平安時代 密教美術	曼荼羅／密教彫刻	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安前期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
4	平安時代 浄土教美術	平等院	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安後期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
5	平安時代 四大絵巻物	源氏物語絵巻／信貴山縁起／伴大納言絵巻／鳥獣戯画	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、院政期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
6	鎌倉時代 鎌倉彫刻	運慶	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
7	鎌倉時代 祖師絵伝絵巻	一遍聖絵／華嚴縁起	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉新仏教について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
8	鎌倉時代 肖像画	似絵	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、金倉後期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
9	室町時代 水墨画	雪舟	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
10	桃山時代 金碧障壁画	狩野永徳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、桃山時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
11	江戸時代 流派体制の確立	狩野探幽	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸初期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
12	江戸時代 琳派の継承	俵屋宗達／尾形光琳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
13	江戸時代 浮世絵1	菱川師宣／鈴木春信	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸後期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
14	江戸時代 写生派	円山応挙	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、円山派について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
15	江戸時代 浮世絵2	歌麿／北斎／広重	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、作品を見ておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)

関連科目	日本史学・日本文化史、学芸員課程の科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

教養科目

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原色日本の美術		小学館
	2	人間の美術	梅原猛	学習研究社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験			
学生への メッセージ	専用のノートを作り、毎回持参すること。博物館・美術館・寺・神社などに出かけて実際に美術を見に行ってください。			
担当者の 研究室等	7号館5階(岩間研究室)			
備考				

科目名	健康科学	科目名(英文)	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美

授業概要・目的	<p>私たちを取り巻く社会は交通手段の発達や家事の自動化など利便性が増した結果、人々の身体活動量が著しく低下している。さらに食生活の欧米化等も影響して、肥満症や生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、社会の多様化・情報化なども少なからず影響してここの健康を害する人口も増加しており、メンタルヘルス対策も重要な社会問題となっている。</p> <p>本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたる心身の健康の維持・増進を目指して、健康に関する「科学的根拠に基づいた知識」を幅広く学び、講義内容を実践できる能力を修得することを目的とする。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
到達目標	健康は、知的職業人として生きていくうえの基盤である。健康に関する幅広い知識を理解し実生活に応用、心身両面における健康を保持することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	日本人の健康に関する現状を理解し、本講義の意義について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
2	健康づくりの三本柱	運動・栄養・休養について概要を説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
3	身体の生理機能	恒常性(ホメオスタシス)について理解し、生体が外部・内部環境の変化にどのように適応しているか、具体的に説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群を正しく理解し、運動トレーニングがどのように貢献しているか説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
5	運動トレーニングで何がかわるのか?	運動トレーニングによる筋力増強、持久力向上、エネルギー代謝の改善、またストレス軽減作用について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
6	どんな運動が健康によいのか?	肥満解消、筋力増大、メンタルヘルスの保持など目的に応じたトレーニング方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
8	食生活と健康	望ましい食事バランスや量について理解し、簡単な献立を立てることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
9	ダイエット計画	体重と体脂肪率が表現することを正しく理解し、減量が必要な場合の望ましいダイエット方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
10	女性の健康・男性の健康	性別による生理的特徴を理解し、女性の月経や妊娠について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
11	ストレスマネジメント	ストレスの定義について理解し、それを軽減し得る方法について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
12	睡眠	睡眠の段階的役割を含めた必要性や、日中の生活へ及ぼす影響について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールの代謝や遺伝的要因、タバコ、薬物が身体にもたらす影響について説明できる。また性感染症について罹患の原因、対策について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
14	高齢者の介護予防と運動	高齢者の形態・機能的特徴を理解すると共に、介護について説明できる。さらに運動など生活習慣が及ぼす影響についても説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に課題を提示する。</li> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> <li>・次回の授業の予習をすること。</li> </ul>
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート等で復習すること。</li> </ul>

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持が大切です。「病気にかかってから治療する」のではなく「病気にかからない」ための正しい知識を身につけ、それを実践して健康な日々を送りましょう！
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 藤林研究室
備考	1) 毎回の課題は 1 時間以上かけて作成のこと。 2) 毎回の課題以外に、講義の予習復習として 30 分以上かけること。 3) 自主学習は試験の準備を含めて、20 時間かけること。

科目名	現代社会と法	科目名(英文)	Law in Contemporary Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。</li> <li>このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な法規範を適用ないし運用する上で、当該法規範の趣旨を確認し、さらにその修正規範を確実にとおさえる。</li> <li>民事法と刑事法の違いについて、具体的に他者に説明できるようにする。</li> <li>身近な事例について法学的アプローチをすることができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義形式によるが、教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。</li> </ul>

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	家族関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>婚約とその不当破棄</li> <li>内縁と重婚の内縁関係</li> <li>婚姻の効果</li> <li>婚姻費用</li> <li>日常家事債務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
3	家族関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>離婚</li> <li>協議離婚と調停離婚</li> <li>裁判離婚</li> <li>離婚原因</li> <li>有責配偶者の離婚請求ほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
4	家族関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子</li> <li>認知と非嫡出子</li> <li>親族間の扶養</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
5	家族関係と法(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相続</li> <li>遺留分</li> <li>寄与分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
6	財産関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約と意思表示</li> <li>契約と当事者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
7	財産関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>債務不履行と危険負担</li> <li>契約の解除</li> <li>瑕疵担保責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
8	財産関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務管理と不当利得</li> <li>不法行為</li> <li>使用者責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
9	医療と法	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療契約</li> <li>医療過誤</li> <li>専断的医療行為</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
10	消費者と法	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問販売</li> <li>マルチ商法</li> <li>ローンとクレジット契約</li> <li>製造物責任法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
11	職場と法	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働法とは何か</li> <li>労働紛争の諸類型</li> <li>ブラック企業</li> <li>非正規雇用の問題点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
12	犯罪と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>刑法の意義</li> <li>罪刑法定主義とその派生原則</li> <li>犯罪論</li> <li>緊急行為</li> <li>未遂と共犯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
13	犯罪と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>逮捕と勾留</li> <li>捜索と差押</li> <li>公訴の提起</li> <li>少年法の特例</li> <li>死刑をめぐる諸問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
14	人権と国際法	<ul style="list-style-type: none"> <li>立憲主義と憲法</li> <li>自由権と社会権</li> <li>国際関係と紛争</li> <li>集団的自衛権</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>
15	法の適用、法源及び法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>制定法と慣習法</li> <li>判例・学説・条理</li> <li>概念法学と自由法学</li> <li>文理解釈と論理解釈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：ノート作成と問題演習</li> </ul>

関連科目 日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎からわかる法学(第2版)	谷口 貴都=松原 哲	成文堂
2				

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	・原則として定期試験の得点により評価するが、質疑応答をした場合はその内容を得点にプラスの方向で反映させる。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	<p>事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組むこと。          事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組むこと。</p> <p>・受講生の興味や関心に応じて、例えば、刑事法や家族法分野を増やすなど、講義内容を多少変更することがある。</p>			

科目名	自然科学の理解	科目名(英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治, 井尻 貴之, 木村 朋紀, 長田 武, 西矢 芳昭, 松尾 康光, 丸山 如江, 村田 幸作, 吉岡 泰秀

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	講義内容について資料を配付し、パワーポイントを用いて解説する。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
2	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
3	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
4	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
5	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
6	最先端のバイオエネルギー技術	21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
7	新規エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
10	モデル生物を用いたバイオテクノロジー	近年の生命科学ではヒトの遺伝子機能や生体機能、遺伝性疾患のメカニズムの解析の方法として様々なモデル生物が盛んに用いられている。それらの応用例を実際の写真等を示しながら、実際の研究例や今後期待される展望を紹介する。	配布資料を復習する。
11	微生物酵素を用いる物質生産システム ～バイオテクノロジーを支える酵素利用技術～	酵素は優れた機能を有するタンパク質性の触媒であるが、産業で利用されている酵素の殆どは、加水分解酵素、転移酵素、異性化酵素などであり、反応に補酵素やエネルギーを要する酵素の利用に遅れが見られる。かかる酵素の産業への応用を可能にする酵素利用技術(固定化	配布資料を復習する。

教養科目

			酵素など)と酵素改変技術(分子進化工学、逆進化工学、タンパク質工学など)の現状と将来について概観する。																	
	12	遺伝子工学からゲノム工学へ～バイオテクノロジーを支える微生物の形質転換法～	微生物の遺伝子交換法として、形質導入、接合、及び形質転換の3つが知られている。ここでは、真核微生物であり、遺伝子発現などの分子機構において高等動物と共通性が高い出芽酵母における形質転換法の発展の経緯、方法、及びDNA取り込み機構を概観する。近年、進展の著しい巨大ゲノムDNAを扱う合成生物学やゲノム工学も展望する。	配布資料を復習する。																
	13	植物を用いた有用タンパク質生産	植物は、安全性、低コスト、分離精製の容易さなどの点から外来タンパク質の生産系として優れている。本講義では、植物を宿主とした生理活性タンパク質・ペプチドや抗体、ワクチン、医療用タンパク質などの生産について解説する。	配布資料を復習する。																
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。																
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。																
関連科目	科学技術教養V1																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	授業態度20%、受講メモ40%およびレポート、小論文、演習問題などの課題40%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能的食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。																			
担当者の研究室等	1号館8階 環境分析学研究室(青笹)																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																			



科目名	自然科学の理解	科目名 (英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二, 森山 正和, 稲地 秀介, 岩田 三千子, 白鳥 武, 平田 陽子, 本多 友常

授業概要・目的	日本の伝統的な住宅は、気候風土、地形、材料などに影響を受けて地方色が豊かであり、歴史的、文化的な相違からも地域性が認められる。現代の住まいや暮らしはそれらの影響を受けて、さまざまな技術の発達、社会の変化とともに、かつての住まいや暮らしの形は変容しつつある。このような身近な住まい、まち、暮らしについての知識を得て、今後の持続可能な社会を創造するための手法を学ぶ。
到達目標	到達目標：建築都市インテリアなどの空間における歴史的文化的背景による地域性を理解し、持続可能な社会を創造するためのまちづくりや住宅建築など、住環境の未来に向けたデザイン手法を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等		事前・事後学習課題
		(科目の内容、授業の進め方、評価基準等を説明する。)		
1	(オリエンテーション) 住まいと生活	住まいと何か。家庭生活や社会生活が複雑に多様化する中での住まいの本来の機能や役割について学ぶ。		配布資料講義部分の復習を十分に行う。
2	日本の住まいの地域性	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的日本住宅について学ぶ。		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	住宅とまちの関係	実例紹介に沿って住環境としてのまちなみの個性と課題を解説する。		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	まちのにぎわい	自然発生的建築の多義性、多様性を解説し、現代における住環境の空間デザイン論を語る。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	福祉住環境のデザイン	今までに携わってきた実例を紹介しつつ、住の延長としての医療福祉系住環境の課題を解説する。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	様々な人に配慮した住宅・施設設備	ユニバーサルデザインの観点からの住宅設備や施設設備について学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、高齢者をめぐる住宅行政や、様々な高齢者居住について学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	バイオミメティックデザイン	自然界における形態と構造とその応用デザインについて学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	具体的事例を通して、野生動物と人間が共存するための方策を学ぶ。		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	暮らしの中の太陽エネルギー利用	太陽光発電システムと太陽熱利用システムをとりあげ、暮らしの中の太陽エネルギー利用について学ぶ。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを考える。?		配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80% で評価する。 期末試験は行わない。
-----------	---

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を越えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
----------	------------------

備考	履修申請要領の「科目履修にあたっての注意事項」を遵守する。 事前・事後学習にかかる学習時間は、授業外の課題や小テストの学習時間も含めて、毎回1時間程度とすること。
----	--

科目名	自然科学の理解	科目名(英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鹿間 信介, 井上 雅彦, 大家 重明, 奥野 竜平, 片田 喜章, 工藤 隆則, 高瀬 冬人, 田口 俊弘, 西 恵理, 堀内 利一, 山本 淳治

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジーやロボット工学、また宇宙規模の電気の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。 また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史	琥珀はエレクトロン、磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hzと60Hz	テキストを復習する。1時間
3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1時間
4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1時間
5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1時間
6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1時間
7	電波と放送	電波の利用と電波法、初期のラジオ放送、電波に映像を載せる テレビ放送の開始からカラーテレビへ、デジタル化と双方向テレビ	テキストを復習する。1時間
8	携帯電話のしくみ	有線電話から無線へ、無線基地局と無線ゾーン、携帯電話がつながるしくみ、メールやWebへの応用、携帯電話のこれから	テキストを復習する。1時間
9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色LEDの発明、LED照明	テキストを復習する。1時間
10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1時間
11	電気通信から光通信へ	電気信号と光信号の変換、光で通信する光ファイバと高速・大容量化、光で測る	テキストを復習する。1時間
12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1時間
13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1時間
14	最新ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来 ハードとソフト(人工知能)はどこまでできているのか	テキストを復習する。1時間
15	電気と宇宙	第4の状態-プラズマ、放電の原理と応用、雷の発生原理、太陽プラズマと黒点の関係、オーロラの発光メカニズム	テキストを復習する。1時間

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度 20%, 受講メモ 40%, 小テスト 40%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館 4階・5階電気電子工学科教員室			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。			

科目名	自然科学の理解	科目名 (英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一, 神嶋 修, 寺本 恵昭, 中津 了勇, 安井 幸則

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。
科目学習の効果 (資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微積分学が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという2つ異なる個性が微積分学の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート
3	ヒルベルトのテーゼ: 無矛盾ならば存在する	微積分学が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート
4	現代科学は力(ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 $F$ を使って、なんだか良くわからない質量 $m$ を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は50年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート
7	内燃機関と熱力学	産業革命による蒸気機関の発達と、それをより効率化するための熱力学理論の発展を考える。	課題・レポート
8	鉄の数学イノベーション	見えない高炉の中で何が起こっているかを再現するために、熱伝導方程式の逆問題解析という手法がある。数学という基礎科学が鉄の製造現場でいかに役立っているかを紹介する。	課題・レポート
9	熱伝導を予測せよ	鉄をも溶かす高炉内の温度をどのように推定しているのか、その数学的道具を紹介する。	課題・レポート
10	角の3等分について(1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート
11	角の3等分について(2)	60度は3等分できない、体の考え方	課題・レポート
12	角の3等分について(3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート
14	特殊相対論――原理はたったの2つだけ	2つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート
15	一般相対論――重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか?	課題・レポート

関連科目	数学・物理の全科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	科学技術教養(基礎理工)		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義メモ40%, レポート60%で評価する。			
学生への メッセージ	思うほど科学と宗教は離れていないし、謙虚に自然の不思議さを感じれば、科学の目指しているところは誰にも理解できると思います。			
担当者の 研究室等	数学教員は3号館3階にいます。物理に関しては、研究室が分散しているので、まず8号館2階の物理準備室 に来てください。補助員さんが対応し、物理の先生方に連絡を取ってくれます。			
備考				

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的, 意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永見 誠二

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的, 意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているのかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的, 意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	週益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------



科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣

**授業概要・目的**  
就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。

**到達目標**  
就職活動に必要なとされる筆記試験の実力を身につけること

**授業方法と留意点**  
授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。

**科目学習の効果(資格)**  
就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・テスト	講座の目的、意義の確認・実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	復習①	今までの問題の復習	2~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)
9	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	集合	集合の基礎	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	復習②	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

**関連科目**  
キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜Smart SPIの活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校6年間の算数が6時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
2			
3			

**評価方法(基準)**  
小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%  
その他授業態度などで加減します。

**学生へのメッセージ**  
7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

**担当者の研究室等備考**  
7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	食品機能学	科目名(英文)	Functional Food Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系(体調リズム)、神経系(精神の高揚や鎮静)などの生体機能の調節に関する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得する。 学科の学習・教育目標との対応:[A],[F]
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、板書・プロジェクターにより講義を行う。 中間試験を行う。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。
科目学習の効果(資格)	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
3	活性酸素	活性酸素の生成メカニズムについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
4	活性酸素と疾病、がん、および老化	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
5	抗酸化(活性酸素除去)機能	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
6	消化、吸収のメカニズム	消化、吸収のメカニズムとミネラルについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
7	消化吸収促進と代謝改善機能	ミネラル吸収機能食と、大豆イソフラボンなどの代謝改善機能食品について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
8	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
9	脂質関連代謝機能	n-3系脂肪酸とn-6系脂肪酸、ジアシルグリセロールおよび中左脂肪酸について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
10	コレステロールの吸収・代謝	コレステロールの吸収・代謝と共役リノールについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
11	血圧、消化酵素阻害と糖尿病	レニン・アンジオテンシン系と血圧、消化酵素阻害と糖尿病について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
12	酵素阻害、酵素活性機能	血圧が高めのヒトのための食品、血糖値が気になり始めた人に適した食品、肥満の人のための食品および酵素活性化について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
13	免疫機能におよぼす機能	我が国における食物アレルギー患者の現状と、その発症機構および免疫機能を活性化する食品成分について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
14	神経系におよぼす機能	カプサイシン、γ-アミノ酸、杜仲葉における有用成分、食品タンパク質から得られる鎮静効果のあるペプチドなどの機能について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
15	演習	総復習	事前に、これまでの講義内容について整理しておく。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	臨時試験(50%)、中間試験(30%)、講義に取り組む姿勢(20%)により、総合的に評価する。 講義に取り組む姿勢を重視する。
学生へのメッセージ	本講義により、健康と食生活とのかかわりについての知識が得られます。授業では、理解度を確認するために演習問題に取り組んでもらいます。積極的に参加して下さい。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席してください。
担当者の研究室等備考	1号館8階 環境分析学(青笹)研究室

科目名	人体の構造と機能	科目名(英文)	Human Anatomy and Physiology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 哲郎

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシヤボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器官・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器官の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器官	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器官のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 II と連動している。
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表		浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テストを40%、臨時テストを40%および授業態度を20%で評価する
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1
----------	--------------------

備考	講義後の復習(ノートをまとめ、重要単語を暗記する1時間X15回)。
----	-----------------------------------

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、こどもの言語獲得、第二言語修得についても考察する。
到達目標	言語心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて、心理学的に説明し、考えることができるようになる。さらに、専攻言語の学習に活かすことができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。
科目学習の効果 (資格)	

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	本時の復習
	2	こどもの言語発達	こどもの言語発達	本時の予習と復習
	3	単語の理解	発話の知覚 心的辞書	本時の予習と復習
	4	文の理解	構文解析	本時の予習と復習
	5	文章理解	文章理解のモデル、スキーマ、スクリプト	本時の予習と復習
	6	文章産出1	作文の過程 作文の意義	本時の予習と復習
	7	文章産出2	読みやすい文章とは	本時の予習と復習
	8	会話1	会話の成立 対人配慮	本時の予習と復習
	9	会話2	攻撃、皮肉 誤解	本時の予習と復習
	10	ジェスチャー	ジェスチャーの種類 ジェスチャーの理解と産出	本時の予習と復習
	11	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	本時の予習と復習
	12	言語と思考	言語の思考への影響	本時の予習と復習
	13	言語獲得	ヒトの言語獲得 言語能力の個人差	本時の予習と復習
	14	第二言語習得	第二言語の認知過程	本時の予習と復習
	15	まとめ	ことばとコミュニケーションの心理学 について	本時の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート
学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて、少し意識的になってみてください。
担当者の研究室等	7号館3階
備考	

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習 I と II で同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目 生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	①運動技能を向上させることができる ②競技ルールを理解することができる ③学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を獲得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解
	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保健論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの実論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは、授業(競技)への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。
-----------	---

担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

教養科目

科目名	住まいとデザイン	科目名(英文)	Living Environment and Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北本 裕之

授業概要・目的	古来より人間は自然の力をかりて暮らしてきており、そこには多くの知恵と工夫を見ることが出来る。この授業では、インテリア・住宅・建築・まちを対象として、住まい方・デザイン・環境などに関するさまざまな事例を紹介しながら、デザイン性に優れた心地の良い空間を創り出し、快適・安全に暮らすための工夫や知恵について説明する。 将来、住み手の立場として必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
到達目標	将来、住み手の立場で、住宅を購入したり借りるようになった時に必要な基礎知識を身につけ、賢い消費者となることを目指す。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果(資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス+家族と住まい	授業の進め方や受講上の注意点などのガイダンスを行う。また、昨今の家族形態の変化と住まいの形の変化について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	2	子どものための生活空間	子どもの成長・発達段階を踏まえて、どのような生活空間が望ましいかについて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。また、近年の遊び場の状況についても考えてみよう。
	3	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	4	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の外出行動、生活環境の広がり と求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	5	住宅とまちの関係	地区の文脈を継承しつつ持続的に変容していく住まいとまちについて、生活の質とは何か、継承と変化がもたらすそれぞれの課題について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	6	福祉住環境のデザイン	人々は自立的な生活を営むために、常に他者の助けを必要としている。その住むことの多様性を支える場のあり方を福祉住環境のデザインを通して探っていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	7	自然の力をかりた住宅デザイン	古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地におけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	8	CGを用いた空間デザイン	CG (Computer Graphics) を用いて空間を表現する手法についての基礎的な知識と身近な事例について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	9	安心・安全な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法についての基礎的な知識と、計画手法を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	10	インテリアの照明計画	インテリアデザインにおける照明の役割と、さまざまな照明計画手法を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	11	生活の中における香の活用	屋内外の香り と人との関わりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	12	日本における木造住宅の考え方	日本の木造住宅はどのように変化してきたのか。その過去と未来を材料・構造・文化的側面から理解し、今後どのように進化させるべきかに役立てる。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	13	世界の住宅：デザイン・材料・構法・文化	世界各地の住宅はなぜそのようなデザインをしているのか。材料の制約が新しい構法を生み、新しい表現を建築文化にもたらしてきた事例を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	14	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現状を再考し、今後の暮らしのあり方について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	15	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各講義ごとに講義メモの提出やレポート課題の作成が課せられる。または小テストが行われる場合もある。それらを合わせて評価する。
学生への メッセージ	自分の周りにある住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。また、室内の家具や照明などにも目を向けてください。きっと新しい発見があることでしょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)
備考	



科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Living Environment and Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介、鄭 弼溶

授業概要・目的	古来より人間は自然の力をかりて暮らしてきており、そこには多くの知恵と工夫を見ることができる。この授業では、インテリア・住宅・建築・まちを対象として、住まい方・デザイン・環境などに関するさまざまな事例を紹介しながら、デザイン性に優れた心地の良い空間を創り出し、快適・安全に暮らすための工夫や知恵について説明する。 将来、住み手の立場として必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
到達目標	将来、住み手の立場で、住宅を購入したり借りるようになった時に必要な基礎知識を身につけ、賢い消費者となることを目指す。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス+家族と住まい	授業の進め方や受講上の注意点などのガイダンスを行う。また、昨今の家族形態の変化と住まいの形の変化について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	2	間取りから見る住まいの変遷?	間取りの構成はその住宅での住まい方と最も深く結びつく。これまでの間取りの変遷を追い、住まい方と生活空間のデザインとの関係を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	3	子どものための生活空間?	子どもの成長・発達段階を踏まえて、どのような生活空間が望ましいかについて学ぶ。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。また、近年の遊び場の状況についても考えてみよう。?
	4	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。?
	5	福祉住環境のデザイン?	人々は自立的な生活を営むために、常に他者の助けを必要としている。その住むことの多様性を支える場のあり方を福祉住環境のデザインを通して探っていく。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。?
	6	世界の住宅：デザイン・材料・構法・文化?その1	世界各地の住宅はなぜそのようなデザインをしているのか。材料の制約が新しい構法を生み、新しい表現を建築文化にもたらしてきた事例を学ぶ。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	7	世界の住宅：デザイン・材料・構法・文化?その2	世界各地の住宅はなぜそのようなデザインをしているのか。材料の制約が新しい構法を生み、新しい表現を建築文化にもたらしてきた事例を学ぶ。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	8	日本における木造住宅?	日本の木造住宅はどのように変化してきたのか。その過去と未来を材料・構法・文化的側面から理解し、今後どのように進化させるべきかに役立てる。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	9	住まいの中の色?	地域の材料や生活習慣によって現れるその地域特有の色に関する事例を通じて、住まいのデザインの中で色の持つ役割について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	10	住宅とまちの関係1 まち、むらの構造?	地区の文脈を継承しつつ持続的に変容していく住まいとまちの関係について、伝統的なまち、むらの成り立ちを学び、継承と変化がもたらすそれぞれの課題について考えていく。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	11	住宅とまちの関係2 まち、むらの構造?	地区の文脈を継承しつつ持続的に変容していく住まいとまちの関係について、計画的な住宅地の開発事例を学び、継承と変化がもたらすそれぞれの課題について考えていく。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	12	自然の力をかりた住宅デザイン?	古代より人間は自然と共生するためにさまざまな工夫をこらした。世界各地および日本におけるそれらの住まいの事例を学び、今後の暮らしのあり方について考える。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	13	都市デザインにおけるエコ技術?	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。?	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	14	ユーザー参加型の生活空間デザイン1	住宅や地域施設など様々な生活空間デザインに将来のユーザーがいかに関わる事ができるのか、その成果はどのようなものか、様々な事例を通じて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	15	ユーザー参加型の生活空間デザイン2	住宅や地域施設など様々な生活空間デザインに将来のユーザーがいかに関わる事ができるのか、その成果はどのようなものか、様々な事例を通じて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
関連科目	特になし			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義ごとに講義メモの提出やレポート課題の作成が課せられる。または小テストが行われる場合もある。それらを合わせて評価する。			
学生への メッセージ	自分の周りにある住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。また、室内の家具や照明などにも目を向けてください。きっと新しい発見があることでしょう。			
担当者の 研究室等	12号館7階 稲地准教授室			
備考				

科目名	生活のなかの数学	科目名(英文)	Mathematics in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公

授業概要・目的	授業で扱う題材は、高校までに一度は勉強したことのある算数や数学が中心です。授業では、そのような題材の、復習や日常生活の中に現れている例や関連する問題を紹介しながら、「考え、そして表現する」ことに取り組んでもらいます。授業を重ねるにつれ、「考えることは結構楽しい」「数学も悪くないな」と思えるようになってもらうことが目的です。
到達目標	日常生活での問題の中には、数学的な思考が役に立つこともあります。そのような考え方の例を知り、実際の問題において応用しようと試みられるようになること、が到達目標です。
授業方法と留意点	与えられた問題について、まず問題設定を聴き、次にいろいろ考え、さらに考えたことを発表し、最後に解説を聴く、というような「よく聴き、よく考え、そして理解する」を1コマで行なってもらいますので、講義を通じて高い集中力が要求されます。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の「数的推理」「判断推理」やSPIの非言語問題などの対策に効果があると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	数と式、因数分解	計算テクニックをいくつかを紹介します。どれも易しく説明できます。	講義で扱ったテクニックを実生活でも使ってみよう。
	2	平面幾何	主に中学校までで勉強した平面幾何について振り返ります。それをふまえて、「変な」命題を紹介します。	三角形の合同条件など、三角形について知っていることを確認しておこう。
	3	一次関数	一次関数について振り返ります。それをふまえて、一見一次関数と関係ないような変わった話題を紹介します。	一次関数について今までに勉強してきたことを復習しておこう。
	4	二次関数	二次関数のグラフの形は放物線です。放物線の性質について紹介します。	身の回りの放物線の形をしているものを探してみよう。
	5	確率	確率について振り返ります。応用として条件付き確率も扱います。	確率の計算の考え方を復習しておこう。
	6	指数	指数の定義と性質について振り返り、指数に関連する日常的な問題を考えてみます。	身の回りの指数に関連する事柄を探してみよう。
	7	対数	対数の定義と性質について振り返り、対数に関連する日常的な問題を考えてみます。	身の回りの対数に関連する事柄を探してみよう。
	8	数列	等差数列や等比数列について振り返り、SPIなどで実際に出題されている数列の問題を考えてみます。	数列に関するSPIの問題にチャレンジしてみよう。
	9	Σ記号と数学的帰納法	前回の数列と関連して、Σ記号と数学的帰納法を扱います。	Σ記号とはどのような記号なのか、数学的帰納法とはどのような証明方法なのか、復習しておこう。
	10	整数	約数や倍数、素数や素因数分解など、整数に関することを扱います。	約数、倍数、素数、素因数分解など整数に関して知っている用語の意味を確認しておこう。
	11	命題	命題に関することを振り返り、命題を証明する方法の1つである「背理法」を用いるような問題を考えてみます。	背理法とはどのような証明方法なのか、復習しておこう。
	12	パリティ	ちょっとした発想の転換で解決する問題は結構あります。そうしたコツの1つにパリティがあることを紹介します。	パリティとは何か、調べておこう。
	13	算数における「なぜ？」	算数において疑問に思われることが多そうな話題を取り上げます。	今さら聞けない(?)算数や数学での素朴な疑問はなかったか、思い出してみよう。
	14	無限	無限をテーマにした、変わった話題を紹介します。	応用問題をレポート課題として出題します。
	15	講義のまとめ	授業全体のまとめと課題の解答、解説をします。	レポート課題を提出して下さい。

関連科目 特にありません。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 平常点とレポートを勘案して評価します。授業での発表など、授業に対して積極的に取り組む姿勢を平常点として評価します。

学生へのメッセージ 授業計画では、テーマも内容・方法等も思わせぶりなことしか書いていませんので、それだけ読んでもよくわからないことが多いと思います。実際にどのような内容なのか、好奇心を持って授業に臨んでください。

担当者の研究室等 3号館3階(数学研究室)

備考 1時限の授業ですが、遅刻や居眠りは厳禁です。

教養科目

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名(英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、ささみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分：  ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて  ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ  ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ  ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ  ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ  ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とかかわり方を学ぶ  ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ  ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ  ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）：  受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）：  青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意：  学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2016年2月に実施）に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題：  学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	生命科学入門	科目名(英文)	Basics of Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人

授業概要・目的	生命科学は、ウイルス、バクテリア、植物からヒトにいたるまでの生命の全体像を浮かび上がらせる学問分野であり、これまであまり生命科学になじみのなかった学生も社会常識として学ぶべき科目である。 本授業では、高校で生物学を学んだことが無い学生でも、生命科学の基礎を学び、生命科学が自分たちの生活にどのような形で関わっているかを幅広く学べるように講義する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命科学の基礎を理解し、種々の生命現象を理論的に説明できる。</li> <li>課題(レポート)に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の講義終了時に出席票をかねたミニレポート(小テストを含む)を提出させる。</li> <li>全講義終了後にレポートを提出させ、その内容を評価する。レポートの題材は、いずれかの回の講義内容に直結するものを受講生が探す。</li> <li>独自の論考を加えたものについては、高い点を与える。</li> <li>成績判定は出席とレポートの内容を総合して評価する。</li> <li>欠席が3回以上の場合(初回を含めて)は、レポートの採点はおこなわない。</li> </ul>

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義について 講義の受け方 生命科学のプロローグ	講師紹介、この講義の学習の仕方・評価方法、生命科学とは何かについて説明する。	講義後によく復習しておく事
2	人類はどうやって生まれてきたか	生命の起源から地球環境と生命の進化について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
3	細胞の成り立ちと遺伝の仕組み	細胞を構成する物質から遺伝子の転写翻訳、エピジェネティクス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
4	進化の理論	ダーウィンの進化論・分子進化学・環境適応と進化等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
5	細胞が増える仕組み	増殖シグナルの伝達様式や細胞周期・染色体の分離と細胞分裂について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
6	性と生殖の不思議	生殖細胞と減数分裂及び幹細胞やES細胞・クローン、発生工学や遺伝子ノックアウト生物について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
7	老化と病	なぜ老化するのか? 抗老化ホルモンやアルツハイマー病、狂牛病や夢のやせ薬について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
8	なぜ、がんになるのか?	がんをとりまく遺伝子や浸潤と転移の仕組み、がんの分子標的治療について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
9	生体防御と感染	免疫を担う細胞群や自然免疫・獲得免疫の仕組み、アレルギーやアトピー性皮膚炎について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
10	遺伝子医療と感染症	遺伝子診断とオーダーメイド医療や遺伝子治療、再生医療と感染性疾患、インフルエンザ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
11	先端バイオ技術の応用	個人識別と犯罪捜査、遺伝子組換え植物や不毛の地の緑地化、青いバラ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
12	ナノテクが拓くバイオの未来	ナノテクノロジー、ナノ医療、RNA創薬などについて説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
13	「植物の発生」	植物の基本体制や種子形成、発芽、分枝、植物ホルモン等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
14	人類はどこに行くのか	人類と科学技術、地球上の生命にとっての人類の役割、メタンハイドレート、核融合、バイオマス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
15	エピローグ	この講義の総括、補習講義、全員による討論を行う。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生命科学の基礎	野島 博	東京化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	理系総合のための生命科学	東京大学生命科学教科書編集委員会	羊土社
2			
3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験(60%)、レポート(40%)、60%で合格とする。</li> <li>リアクションペーパーにより、出席確認・講義に関する質問および要望等を受け付けます。</li> </ul>
----------	---

	・欠席が3回以上の場合（初回を含めて）は、レポートの採点はおこなわない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	生命と物質	科目名(英文)	Life and Materials
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 哲郎

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシヤボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 II と連動している。
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表		浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テストを40%、臨時テストを40%および授業態度を20%で評価する
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1
----------	--------------------

備考	講義後の復習(ノートをまとめ、重要単語を暗記する1時間X15回)。
----	-----------------------------------

教養科目

科目名	世界の政治	科目名(英文)	World Politics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田 良成

授業概要・目的	世界のある場所ではまき起きている出来事は、歴史的、地理的な広がりの中でこそ初めて理解が可能になる。この講義では、具体的な出来事の解説を通して、現在の国際政治を語るために必要となる基礎的な知識を習得していく。さらにそのうえで、その知識を使いながら自ら情報を集め、現在起きている現象を自らの関心に引き寄せながら理解できるようになることを目指す。
到達目標	国際政治を理解する上で必要となる基礎的な知識を習得する。 現在問題となっている事柄を、歴史的、地理的な広がりの中で理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 受講者にはペーパー等で適宜コメントを求めするので、ノートを写し、話を聞くだけでなく、自分で資料を探してそれについて考え、考えたことを表現するように努めること。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の内容、進め方、成績評価について説明	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	2	植民地主義の歴史ー1	支配の論理	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	3	植民地主義の歴史ー2	新興国とナショナリズム	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	4	植民地主義の歴史ー3	旧宗主国と旧植民地の関係、新植民地主義	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	5	東西対立ー1	対立の推移	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	6	東西対立ー2	第3世界にもたらされたもの	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	7	東西対立ー3	対立の終わりと残されたもの	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	8	復習ー1	第7回までの復習と確認	既習事項の確認
	9	グローバル化ー1	グローバル化とは何を意味するのか	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	10	グローバル化ー2	世界は一体化に向かっているのか	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	11	グローバル化ー3	国家を越えた生産と消費の結びつき	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	12	戦争と平和ー1	対立はどのようにして起こるのか	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	13	戦争と平和ー2	調停はどのようにして可能なのか	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
	14	戦争と平和ー3	新しいメディアの可能性	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
15	復習ー2	まとめ	第14回までの復習と確認 全体のまとめ	既習事項の確認

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加の度合い(30% 主に毎回提出してもらったペーパーから判断する)と授業期間中に行うテスト(70%)から総合的に判断する。詳細は初回授業で説明する。受講生の人数によって評価方法を変更することがある。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p>&lt;過疎地域における地域資源活用プロジェクト&gt; 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。</li> <li>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。</li> <li>3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手順で実施する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定</li> <li>2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定</li> <li>3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。</li> <li>4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て</li> <li>5. 現地で加工、施工、組み立て開始</li> <li>6. 装置・設備の完成</li> <li>7. 試作装置・設備による実験評価</li> <li>8. 実験結果の考察と改良</li> <li>9. 改良した装置について評価実験・考察</li> <li>10. 現地で再実験</li> <li>11. 実験結果の考察と改良</li> <li>12. 最終実地評価と報告</li> </ol> <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないとといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回の)活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容： 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わる事。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられる事。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。                  ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。                  ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。                  ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う                  ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・グループ学習</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭に立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する</p> <p>3. 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を読み、自分なりにレポートにまとめる</p> <p>4. 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化</p> <p>5. 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。</p> <p>6. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>7. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>8. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる</p> <p>9. 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえて商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む</p> <p>10. 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる</p> <p>11. 現地調査 由良町に出向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後調査：調査結果をレポートにまとめる</p> <p>12. 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込まれた案を企画書にする</p> <p>13. 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理</p> <p>14. 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析</p> <p>15. 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる</p> <p>16. 試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく</p> <p>17. 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ</p>

	18. 販売先の確保 事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整																
	19. 製品最終仕様の決定 事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備																
	20. 販売促進方法の検討と実施 事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施																
	21. 製品販売開始 事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う																
	22. 現地での発表 事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成																
関連科目	各学部マーケティング関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社														
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館														
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%																
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育 通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。 コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <p>・大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加</p> <p>「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加</p>																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版														
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めるので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																



科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p>&lt;寝屋川市における国際交流推進プロジェクト&gt;と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々や調整しながら活動します。</li> <li>・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。</li> <li>(2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。</li> <li>(3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。</li> <li>(4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。</li> <li>(5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。</li> <li>(6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。</li> </ol> </li> </ul> <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントの一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。</li> <li>・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。</li> <li>・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。</li> <li>・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼小学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。</li> <li>・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。</p> <p>プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

授業概要・目的	摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。 ① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。 ② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。 ③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおして社会人としてのマナーやルールを体得する。																
授業方法と留意点	北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：こども株式会社の設立と経営 内容：経営、マネジメント、経営戦術、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。 経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。 小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。 1. 小学生と友達になろう 2. 株式会社って何だろう 3. 株式会社をつくろう 4. 商売って何だろう。儲けてなんだろう 5. 経営計画をたてよう 6. マーケティングをしよう 7. 商品企画書の作成しよう 8. 銀行にお金を借りよう 9. 実際に販売してみよう 10. 帳簿をつけて決算書をつくろう 11. 税金を納めよう 12. 決算書を作成しよう 13. 経営報告会をしよう 講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。 事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)への参加度(70%)、プレゼンテーション(20%)、レポート課題(10%)により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。																
担当者の研究室等	11号館8階(栢木准教授室、佐井教授室)																
備考	必要に応じ適宜資料を配布します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

教養科目

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市(企画財政部)や「おりひめ大学(市民大学)」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ①&lt;交野の産物・そば班&gt;そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ②&lt;イベント班&gt;市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③&lt;SNS班&gt;PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p>&lt;共通到達目標&gt; 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」、「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p>&lt;プロジェクト到達目標&gt; PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング(面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法)調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法(収集した多量の情報を効率よく整理するための手法)をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者&lt;1次産業従事者&gt;がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工&lt;2次産業&gt;・流通や販売&lt;3次産業&gt;に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法(基準)	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度(回数、活動意欲、結果への貢献度、など)」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本(圭)研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行いますが、テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>2. マーケティング手法の学習(座学による)</li> <li>3. 連携先との面談</li> <li>4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行)</li> <li>7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>8. まとめと最終報告会</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる			
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。			
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。			
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

授業概要・目的	<p>枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。</p>			
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>			
授業方法と留意点	<p>大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→*運動教室の実施→*反省会→*の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	総合体育館 藤林研究室			

教養科目

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。</p> <p>皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>										
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる</li> <li>2. 計画を立て、段取りが組める</li> <li>3. 小売業界の現状を理解する</li> </ol> <p>プロセス</p> <p>学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>										
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・小売業について学ぶ</li> <li>・ロフトについて学ぶ</li> </ul> </li> <li>■5月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロフトでのミーティング</li> <li>・ミーティングを受けて検討会</li> <li>・グループ決め</li> <li>・提言のテーマ・内容の検討</li> </ul> </li> <li>■6月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言内容の作成</li> </ul> </li> <li>■7月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施</li> </ul> </li> <li>■8月～9月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言内容の実施準備</li> <li>・提言内容の実施</li> </ul> </li> <li>■10月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会</li> </ul> </li> <li>■11月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告会</li> </ul> </li> <li>■12月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえり</li> <li>・総括</li> </ul> </li> </ul>										
関連科目											
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名								
1											
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>										
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>										
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>										
備考											



科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治

授業概要・目的	<p>&lt;過疎地域における地域資源活用プロジェクト&gt; 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは未定であるが、地域の連携団体と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。</li> <li>2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。</li> <li>3. ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み1回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手順で実施する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定</li> <li>2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定</li> <li>3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。</li> <li>4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て</li> <li>5. 現地で加工、施工、組み立て開始</li> <li>6. 装置・設備の完成</li> <li>7. 試作装置・設備による実験評価</li> <li>8. 実験結果の考察と改良</li> <li>9. 改良した装置について評価実験・考察</li> <li>10. 現地で再実験</li> <li>11. 実験結果の考察と改良</li> <li>12. 最終現地評価と報告</li> </ol> <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないとといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子

授業概要・目的	<p>概要：本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、6年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2016年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容： 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップでの発表</p> <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わる事。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられる事。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。          ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。          ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。          ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う          ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	レポート、参加態度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の継続的運営、社会教育（男女共同参画や安心安全など）への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を認識する</li> <li>・課題を解決する方法を考える</li> <li>・解決策を実行する</li> <li>・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する</li> </ul> <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト 産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる</p> <p><b>【内容】</b> 対象予定とするサブプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編（寝屋川市）、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、男女共同参画センターの認知度向上（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、自治体職員のITスキル測定と地域企業への教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。また、これらのサブプロジェクトを発展させていくために、海外への情報発信や比較調査、および、拡大展開も視野に入れて活動する。</p> <p><b>【方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー</li> <li>・グループ学習</li> <li>・オンラインミーティング</li> <li>・博物館や自治体の見学会</li> <li>・実地調査</li> <li>・企画書や報告書の作成</li> <li>・学外でのプレゼンテーション</li> </ul> <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p><b>【事前学習課題】</b> 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p><b>【事後学習課題】</b> プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	<p>地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。</p> <p>自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。</p>																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 尾山 廣

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を活用した商品開発を行う。 ②自ら考え行動できる力をつける。 ③チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 また製品を製造してくれるメーカーに出向いたり、商品販売を行うために店頭に立つこともあります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います</p> <p>2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する</p> <p>3. 由良町の現状を学ぶ2 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町の課題について報告書等で予習する 事後学習：総合戦略の報告書を読み、自分なりにレポートにまとめる</p> <p>4. 現状と課題まとめ グループごとに発表を行います。 事前学習：発表の準備 事後学習：グループで課題整理と共有化</p> <p>5. 由良町の方とのディスカッション 由良町役場の方を交え、今後の由良町について意見交換を行います。 事前学習：自分の意見を発表できるようにする。 事後学習：意見交換した感想等をレポートにまとめる。</p> <p>6. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>7. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する</p> <p>8. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる</p> <p>9. 地域資源で活用できるものの絞り込み グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえて商品開発に使えるような地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む</p> <p>10. 商品開発候補案作成 商品開発案の議論を行う 事前学習：商品開発のアイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる</p> <p>11. 現地調査 由良町に出向き現地の方にインタビュー調査を行います。 事前学習：現地で調べる内容をまとめる 事後調査：調査結果をレポートにまとめる</p> <p>12. 商品開発候補案の絞り込み グループごとに出された案からさらにしぼりこみを行います 事前学習：調査結果から商品候補を絞り込む 事後学習：絞り込みされた案を企画書にする</p> <p>13. 消費者ニーズ調査 事前学習：調査方法や質問項目を考える 事後学習：データ整理</p> <p>14. 調査とりまとめ 事前学習：データ打ち込み 事後学習：データ分析</p> <p>15. 商品の仕様検討 事前学習：データまとめ 事後学習：商品仕様、STPをまとめる</p> <p>16. 試作 事前学習：試作先との調整 事後学習：試作品に対する自分の意見をまとめておく</p> <p>17. 試作評価 事前学習：類似商品を調べておく 事後学習：評価のまとめ</p>

	<p>18. 販売先の確保 事前学習：候補先のリスト作成 事後学習：販売先と調整</p> <p>19. 製品最終仕様の決定 事前学習：販売先の商品に対する意見聴取 事後学習：量産にむけての準備</p> <p>20. 販売促進方法の検討と実施 事前学習：販促案を考えてくる 事後学習：販促実施</p> <p>21. 製品販売開始 事前学習：接客方法などマスター 事後学習：販売に対するふりかえりを行う</p> <p>22. 現地での発表 事前学習：現地での発表準備 事後学習：総括、レポート作成</p>																
関連科目	各学部マーケティング関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社														
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館														
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 30% 提出物 30% 最終レポート 40%																
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、製品がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 長谷川 淳

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場や小学校などで運転会を催す。 また、運転会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。  蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。  イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトの実施計画や進捗状況の把握程度(35%)、プロジェクト推進に対する貢献度(25%)、製作技術習得時の能動的態度(40%)について、ミーティングでの報告や作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎

授業概要・目的	<p>テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアデザイン教育 通年・前期1回、後期1回のコンペティション参加することである。 コンペティションへの参加に当たっては、0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会を実施する。各項目では、しっかりとエビデンスを残し進捗状況を確認できるようにする。</p> <p>・大きく分けて前期1回、後期1回のコンペティション参加 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加</p> <p>「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加</p>																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基本を学ぶ構造力学</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新編 橋梁工学</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版	2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	基本を学ぶ構造力学	崎元達郎	森北出版														
2	新編 橋梁工学	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「道路橋示方書・同解説」(共通編、鋼橋編)	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。</p>																
学生へのメッセージ	<p>参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																



科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介、マイケル ハーキー

授業概要・目的	<p>&lt;寝屋川市における国際交流推進プロジェクト&gt;と題し、寝屋川キャンパス周辺地域の国際交流や多文化共生を推進する講演、パフォーマンス、交流会等のイベントを企画、運営するPBL授業です。</p> <p>NPO法人寝屋川市国際交流協会(NIEFA)と連携し、寝屋川市と米国ヴァージニア州・ニューポートニューズ市との姉妹都市交流をはじめ、寝屋川市内の様々な国際交流事業を支援します。両市の相互の訪問団派遣および受け入れ事業、街おこしイベント「新天地 in Neyagawa」等、NIEFAが手掛ける既存の事業への運営協力や広報活動に加えて、国際交流に関連する独自のイベントを企画、提案、実行します。過去2年間の「寝屋川市と米国ニューポートニューズ市の姉妹都市交流支援プロジェクト」を継承しながら、より幅広い国・地域出身の方々との交流を視野に入れます。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の非営利団体、自治体、企業、大学の相互連携について学び、社会人に相応しい責任感とコミュニケーション能力を身につけることが全履修者に共通の目標です。これに加え、各受講生が分担して受け持つ業務を通じて、アメリカ合衆国、その他対象地域に関する知識や実践的な英語コミュニケーション能力を高め、イベント運営や広告営業などの実地経験を積むことを目指します。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度を通じて定期ミーティングを行い、NIEFAをはじめとする協力団体、企業の方々や調整しながら活動します。</li> <li>・多様な関心分野、得意分野を持った学生の履修を期待しています。たとえば、             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際交流に関心があり、日本語を話せない外国人を相手に物怖じせず、簡単な英語でコミュニケーションがとれる人、またはとれるように努力する意欲のある人。</li> <li>(2) 多文化共生に関心があり、日本に在住または滞在している海外出身者と交流し、彼らの経験から学ぶ意欲のある人。</li> <li>(3) アメリカ合衆国やニューポートニューズ市について詳しく学ぶことに意欲のある人。翻訳に興味のある人。姉妹都市について学んで日本語で情報発信したり、寝屋川市のことを先方に英語で発信する人が必要です。</li> <li>(4) イベントの企画運営や広告営業など、学外の方々と共に仕事を進めることを経験し、社会人として働く力を高めたい人。履修者には各種のイベントを運営し、成功に導くスタッフとしての役割が期待されています。教室を離れて仕事の現場に飛び込む行動力のある人が必要です。</li> <li>(5) ウェブ制作やプレゼン資料作成、チラシ、ポスター等印刷物のデザインに興味のある人。情報発信のための技能を持った人が来てくれると助かります。</li> <li>(6) 協調性があるだけでなく、リーダーシップもとれる人。PBLは、学生が主体となって進めるものです。教員は、英語および翻訳の指導や事務処理についてのアドバイスをしますが、現場の要望を聞いて具体的な活動の中身を考え、実行し、フィードバックを受けて改善していくのは受講生の皆さん自身です。細かいプロジェクトごとにリーダーを決め、連絡を取り合いながらチームで動き、活動内容を定期的に教員に報告してもらいます。</li> </ol> </li> </ul> <p>以上、どれか一つでも当てはまる人はぜひ履修を検討してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～5月中に数回のミーティングをNIEFAスタッフを交えて行い、いくつかの優先すべき活動内容を決めてそれぞれリーダーを選出し、活動に入ります。前期中にいくつかの小さなイベントの運営をして経験を積み、夏休み後9月～12月の間に大きなイベントの一つ企画、運営します。今年度はおそらく、ニューポートニューズ市からの市民訪問団の歓迎会が主要なイベントとなることが予想されます。翌年1月には年間の活動報告プレゼンテーションを行います。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>ミーティングへの出席、各業務におけるリーダーシップ、学外関係者との関係など、評価項目を列挙したルーブリックを用いた自己評価に加え、定期ミーティングでの活動報告や活動現場での取り組み姿勢をみて総合的に評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>外国語学部教員が指導を担当していますが、異なる視点を持ち込んでくれる他学部生の履修は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。</li> <li>・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。</li> <li>・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。</li> </ul> <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。</li> <li>・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼小学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに第2弾の紙芝居を作成する。</li> <li>・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市だけでも28回活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の作製を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。</p> <p>プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	7号館3階 外国語学部 天野貴史研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 佐井 英子

授業概要・目的	<p>摂南大学近隣の小学生を対象に、北大阪商工会議所青年部と共同で、「こども株式会社 ジュニア・エコノミーカレッジ」を成功させる。本プロジェクトでは、小学生に起業・会社経営の体験を通して社会や経済・経営の仕組みを学ばせ、働くことの意味および素晴らしさを体験させる。学生は、小学生の指導・支援を通して、起業・会社経営に求められる考え方を身につける。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、本プロジェクトでは、以下の3項目を達成目標として設定する。</p> <p>① 小学生の指導・支援を通し、経営学の基本を学ぶのは当然であるが、他人に教えることの難しさを体験しながら、マネジメント能力やコミュニケーション能力、指導力、行動力を身につける。</p> <p>② イベントの立案、準備、実施を通し、責任感、協調性を身につける。</p> <p>③ 北大阪商工会議所青年部との交流、協働をとおして社会人としてのマナーやルールを体得する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>北大阪商工会議所青年部と共同で、寝屋川市、交野市、枚方市の小学生に株式会社を設立させる。また、北大阪商工会議所主催のイベントを企画する。プロジェクト実践のためのイベントの会場提供・設定等は、北大阪商工会議所が主体となって進めるが、小学生への指導は、学生が主体となって計画・実施するため、打ち合わせやイベントには、必ず出席すること。また、経営や生産の現場を知るために、関連企業を見学するので参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ：こども株式会社の設立と経営          内容：経営、マネジメント、経営戦力、会計等に関する基礎的な知識を学ぶ。          経営や生産の現場を知るために、企業見学を実施する。          小学生に、会社経営に必要な以下の知識を身につけさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学生と友達になろう</li> <li>2. 株式会社って何だろう</li> <li>3. 株式会社をつくろう</li> <li>4. 商売って何だろう。儲けてなんだろう</li> <li>5. 経営計画をたてよう</li> <li>6. マーケティングをしよう</li> <li>7. 商品企画書の作成しよう</li> <li>8. 銀行にお金を借りよう</li> <li>9. 実際に販売してみよう</li> <li>10. 帳簿をつけて決算書をつくろう</li> <li>11. 税金を納めよう</li> <li>12. 決算書を作成しよう</li> <li>13. 経営報告会をしよう</li> </ol> <p>講義方法：小学生に指導する前に、まず自分たちで上記のテーマを演習形式で学習し、その後担当ごとに分かれて活動する。          事前・事後学習課題：上記テーマ、イベントの結果報告等レポートを作成、提出する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)への参加度(70%)、プレゼンテーション(20%)、レポート課題(10%)により総合的に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>積極的に参加し、履修者相互のコミュニケーション構築に努めてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>11号館8階(栢木准教授室、佐井教授室)</p>																		
備考	<p>必要に応じ適宜資料を配布します。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	安久 典宏, 黒澤 敏朗, 山本 圭三

授業概要・目的	<p>目的： 過去4年のPBL活動の実績を踏まえ、交野の魅力を伝え広めること。</p> <p>概要： PBL参加学生が主体となり、交野市(企画財政部)や「おりひめ大学(市民大学)」の市民による地域活性化を支援するための活動です。大きく3つのグループを通じて交野市の活性化を目指します。 ①&lt;交野の産物・そば班&gt;そばの栽培から収穫体験。酒粕やそば使った特産品を開発し、製造・販売委託先の開拓。 ②&lt;イベント班&gt;市民交流やアンケート調査の分析結果を次のイベントに役立てます。 ③&lt;SNS班&gt;PBL活動の情報発信、交野市の紹介プロモーションビデオ等の制作を行います。</p>																
到達目標	<p>&lt;共通到達目標&gt; 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」、「コミュニケーション力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指します。</p> <p>&lt;プロジェクト到達目標&gt; PBL参加学生各自が本プロジェクトの目的を達成するため、集団の中で目標に向かって取り組むことで上述の社会人基礎力と「PDCA」サイクルの考え方・実践力を身に付けることです。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 連携先の関係者・グループとの意見交換を通じて、課題を明確にします。 2. PBL参加学生がどのような特産品を企画開発すればいいかについてのアンケート調査を行い、地元の生産者等にヒアリング(面接調査で、相手の話を聞くことを中心に情報収集する方法)調査を行います。 3. PBL参加学生が連携先の関係者の協力のもと、製造・販売委託先の開拓を計画的・自主的に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 集団意思決定のための技術の習得 KJ法(収集した多量の情報を効率よく整理するための手法)をはじめとする各種の意思決定、創造性開発の技法の演習を授業期間中に学内で行います。 2. アンケート調査の方法の習得 3. 6次産業に関する実践的学習 ※6次産業化とは-「地域資源」を有効に活用し、農林漁業者&lt;1次産業従事者&gt;がこれまでの原材料供給者としてだけでなく、自ら連携して加工&lt;2次産業&gt;・流通や販売&lt;3次産業&gt;に取組む経営の多角化を進めることで、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。 夏休みを利用して、農業産品の先進的な地域・プロジェクトの見学や実体験を行います。 4. 地域特産品に関する知識・情報の収集 先進的に特産品を創りだしている地域の調査を行います。</p>																
関連科目	「経営学」「マーケティング」、「市場調査」、「NPO」などに関わる科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「みんなの”かたの”基本構想」(2011)</td> <td>交野市</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」</td> <td>長坂 泰之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま新書</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市		2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社	3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「みんなの”かたの”基本構想」(2011)	交野市															
2	「中心市街地活性化のツボ-今、私たちができること-」	長坂 泰之	学芸出版社														
3	「商店街再生の畏-売りたいモノから、顧客がしたいコトへ-」	久繁 哲之介	ちくま新書														
評価方法(基準)	グループ作業が中心となるため、個人ごとの評価は簡単ではありませんが、諸活動への「参加度(回数、活動意欲、結果への貢献度、など)」をもとに評価します。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 安久研究室、7階 黒澤研究室、山本(圭)研究室																
備考	毎週金曜日の4限目と5限目に定例のミーティングを行いますが、テーマの性質上それ以外にも土曜日と日曜日の数日を使用して活動します。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有</li> <li>2. マーケティング手法の学習(座学による)</li> <li>3. 連携先との面談</li> <li>4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出</li> <li>5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査</li> <li>6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行)</li> <li>7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施</li> <li>8. まとめと最終報告会</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦, 藤林 真美

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、履修学生が主となり実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、学生自身については実社会でも求められるリーダーシップを育成させる。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 学生が小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる			
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。			
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。			
担当者の研究室等	総合体育館1F 内部研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 内部 昭彦, 小川 宣子

授業概要・目的	枚方市にお住まいの高齢者を対象とした運動教室を開催する。 我が国は「超高齢化社会」であり、高齢者とのよりよい共生社会の構築は重要課題である。 本プロジェクトは、高齢者の生理（加齢により、身体の老化や認知機能の低下が起こること）を理解したうえで、思いやりやいたわりの気持ちを持って人と接する力を身につけることができる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	大学内で運動教室の準備、枚方市自治会館において運動教室の実施。 自分が運動が得意であるか否かは全く問題ない。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：地域在住高齢者における運動教室の実施 内容、方法：受講学生の授業スケジュールをかんがみ本プロジェクトの集合時間を設定し、下記のとおり進行する。 事前勉強会→運動教室の練習→*運動教室の実施→*反省会→*の繰り返し、報告会。 このなかで運動教室の参加により、認知機能の低下を遅らせることができたか、心理検査や生理機能検査を用いて確認する。 事前、事後学習課題：「事前学習」加齢による心身の変化について調べる。運動教室実施により「高齢者に喜んでいただく」ことが大目標であり、このことを常に念頭において準備してほしい。「事後学習」運動教室参加による変化について検討する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前準備～事後評価までルーブリックを用いて、個人・ピア評価を行う。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等備考	総合体育館 藤林研究室																

教養科目

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一

授業概要・目的	<p>さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。</p>			
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する</p> <p>プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。</p>			
授業方法と留意点	<p>他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月 ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ</p> <p>■5月 ・ロフトでのミーティング ・ミーティングを受けて検討会 ・グループ決め ・提言のテーマ・内容の検討</p> <p>■6月 ・提言内容の作成</p> <p>■7月 ・梅田ロフトへ提言 プレゼンテーション実施</p> <p>■8月～9月 ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施</p> <p>■10月 ・中間報告会</p> <p>■11月 ・最終報告会</p> <p>■12月 ・ふりかえり ・総括</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	<p>活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ	<p>現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。</p>			
担当者の研究室等	<p>11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館10階 教務部長 荻田研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室</p>			
備考				



科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考える。 ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返して唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修：CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。	・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務総論：付加価値創造のための基礎実務論 ー 改訂版	全国大学実務教育協会編	紀伊国屋書店
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。</li> <li>・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の上社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	組織と経営	科目名(英文)	Organizations and Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 外国語学部の学生を対象に、基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。</p> <p><b>【目的】</b> 経営学の基本的な理論と概念を理解すること</p>			
到達目標	<p><b>【到達目標】</b> 経営学の基本的な概念や用語を説明できるようにします。 国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を習得します。</p>			
授業方法と留意点	教科書を中心とした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の中でテストを行うことがあります。			
科目学習の効果(資格)	国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
	2	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	教科書第1章の予習と今回のノートの復習
	3	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	教科書第2章の予習と今回のノートの復習
	4	コーポレート・ガバナンス	株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。また、コーポレートガバナンスコードを紹介し	教科書第3章の予習と今回のノートの復習
	5	経営戦略(1)	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために必要な意思決定の指針とはどのようなものか、企業戦略や経営理念といった概念から説明します。	教科書第4章の予習と今回のノートの復習
	6	経営戦略(2)	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習
	7	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	教科書第5章の予習と今回のノートの復習
	8	組織間関係	企業は、他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	教科書第6章の予習と今回のノートの復習
	9	生産管理および組織活動	企業は製品やサービスを製造・生産しています。とりわけ「モノづくり」の現場において、どのようにコストダウンと品質の向上の両立が追求されてきたのかについて学びます。また、「モノづくり」を可能にするのは、そこで働く人々の活動です。そうした組織活動の基礎とマネジメントについて学びます。	教科書第7、8章の予習と今回のノートの復習
	10	中間テスト	中間テストを行います。テスト終了後、解説を行います。	第1～9回に行った講義内容を復習しておくこと。
	11	モチベーションとリーダーシップ	働く人々の意欲を引き出すにはどうすればいいのでしょうか。モチベーションという概念から働くことの意味について考えます。モチベーションを引き出すリーダーシップという概念についても学んでいきます。	教科書第9章の予習と今回のノートの復習
	12	雇用システム	企業の雇用管理について学びます。その上で、今日、企業の雇用システムがどのように変化しているのかについて検討します。	教科書第10章の予習と今回のノートの復習
	13	報酬制度	報酬制度にはどのようなものがあるのか概観し、その中でも年功給、職務給、職能給、成果給といった賃金制度について学びます。	教科書第11章の予習と今回のノートの復習
	14	人材育成	企業は従業員の能力を最大限に活用するために、能力を開発し人材育成に取り組んでいます。人材育成制度とその課題について学んでいきます。	教科書第12章の予習と今回のノートの復習
	15	現代の企業経営	各回の講義の要点をまとめ、グローバル市場下における企業経営の方向性を考えます。	今回のノートの復習
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團 泰雄・ 開本浩矢・森田雅也・竹林 明	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末テスト 70%と中間テスト 30%の成績によって評価します。			
学生への メッセージ	経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるようにします。			
担当者の 研究室等	11号館 8階 西之坊講師室			
備考				

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにおける伝統や習慣について考える。 ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成する。
	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修：ジェンダー視点に関するレポートを作成する。
	4	日本の近代化	・明治の落とし物	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
	5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
	6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
	7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成する。
	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修：M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
	9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
	10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修：アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修：アサーティブに話す練習をする。
	11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
	12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べる。 ・事後学修：男女共同参画社会に関して自分の意見をまとめ、レポートを作成する。
	13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティ・マネジメントに関するレポートを作成する。
	14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるように練習する。 ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるように練習する。
	15	まとめ		・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー	石井三恵	泉文堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー	石井三恵	泉文堂													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域の課題を理解する。</li> <li>・地域の課題について解決策を提案できる。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第12回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月8日(金)5限	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (荻田・鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4月16日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4月17日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか 4月22日(金)5限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワードを調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月6日(金)5限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月13日(金)5限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (平田・稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 5月20日(金)5限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林・内部)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 5月27日(金)5限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (荻田・田中)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① グループワーク 6月3日(金)5限	5回目～8回目の4分野ごとに分かれ議論をし、グループごとに発表をします。	【事前学習】 これまでの授業の復習をして、ポイントを整理しておく。 【事後学習】 発表をきいて、再度、4分野ごとに要点をまとめておく。
10	事前学習② グループワーク 6月10日(金)5限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
11	事前学習③ グループワーク 6月17日(金)5限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。ま	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】

			た、グループ内での分担を決めます。	由良町でのフィールドワークの準備を行う。																
	12	体験学習 (和歌山県由良町) 6月25日(土)、7月2日(土) のいずれか	和歌山県由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	13	事後学習① グループワーク 7月8日(金)5限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② グループワーク 7月15日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させる。																
	15	事後学習③ グループワーク 7月22日(金)5限	グループごとに成果発表を行います。	【事前学習】 14回目に発表したグループの内容をふりかえる。 【事後学習】 最終レポート作成にむけての準備をする。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				



科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中~下旬)に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																		
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月12日火曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月19日火曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月26日火曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中~下旬)に、活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3(4月12日、4月19日、4月26日)は6時限目に1134教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(吉田研究室) 7号館3階(朝日研究室) 7号館3階(林研究室)																		
備考	第1回目事前授業を4月12日(火)に第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2 年生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A], 理工学部 [II]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介ワーク</li> <li>・チームビルディングの理論を学ぶ</li> <li>・チームビルディングのための技能を知る</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベーパータワーワーク (予定)</li> <li>・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する</li> </ul>	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ</li> <li>・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける</li> </ul>	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ</li> </ul>	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム話し合う際の技術を学ぶ</li> </ul>	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える</li> </ul>	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでニッポンの課題の解決策を考える</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の中間おさらい</li> <li>・ヒーローインタビュー</li> <li>・チームでプロジェクトを企画する</li> </ul>	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介</li> </ul>	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介</li> </ul>	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む</li> </ul>	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第●回目の課題の報告プレゼンテーション</li> </ul>	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義のおさらいと振り返りを行う</li> </ul>	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目</li> <li>・キャリアデザイン I・II、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論</li> </ul>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	チームでの提出物 25%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 45% で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
----------	------------------------

備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。
----	---------------------

科目名	哲学から学ぶ	科目名(英文)	Philosophy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学的なテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果(資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	知識について(1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について(2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について(3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題(1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題(2)	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題(3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性(1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性(2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死(1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死(2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目	教養特別講義「社会と人権」
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHPサイエンス・ワールド新書	
3				

評価方法(基準)	授業内でのレポート・平常点(40%)と授業後のレポート課題(60%)
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階
----------	-------

備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に60時間必要。
----	--------------------------------

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子

授業概要・目的	統計学を身につけるメリットは、データに裏打ちされた客観的な事実を見抜く技術を身につけることであり、論理的思考ができるようになることである。また、統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。この授業では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、表計算ソフトを使用しながら統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を学ぶ。
到達目標	データを解析・整理・要約するための基本的な統計学の理解および知識の習得を目標とする。
授業方法と留意点	毎回提示される課題を提出すること。未提出の場合は欠席とみなす。なお、出席が8割未満の場合は単位を認めない。Microsoft EXCELを使用するので情報処理の基本知識を有していることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	卒業論文やレポートなどにおけるデータの整理や解析方法の習得が期待される。また、企業においては多方面で統計学の知識が活用されていることから、就職活動にも役立つものと考えられる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、統計学概要	シラバスの確認
2	統計学と EXCEL 基礎	統計における効果的なグラフ表現	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
3	変量のデータ (1)	ヒストグラム、度数分布表	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
4	変量のデータ (2)	平均と分散、標準偏差	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
5	確率分布 (1)	確率分布、正規分布	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
6	統計的推定 (1)	母集団と標本、区間推定	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
7	統計的推定 (2)	検定統計量、棄却域 カイ二乗検定	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
8	統計的推定 (3)	t 検定対応なし	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
9	統計的推定 (4)	t 検定対応あり	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
10	前半まとめ	確認テスト	内容の把握と整理、評価 前半復習と修得度の確認
11	相関分析と回帰分析 (1)	散布図と相関係数、回帰直線	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
12	相関分析と回帰分析 (2)	回帰分析: 判別分析 1	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
13	相関分析と回帰分析 (3)	回帰分析: 判別分析 2	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
14	相関分析と回帰分析 (4)	回帰分析: 数量化理論	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
15	後半まとめ	確認テスト	内容の把握と整理、評価 後半復習と修得度の確認

関連科目	情報処理 I
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	毎回、資料を配布する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	統計学がわかる	向後千春	技術評論社
2				
3				

評価方法(基準)	授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	数学が苦手でも問題はありますが、復習は必須です。使いこなすには多くの練習時間が必要です。空き時間を使って復習することをお勧めします。統計学の知識は、就職活動ばかりでなく、社会に出てからも必ず役立ちます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	日常の謎を解く心理学	科目名(英文)	Psychology to Clear Up Everyday Mysteries
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 幸志

授業概要・目的 「なぜ、占いを信じてしまうのか?」、「急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?」、「なぜ、あの人は第一印象が良いのか?」、「テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?」など日常には、あまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、このような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。日常生活における小さな謎を解くことで、社会科学的な問題解決方法を身につけることと知識を身につけることを目的とする。

到達目標 1)日常の中の謎を理解する。2)その謎を解く方法を見つける。3)実際に、「あるある体験」のメカニズムを解き明かしていく。

授業方法と留意点 パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。第1回授業で授業ルールなどについて説明するので必ず参加すること。毎回プリントをwebにて事前に配布する。

科目学習の効果(資格) 人間の態度および行動を記述・説明するための基本的な方法、理論を修得することで、社会科学的な学習に対する理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・心理学的な考え方	授業内容、授業方法について説明します。 心理学の分析手法	学習内容の復習
2	人の知覚と認知①	なぜ、占いを信じてしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
3	人間の知覚と認知②	悪口はなぜよく聞こえるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
4	人間の知覚と認知③	急いでいるときにかぎって、電車が来ないのはなぜか?	事前資料による予習 授業内容の復習
5	人間の知覚と認知④	テストの後、隣の人と答えが一緒だとなぜホッとするのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
6	心理と人間関係①	なぜ、あの人は第一印象が良いのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
7	心理と人間関係②	偶然を勝手に運命を感じる時	事前資料による予習 授業内容の復習
8	心理と人間関係③	最初は嫌いだったのに、今は好き	事前資料による予習 授業内容の復習
9	心理と人間関係④	あばたもえくぼなのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
10	心理と人間関係⑤	落ち込んでいるときこそ、チャンス	事前資料による予習 授業内容の復習
11	心理と対人行動①	なぜ、あの人の言うことに従ってしまうのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
12	心理と対人行動②	あの商品が欲しくなる理由	事前資料による予習 授業内容の復習
13	心理と対人行動③	なぜ自分の予言は当たるのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
14	心理と対人行動④	とても会いたいから会いたいのか? 会えないから会いたいのか?	事前資料による予習 授業内容の復習
15	まとめ	心理学的考察のまとめ	授業内容の復習

関連科目 各学部で開講されている「心理学Ⅰ」や「人間力と心理」と関連する。事前に基礎的な心理学を受けておくことが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(100%)の結果で評価します。60%で合格とする。

学生へのメッセージ 日常生活の中にはあまり重要ではない小さな謎が多く存在する。この授業では、そのような一見どうでもいいような疑問を心理学の科学的分析から簡単に解説していく。

担当者の研究室等 11号館7階 牧野(幸)准教授室

備考 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ・携帯電話の使用など)をすべて禁止します。

教養科目

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Japanese Constitution
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法は、専断的になりがちな公権力に制限を加え、国民の基本的人権を広く保障しようとする国家の基礎法である。</li> <li>日本国憲法は、主に基本的人権とそれを担保するための統治機構の規定から構成される。</li> <li>こうした憲法上の規定をめぐる争われる、国民と国家機関ないし国家類似団体間での法的紛争をめぐる諸問題について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく解説を加える。</li> <li>また、講義を通じて、事例から憲法上の争点を抽出する能力、争点に対する考え方(判例や学説)を理解する能力、および、争点に対する結論とその論拠についてコンパクトにまとめて提示できる能力の涵養を目的とする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「立憲主義」とはどのようなものかを説明できるようになる。</li> <li>日本国憲法上の論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説の見解を説明できる。</li> <li>公務員試験に出題される憲法に関する問題を素早く解けるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として講義形式で行うが、質疑応答を通じて受講生との双方向理解につとめたい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の公務員試験(行政職、警察官、消防官など)では、必ず、憲法やそれに関連する問題が出題されます。</li> <li>これらの試験を受けようとする人は十分に理解してください。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	憲法と立憲主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法と法律</li> <li>立憲主義</li> <li>権力分立と法の支配</li> </ul>	教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
2	日本国憲法の制定過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>マッカーサー・ノート</li> <li>大日本帝国憲法改正限界論</li> <li>日本国憲法の正当性</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
3	平和主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法9条1項の解釈</li> <li>日本国憲法9条2項の解釈</li> <li>自衛隊の海外活動</li> <li>集団的自衛権</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
4	基本的人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権とは何か</li> <li>近代自然法と社会契約説</li> <li>夜警国家と福祉国家</li> <li>公共の福祉</li> <li>プログラム規定</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
5	基本的人権の享有主体 憲法の私人間効力	<ul style="list-style-type: none"> <li>天皇の人権享有主体性</li> <li>外国人の人権享有主体性</li> <li>子どもの人権とその制約</li> <li>憲法の直接適用説と間接適用説</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
6	精神的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>思想良心の自由</li> <li>信教の自由とその限界</li> <li>政教分離の原則と違憲審査基準</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：要点をノートに整理</li> </ul>
7	精神的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の自由とその類型</li> <li>表現の自由に対する規制類型</li> <li>報道の自由と限界</li> <li>学問の自由と最先端科学研究</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
8	経済的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業選択と営業の自由</li> <li>居住と移転の自由</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
9	経済的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>財産権の保障</li> <li>財産権の限界</li> <li>私有財産に対する正当な補償</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
10	人身の自由	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正手続の保障</li> <li>罪刑法定主義</li> <li>令状主義とその例外</li> <li>接見交通権</li> <li>黙秘権と拷問の禁止</li> <li>残虐な刑罰と死刑制度</li> <li>刑事補償請求権</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
11	社会権	<ul style="list-style-type: none"> <li>生存権の保障</li> <li>教育を受ける権利</li> <li>労働基本権</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
12	包括的基本権 平等権	<ul style="list-style-type: none"> <li>幸福追求権と死刑</li> <li>新しい人権</li> <li>機会の平等と結果の平等</li> <li>法の下での平等をめぐる違憲審査基準</li> <li>尊属殺人罪(刑法旧200条)と尊属傷害致死罪(刑法旧205条2項)</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
13	国会	<ul style="list-style-type: none"> <li>国権の最高機関性と「政治的美称説」</li> <li>二院制</li> <li>委員会中心主義</li> <li>議員の免責特権</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
14	内閣と裁判所	<ul style="list-style-type: none"> <li>議院内閣制</li> <li>独立行政委員会</li> <li>内閣不信任決議と衆議院の解散</li> <li>司法権の独立と「児島惟謙」</li> <li>違憲審査制</li> <li>違憲判決の効果</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
15	財政、地方自治、憲法の保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政民主主義</li> <li>地方自治の本旨</li> <li>憲法改正の手続と限界</li> </ul>	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理

関連科目	行政法、民法及び刑法その他諸法と密接に関連しています。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシックテキスト憲法〔第2版〕	君塚 正臣＝中曾久雄ほか	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（第6版）	芦部 信喜＝高橋 和之（補訂）	岩波書店
	2	いちばんやさしい憲法入門 第4版補訂版（有斐閣アルマ）	初宿 正典＝高橋 正俊＝米沢 広一＝棟居 快行	有斐閣
	3	憲法判例集（第10版）	野中 俊彦＝江橋 崇	有斐閣新書
評価方法 （基準）	・基本的に定期試験の結果で評価するが、質疑応答を行った場合、その内容も成績評価に加味する。			
学生への メッセージ	・各種国家試験や資格試験、および、公務員試験受験予定者は、この講義そのものが試験対策になり得ますので、積極的に受講してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組むこと。			



科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的  
この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。

到達目標  
読んだ文章を正しく理解し、自分なりにまとめることができる。  
語彙力をつける。一般書レベルの漢字が読めるようになる。

授業方法と留意点  
・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容について文章にまとめたり、口頭で説明する練習を行う。  
・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。重要な語彙をピックアップして語彙マップを作成することもある。

科目学習の効果 (資格)  
専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目  
日本語読解 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
語彙テスト、授業への参加態度 (課題やタスクへの取り組み) 等を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！

担当者の研究室等  
7号館2階 (非常勤講師室)

備考  
(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。  
(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本史学	科目名(英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
	15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第1回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	人間の探求	科目名(英文)	Humanities
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清

**授業概要・目的**  
 フロイトの精神分析は、現在でも多くの批判にさらされているとはいえ、無意識という新しい観点から人間の考え方や振舞い方の意味を考えるその立場は、西欧の伝統的な人間論と深い関係をもっている。授業では、フロイトの精神分析の過激性に注目しながら、その理論的厳密性を紹介する。また、後半では、授業で得た知識を確認するために、映画『Blade Runner』を観る。

**到達目標**  
 他者との関係、自分自身との関係、見ることの複雑性、記憶の現在性などに対する問題意識の形成

**授業方法と留意点**  
 テキストは使用しない。板所はかなりの量になるので、ノートは必ず準備すること。

**科目学習の効果(資格)**  
 人間論によって自分自身の存在あるいは死について考えることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の概要	――
2	フロイトの生涯	フロイトの人生と思想の流れ	シラバスの熟読
3	無意識の存在	ヒステリー研究	前回のノートの見直し
4	――	夢の解釈方法	前回のノートの見直し
5	心的外傷	抑圧の事後性	前回のノートの見直し
6	――	現実か幻想か	前回のノートの見直し
7	エディプス論	エディプス・コンプレクス	前回のノートの見直し
8	――	罪悪感の起源としての原父殺害	前回のノートの見直し
9	死の欲動	糸巻き遊びによる反復強迫	前回のノートの見直し
10	――	快感原則と現実原則	前回のノートの見直し
11	ラカンの精神分析	自我の誕生としての鏡像	前回のノートの見直し
12	――	言語と無意識	前回のノートの見直し
13	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞	前回のノートの見直し
14	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞及び分析	前回のノートの見直し
15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し

**関連科目**  
 思想系の科目。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 授業への参加、定期試験などにより総合的に評価。

**学生へのメッセージ**  
 自分自身のあり方、人間関係のあり方、生きるあるいは死ぬとはどういうことか、こうした根本的な問題に関して、答えは出ないものの、新しい見方をすることができると思います。

**担当者の研究室等**  
 7号館2階(非常勤講師室)

**備考**

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</li> <li>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</li> <li>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</li> <li>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</li> <li>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</li> <li>・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「被害者」概念について説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。</li> <li>・犯罪被害者の支援制度について理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</li> <li>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・「加害者」の法的責任</li> <li>・「加害者」と「犯罪者」</li> <li>・「被害者」の意義</li> <li>・「犯罪被害者」の意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:「犯罪被害者」について調べてみよう</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「犯罪者」の刑事責任</li> <li>・刑罰の正当化根拠</li> <li>・厳罰化をめぐる諸問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告訴と告発の方法</li> <li>・証拠保全</li> <li>・犯罪被害者に対するメディアスクラム</li> <li>・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット)</li> <li>・被害者連絡制度</li> <li>・被害者側からの問い合わせ</li> <li>・被害者からの事情聴取</li> <li>・警察と検察によるカウンセリング体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・示談の意義</li> <li>・示談が与える影響</li> <li>・示談慰謝料の算定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検察審査会</li> <li>・検察審査員</li> <li>・審査申立手続</li> <li>・検察審査会と被害者</li> <li>・起訴議決制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者による裁判傍聴</li> <li>・被害者による記録の閲覧と謄写</li> <li>・被害者の意見陳述</li> <li>・被害者等特定事項の非公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象犯罪</li> <li>・被害者に認められる行為</li> <li>・参加の申出と参加時期</li> <li>・公判前整理手続への参加</li> <li>・被害者の証人尋問</li> <li>被告人質問と意見陳述</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	8	小テスト	第7回目までの理解度確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回までの復習</li> <li>事後:わからなかった箇所を再確認</li> </ul>
	9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の趣旨</li> <li>・対象犯罪</li> <li>・遺族による申立</li> <li>・請求対象とその範囲</li> <li>・管轄裁判所と申立期間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:「犯罪被害者への経済支援」を調べよう</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加害者の施設内処遇と社会内処遇</li> <li>・加害者の仮釈放</li> <li>・犯罪被害者への経済支援制度</li> <li>・受給資格</li> <li>・支給要件と支給額</li> <li>・不服申立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>
	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪被害者救護基金</li> <li>・交通事故犯罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前:前回の復習</li> <li>事後:重要事項をまとめる</li> </ul>

			・犯罪による精神被害																	
	12	少年事件における被害者保護	・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	修復的司法	・修復的司法の意義 ・わが国における修復的司法の展望	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時までに指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時までに指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時までに指示する																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仁平 章子

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーとは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・仕事の基本動作とサイクル ・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動	・事前学修：企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修：仕事とは何か、400字でまとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表作成について振り返り、まとめる(400字以上)。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する(1000字以上)。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：実際にメールをうつ。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：慶弔・贈答プリント②をする。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目 キヤリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (30%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深めることができる。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深めることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる
	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
	4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる
	5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる
	6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
	7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
	8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
	9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
	11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる
	12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
	13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる
	15	武道論総括（テスト）	14回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館
	2	武道を知る	田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹	不昧堂
	3			

評価方法（基準）	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう） 武道論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）
----------	---

学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	総合体育館1F横山講師室
----------	--------------

備考	
----	--

教養科目



科目名	フランス語 I	科目名 (英文)	French I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。一例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行つたとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果 (資格)	仏検 (実用フランス語技能検定試験) 5 級へ向けた学力の準備をする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	フランス語会話 (基礎) の学び方の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
2	『話したくなるフランス語』 導入 (pp. 2-3)	アルファベとその読み方	『話したくなるフランス語』 導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』 第 1 課 (pp. 4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方 (1)	『話したくなるフランス語』 第 1 課の予習復習、練習問題 1
4	『話したくなるフランス語』 第 1 課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音 (1)	『話したくなるフランス語』 第 1 課の予習復習、練習問題 2
5	『話したくなるフランス語』 第 2 課 (pp. 10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』 第 2 課の予習復習、練習問題 3
6	『話したくなるフランス語』 第 2 課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音 (2)	『話したくなるフランス語』 第 2 課の予習復習、練習問題 4、練習問題 5
7	『話したくなるフランス語』 第 3 課 (pp. 16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』 第 3 課の予習復習、練習問題 6、練習問題 7
8	『話したくなるフランス語』 第 3 課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリゾイオン・アンシェヌマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』 第 3 課の予習復習、練習問題 8
9	『話したくなるフランス語』 第 4 課 (pp. 22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』 第 4 課の予習復習、練習問題 9、練習問題 10
10	『話したくなるフランス語』 第 4 課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ?tre の変化	『話したくなるフランス語』 第 4 課の予習復習、練習問題 11、練習問題 12
11	『話したくなるフランス語』 第 5 課 (pp. 28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』 第 5 課の予習復習、練習問題 13、練習問題 14
12	『話したくなるフランス語』 第 5 課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音 (3)	『話したくなるフランス語』 第 5 課の予習復習、練習問題 15、練習問題 16、練習問題 17
13	『話したくなるフランス語』 第 6 課 (pp. 34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』 第 6 課の予習復習、練習問題 18
14	『話したくなるフランス語』 第 6 課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』 第 6 課の予習復習、練習問題 19、練習問題 20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目	後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]、柳沢文昭[訳注]	第三書房
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (50%) と平常点 (授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など) (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。
----	----------------------------------

科目名	フランス語Ⅱ	科目名(英文)	French II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口をついて出るようになります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書(『かたつむりの歌(Chanson des Escargots)』、『話したくなるフランス語(Un peu de fran?ais ?)』)を使用するので教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級に相当する学力を目指す。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざま動詞の活用 以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読する	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』第7課(pp.40-45)	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題21
4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音(4) conna?treの変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題22、練習問題23
5	『話したくなるフランス語』第8課(pp.46-51)	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題22、練習問題24
6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoirの変化 つづり字と発音(5) 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題25、練習問題26
7	『話したくなるフランス語』第9課(pp.52-57)	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題27
8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題28、練習問題29
9	『話したくなるフランス語』第10課(pp.58-63)	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題30
10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題31
11	『話したくなるフランス語』第11課(pp.64-69)	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』ト第11課の予習復習、練習問題32、練習問題33、練習問題34
12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題35、練習問題36
13	発展的学習(1)	役に立つ表現と文法事項の補足(1) 会話練習(1)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
14	発展的学習(2)	役に立つ表現と文法事項の補足(2) 会話練習(2)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目 前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	かたつむりの歌(Chanson des Escargots)	田島宏[編], プレヴェール[著]	第三書房
2	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著], 柳沢文昭[訳注]	第三書房
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするのの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿を撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義	・事前学修：プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修：初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修：漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間の要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修：コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修：プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修：初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その視点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修：自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修：評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修：評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修：修正した自己紹介プレゼンをさらに練習する。 ・事後学修：グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修：評価表作成を行う。 ・事後学修：グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修：評価表を完成させる。 ・事後学修：フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修：紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンを完成させる。
14	フィードアフォード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修：個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名												
	番号	書籍名	著者名	出版社名													

	1	プレゼンテーション ZEN 第2版	ガー・レイノルズ	丸善出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の 60% で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	文化人類学	科目名(英文)	Cultural Anthropology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果(資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	文化人類学とは?	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念、方法論について概説する。	特になし
	2	人類学の誕生(1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化論人類学へという変化をとおしていわゆる人類学の誕生をあとづける。	特になし
	3	人類学の誕生(2): 進化論人類学	タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化論人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
	4	機能主義人類学(1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
	5	機能主義人類学(2): 有機的全体としての社会	前回の続き	特になし
	6	アメリカ文化人類学の誕生(1):	フランツ・ボアズの研究を概説する。	特になし
	7	アメリカ文化人類学の誕生(2)	前回の続き	特になし
	8	アメリカ文化人類学の展開(1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
	9	アメリカ文化人類学の展開(2)	前回の続き	特になし
	10	構造主義(1)	モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
	11	構造主義(2)	前回の続き	特になし
	12	解釈人類学(1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
	13	解釈人類学(2)	前回の続き	特になし
	14	文化を書く	80年代以降のポストモダン人類学について概説する。	特になし
	15	ポスト・ポストモダン人類学と文化の行方	これまでの議論のまとめと総括を行う。	特になし

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	100%試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。
----------	--

学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的  
この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。  
学科の学習・教育目標との対応：[II]

到達目標  
マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。

授業方法と留意点  
講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。

科目学習の効果(資格)  
マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目  
マーケティング論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入体制の変遷―	武居奈緒子	千倉書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ―越後屋から三井財閥―	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法(基準)  
期末テストの成績70%、授業内課題30%

学生へのメッセージ  
授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。

担当者の研究室等  
武居教授室

備考

教養科目

科目名	マーケティング入門	科目名 (英文)	Introduction to Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵

授業概要・目的	現在、いかなる組織においても、マネジメントを効果的に行い、目標を達成するにはマーケティング発想が不可欠である。本授業では、事例を交えながらマーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。各々がマーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになることを到達目標とする。
到達目標	マーケティングの基礎的な知識を習得する。 マーケティング論的な視点で物事をとらえる事ができるようになる。
授業方法と留意点	講義が中心だが、授業の中で課題の考察・検討の時間を設ける
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。マーケティング論的な発想ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マーケティングの本質	マーケティングとは何か、基本的な用語について解説する。	【事前学習】 教科書の該当部分を予習する。 【事後学習】 内容の復習し、ポイントを整理する。
2	マーケティングのなり立ち	マーケティングの歴史を学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
3	STP	セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
4	マーケティング戦略とは	マーケティングの4Pと戦略の意義・構築について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
5	市場での競争と自社の存在意義	戦略構築のために自社の置かれている状況を把握する意義、手法について学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
6	競合他社について考える	競合他社と自社との関係から戦略構築を考える。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
7	製品のマネジメント	製品開発プロセスやライフサイクルからマネジメントを考える	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
8	ブランドのマネジメント	ブランドの意義を理解し、マネジメントのための戦略について考える	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
9	流通	流通チャネルやサプライチェーンマネジメントについて理解する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
10	営業のマネジメント	人的販売で重要な役割を果たす営業について解説する。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
11	価格のマネジメント	価格設定の考え方や戦略について学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
12	顧客理解	多様化した顧客をいかに理解し、企業のマーケティング戦略構築に反映させるかを学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
13	顧客とのコミュニケーション	顧客との双方方向のコミュニケーションによって関係を構築する意義やそれを活用した戦略について考える。 可能であればゲストスピーカーを招く。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
14	サービス・マーケティング	サービス業のマーケティングについて学ぶ。	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 教科書の内容の復習。
15	ソーシャル・マーケティング	コース・リレーティッド・マーケティングなどCSRを意識したマーケティングについて解説する	【事前学習】 指示されたキーワードについて調べる。 【事後学習】 試験にむけた復習

関連科目	経営学、経営戦略論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

教養科目

	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内課題30%、期末試験70%			
学生への メッセージ	日常生活において企業がどのような製品をどのような手段で告知し、それをどのような価格でどのような方法で販売しているのかに関心を持って講義に臨んでもらいたい。			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵研究室			
備考				



科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト(青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー)で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪—ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪—街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
10	詐欺—高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪—子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。

	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。																
	る。																			
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえるとと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考																				

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平

授業概要・目的	これから就職活動始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、2~6回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	開講にあたって<検討中> 4月7日(木)	講義の受け方、報告書やプレゼン等の成果公表の基礎知識、重要性を習得する	開講にあたっての講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
2	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月14日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月21日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
4	企業・製造業・仕事の基本とは③ 5月28日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月12日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月26日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
8	品質教育② 6月2日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	品質教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月9日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6月16日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6月23日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 6月30日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7月7日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育③ 7月14日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7月21日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート (6 回) と受講レポート 50%、授業姿勢 (積極性) 20%、全体討議 (プレゼンテーション) 10%、期末試験 20%とした総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック (株) と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	1号館 4階 奥野教授室			
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回 1 時間程度。 レポート各回 3 時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習 20 時間程度。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、高岡清			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化の中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。2, 3回, スカイプにより現地の人とのコミュニケーションを行う。授業日によっては「ものづくり系」と「サステイナブル(開発・建築・デザイン)系」が分かれて実習を行う。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目: ものづくり海外インターンシップ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法(基準): 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ: これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等: 1号館4階 川野教授室  
12号館7階 白鳥准教授室

備考: 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度  
【共同担当者】 諏訪教授, 白鳥准教授, 石田准教授, 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。  学科の学習・教育到達目標との対応：[II]																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップIIの準備 7/9(木) 6限目</li> <li>・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目</li> </ul> <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1~3日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>生産革新演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4~5日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>モノづくりシミュレーション演習</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計~生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習)</li> <li>【事前・事後学習】</li> <li>演習終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>工場見学</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>見学終了後、レポートを提出のこと</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7日目</li> <li>【授業テーマ】</li> <li>研修成果報告会</li> <li>【内容・方法等】</li> <li>研修成果報告会の実施。(グループ単位)</li> <li>【事前・事後学習課題】</li> <li>グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと</li> </ul> <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月3日(土) 1~4限目 プレゼンテーション指導</li> </ul> <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目 体験報告書の添削指導</li> <li>・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・4回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導</li> <li>・5回目 研修成果報告会(2回目)</li> <li>・6回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑</li> <li>・7回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</li> </ul>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果40%、研修成果報告会(2回)20%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、実習・授業態度20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		

担当者の研究室等	奥野教授室（1号館4階）
備考	<p>期間：2016年8月29日（月）～9月2日（金）、9月5日（月）～9月6日（火） パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月3日（土）には撰大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p><b>【事前事後学習】</b> レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p><b>【担当者】</b> パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名(英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野 常夫

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系）、または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン2箇所とタイ1箇所（合計3箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門、または建築・デザイン部門。（グループ演習） 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習、または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル</td> <td>内永ゆか子</td> <td>朝日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の英会話伝わるフレーズ集</td> <td>ニック・ウィリアムソン</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版</td> <td>高橋書店編集部</td> <td>高橋書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	「日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版														
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社														
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店														
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%）、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2回）15%として評価を行う。																
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班）」の受講を必須とする。																
担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室、諏訪教授室 1号館3階 伊藤教授室、石田准教授室 12号館7階 白鳥准教授室																
備考	【注意事項】研修予定期間：2016年8月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20時間程度 【共同担当者】伊藤教授、石田准教授、諏訪教授、白鳥准教授、理工学部インターンシップ委員会委員																



科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会では「明日を創っていく」のですから、そこに決まり切った正解はありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかありません。</p> <p>自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資に関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、人生のさまざまな局面で確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けることです。</p>
到達目標	<p>実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義は、教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。          ② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。          ③ 更に、それらを統合的に活用する能力 (=金融インテリジェンス) を、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けていきます。</p>

授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P4~15> ・私たちの暮らしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
	2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P38~49> ・国際経済 ・国家の財政
	3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~29> ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
	4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P147~149・152~159> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
	5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト<P74~81・150~152・159~161> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
	6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P82~91> ・年金制度 ・老後生活資金
	7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P92~98> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
	8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~37・50~53> 景気 景気と株価
	9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P118~129> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品 (債券他)」	テキスト<P111~118> ・預貯金 ・信託 ・債券
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P99~111> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
	12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト<P130~146> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P54~63> ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト<P64~73> ・キャッシュフロー表の見直し	

	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	・ライブイベントごとの課題 全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。	
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』 ISBN：978-4-907341-00-8（必須。授業では毎回の教科書を使用しますので、必ず購入してください。）			金融知力普及協会
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験 : 20% (知識の正確性を評価します。)</li> <li>・ 課題レポート : 50% (自分で考え、問題解決する能力を評価します。)</li> <li>・ 平常点 : 30% (全体の受講状況と受講態度、質疑応答などを評価します。「出席点」ではありません。)</li> </ul>				
学生への メッセージ	<p>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。</li> <li>② 最終回までに表計算ソフト「エクセル」で出題されるレポートの必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。</li> </ol>				
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。</li> <li>・「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む)：30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する)：30分程度</li> <li>・当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。 私語が多い者、授業の妨げとなる者は容赦なく退席させる。</li> </ul>				

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解

授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
----------	--------------------------------

科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。
-------------	------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	神経生物学(松川)	生命はどのようにして出現したのか、そしてそもそも生命とは何か考えてみよう。	講義後に小論文を課す。
4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関わりについて解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学 I、生物無機化学、生物統計学
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科専任教員)
----------	-----------------------------

備考	
----	--

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	Introduction to History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	ヨーロッパを中心にファッションの歴史をたどる。現代のファッション文化は、外部の刺激(暑さや寒さ/他者の視線など)から体を守るという衣服本来の役割をこえたところに成立している。こうした「おしゃれ」に対する現代的感覚は、歴史上、いかにして形成されたものなのだろうか。歴史を振り返ることで、ファッションに関する現代の「常識」を相対化し、その機能や役割について深く考える視座を獲得する。
到達目標	歴史的観点から身近なもの(ファッション)をとらえることで、今ある常識や価値観を相対化することの大切さを理解する。

授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
----------	--

科目学習の効果(資格)	ファッションという身近なテーマを通して、歴史に対する理解を深める。
-------------	-----------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	歴史としてのファッション	なぜ、ファッションに注目するのか	ファッションの歴史と聞いてイメージするものを文章にしておく。
	2	ファッションの機能	「必要最低限の服」しかなかったらなぜ困るのか	ファッションに関するアンケートにこたえる。
	3	ファッションと階級	奢侈禁止令にみる階級のシンボルとしてのファッション	ヨーロッパと日本の奢侈禁令例の共通点をまとめる。
	4	近代以前のファッション(1)	女性服・男性服・子供服の区別がなかった時代	近代以前と以後のファッションの違いについてまとめる。
	5	近代以前のファッション(2)	着飾るのをやめた男たち～男性服の画一化～	現代の男性服の特徴について考えてくる。
	6	服飾産業の女性化～作る・売る・買う～	「流行」は誰がつくるのか～有名デザイナーに男が多いのはなぜか～	女性デザイナーの多い分野は何か、またその理由は何か考えてくる。
	7	モデル・チェンジがもつ意味	・家電・車・パソコン・ファッション ・中間テストの実施	モデル・チェンジがもつ意味について考えてくる。
	8	「どこで」「どのように」買うか(中間テスト)	・デパートの誕生 ・中間テストの解説	自分の消費行動に照らして、授業内容をまとめる。
	9	オートクチュールから既製服へ(中間テスト解説)	ファッションの大衆化	ファッションから階級性が失われる過程をまとめる。
	10	ファッションとメディア	ファッション・ショーとモデルの歴史	「最新のファッション」をどのように摂取するか、自分の例を文章にしておく。
	11	古着への回帰	カウンターカルチャーとしてのストリート・ファッション	「新しいもの」がもつ価値について自分の意見をまとめる。
	12	下着の歴史	コルセットからの解放～カラーパリエーションのある装飾性の高い下着はいかにして生まれたか～	近代以前と以後の下着の特徴の違いをまとめる。
	13	子ども服の歴史	『不思議の国のアリス』の世界	子ども服の特徴についてまとめる。
	14	ユニセックス・ファッション	ジェンダーの壁をこえるファッション	ユニセックス・ファッションの具体例について考えてくる。
	15	異性装の歴史	ジェンダー・セクシュアリティ・ファッション	異性装が果たす機能についてまとめる。

関連科目	世界の歴史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間テスト(20%)、到達確認テスト(80%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
----------	--------------

備考	事前事後学習に要する総時間数は約60時間。
----	-----------------------

# キャリア形成科目





科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Development I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 水野 武

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマに沿って本学の教職員から多様な生き方を聴く。大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることを、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかがかわることについて考える契機となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～「自分スイッチ」をつける チャンスは摂南大学にある ～（担当：地域連携センター 係長 古屋豊吾）	みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義を振り返る
3	学生生活② 漢字が教えてくれること -古代人からわたしたちへの メッセージ-（担当：外国語 部 教授 中西正樹）	漢字には3000年前の人々の物の見方や宗教、社会、戦争などのありさまが刻み込まれている。漢字の成り立ちを通して現代を生きる私たちにとって必要な知恵や教訓を見つけ出す。	・講義を振り返る
4	学生生活③ 社会に出て働くために（担 当：校方事務室 酒井俊輔）	社会人として働く前にやるべきこと、やっておいて欲しいことはどんなことか？ 自身の大学時代や一般企業での経験などをもとにお話しします。	・講義を振り返る
5	学生生活④ 講義の中間まとめ（担当：キ ャリア教育推進室）	・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
6	学修① 大学生活における学習への 動機づけ（担当：経営学部 准 教授 牧野幸志）	大学での学習における様々な動機づけについて考える 機会を提供する。大学の勉強とは？どの席に座っている人が成績は良いのか？やる気はあるのか？など。また、どのように学習が大学では効率的かを心理学的に解説する。	・講義を振り返る
7	学修② チャンスだらけの摂南大学- 学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部 准教授 久保貞也）	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） (2) チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
8	学修③ 基礎科学における大学院進 学と研究職への道（担当：理 工学部 准教授 東武大）	本講義では基礎科学分野での大学院での研究の在り方、及びポストドク問題（OD問題）等、研究職に就くまでの様々な現実について解説します。	・講義を振り返る
9	学修④ 講義の中間まとめ（担当 キ ャリア教育推進室）	・第6回から8回までの講義のまとめ ・第1回「学生生活」レポートからの反省と第2回レポートに向けて	・講義を振り返る ・第2回「学修」に関するレポート締切
10	キャリアパス① 海外駐在員の仕事及び生活 （担当：経済学部 学部長 教授 久保廣正）	観光・短期留学で一時的に滞在する場合と異なり、海外駐在、それも家族を同伴する駐在の場合、数多くの課題に直面します。ある企業の駐在員として5年間、ロンドンに滞在した経験を紹介し、大学での学びを振り返ります。	・講義を振り返る
11	キャリアパス② 危機感や劣等感を駆動力に 変える（担当：外国語学部 教 授 松田早恵）	自分の“marketability”を上げるために何ができるか考えてみましょう。	・講義を振り返る
12	キャリアパス③ 会社人生を楽しく生き抜く には？	企業での勤務体験を元に、それぞれの年代で必要となる知識や態度と、それを獲得するために大学で経験しておくべき事等について紹介します。	・講義を振り返る
13	キャリアパス④ 「私のキャリア」 キャリア アップを考える（担当：経済 学部 教授 持永政人）	企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義を振り返る
14	キャリアパス① 法律とスポーツと将来の職	法とスポーツとの関係性は見出しにくい、様々な関係性を	・講義を振り返る

キャリア形成科目

	(担当:法学部 准教授 石井信輝)	有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。		
15	講義のまとめ (担当:キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り</li> <li>・まとめのレポート書き方指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を振り返る</li> <li>・講義のまとめのレポート</li> </ul>	
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のミニツッパーパー (15%)、グループワーク (15%)、グループ課題 (10%)、レポート3回 (60%)、を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	11号館10階 (荻田) 7号館5階 (石井) 7号館3階 (水野)			
備考	教科書: 各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書: 各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			



科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Development II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となり、社会人としての真摯な態度での話の聴き方やメモを取り、積極的に質問をする習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(キャリア教育推進室)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・講義の感想を提出
2	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/管理職)	企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします	・講義の感想を提出
3	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで(摂大 OB/NPO 法人代表)	理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・講義の感想を提出
4	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・講義の感想を提出
5	企業人の私が経験した摂大 OB としての歩み方(摂南大学 OB・メーカー/営業管理職)	キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒 OB といえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
6	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します DVD の上映も行います。	・講義の感想を提出
7	銀行の業務と役割について(銀行員)	銀行の業務とその社会的役割及び銀行員のキャリアについてお話しします	・講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる！？(摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講義の中間まとめ ・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	情報サービス業の現状と展望(IT/人材育成)	仕事や生活のあらゆる場面で利用されている IT。文理問わず募集している理由や仕事内容、また将来に向けた課題をお話しします。	・中間レポートを提出 ・講義の感想を提出
10	これから～自分の将来像について考える～(摂大 OB/警備会社人事)	「どのような人生をどのように歩んでいきたいか」を、就職についての話を踏まえながら、学生のみなさんにも考えてもらいます。	・講義の感想を提出
11	業界の見極め方と就職活動に向けた心構え(商社 人事)	知っている会社と知らない会社の違いを分析し、世の中の仕組みについて考えます。社会の求める人材像を目指し、学生生活で身につけるべきスキルを紹介。就職活動に向けた心構えを伝授します。	・講義の感想を提出
12	高校教師の仕事(高校教師)	高校の教師の仕事についてお話しします。	・講義の感想を提出
13	信用金庫の歴史と社会的使命(金融/人財開発)	信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・講義の感想を提出
14	今求められる公務員像(摂南大学 OB/市役所職員)	安定・厚遇という言葉だけが独り歩きする職業としての公務員。経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・最終レポートを提出

関連科目 キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				

キャリア形成科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (70%) を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	教務部 キャリア教育推進室 (7号館5階/石井、7号館3階/水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 亀田 峻宣, 水野 武

授業概要・目的	1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える	自分にとって「キャリアデザイン」とは何かを考えること。
2	さあ始めよう! 大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートを取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂大学①	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・学生生活において「目標とするもの」を考える	摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。
4	摂大学②	・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められる力について考える	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
9	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
10	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	社会人基礎力を実践する方法を考えること。
11	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
12	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
13	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	グループ活動の振り返り	・グループ活動を振り返り、コミュニケーション、ホスピタリティ、マナーについて考える	グループ活動の経緯を振り返ること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)で総合的に評価する。
------	---

キャリア形成科目

(基準)	
学生へのメッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 大学生基礎力テスト等の実施のために内容を変更する場合がある。

科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 齋藤 安以子, 中西 正樹, 橋本 正俊

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。さらに後半(11月以降)は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択を行います。
到達目標	社会の仕組みや様々な業界を知ること、今後の自分のキャリアプランについて考え、それを就職活動にも活かせるようにすることを目標とします。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。通常は3クラスに分かれて授業を行います。第2～6回(計5回)は合同(大教室)で授業を行いますので、教室変更に注意してください。
科目学習の効果(資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	就職の現状と就活の対策 <合同授業>	・就職部の職員および外国語学部教員による講義を聴いて、就職活動の現状や対策について学ぶ。 ・ワークシートの提出	就職活動について調べてみる。
3	OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談(1) <合同授業>	・OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談を聴く。また、学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。 ・ワークシートの提出	関心のある職業について調べてみる。
4	OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談(2) <合同授業>	・OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談を聴く。また、学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。 ・ワークシートの提出	関心のある職業について調べてみる。
5	自分の進路や職業について <合同授業>	・キャリア教育推進室の教員による講義を聴き、就活やキャリアについての理解を深める。また、自分の進路や職業について考える。 ・ワークシートの提出	自分の進路や将来の職業について考え、調べてみる。
6	社会人としての礼儀やマナー、仕事や就職に関する資格 <合同授業>	・キャリア教育推進室の教員および資格サポートセンターの職員による講義を聴き、礼儀・マナーや資格などについて学ぶ。 ・ワークシートの提出	礼儀・マナー、資格などについて調べてみる。
7	パッケージプログラムの紹介(1)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
8	パッケージプログラムの紹介(2)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
9	パッケージプログラムの紹介(3)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
10	パッケージプログラムの紹介(4)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
11	パッケージプログラムの紹介(5)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
12	パッケージプログラムの紹介(6)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
13	パッケージプログラムの確認と、その選択申請	・パッケージプログラムの理解を深め、パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。 ・キャリアプランのレポートについて事前説明を行う。	・どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。 ・レポート作成の準備をする。
14	キャリアプランのレポートの作成	キャリアプランのレポートを授業中に作成し、提出する。	レポート作成の準備をする。
15	総括(まとめ)	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
参考書				

キャリア形成科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢、提出物(ワークシートやレポート)などから総合的に評価します。			
学生への メッセージ	社会人の先輩たちとの出会いもある授業です。出席を重視してがんばってください。			
担当者の 研究室等	7号館4階(中島研究室)			
備考	事前および事後に1時間以上の学習を要する			

科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一、大原 関 一浩、田浦 アマンダ、松田 早恵

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。さらに後半(11月以降)は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択を行います。
到達目標	社会の仕組みや様々な業界を知ること、今後の自分のキャリアプランについて考え、それを就職活動にも活かせるようにすることを目標とします。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。通常は3クラスに分かれて授業を行います。第2～6回(計5回)は合同(大教室)で授業を行いますので、教室変更に注意してください。
科目学習の効果(資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	就職の現状と就活の対策 <合同授業>	・就職部の職員および外国語学部教員による講義を聴いて、就職活動の現状や対策について学ぶ。 ・ワークシートの提出	就職活動について調べてみる。
3	OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談(1) <合同授業>	・OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談を聴く。また、学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。 ・ワークシートの提出	関心のある職業について調べてみる。
4	OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談(2) <合同授業>	・OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談を聴く。また、学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。 ・ワークシートの提出	関心のある職業について調べてみる。
5	自分の進路や職業について <合同授業>	・キャリア教育推進室の教員による講義を聴き、就活やキャリアについての理解を深める。また、自分の進路や職業について考える。 ・ワークシートの提出	自分の進路や将来の職業について考え、調べてみる。
6	社会人としての礼儀やマナー、仕事や就職に関する資格 <合同授業>	・キャリア教育推進室の教員および資格サポートセンターの職員による講義を聴き、礼儀・マナーや資格などについて学ぶ。 ・ワークシートの提出	礼儀・マナー、資格などについて調べてみる。
7	パッケージプログラムの紹介(1)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
8	パッケージプログラムの紹介(2)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
9	パッケージプログラムの紹介(3)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
10	パッケージプログラムの紹介(4)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
11	パッケージプログラムの紹介(5)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
12	パッケージプログラムの紹介(6)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
13	パッケージプログラムの確認と、その選択申請	・パッケージプログラムの理解を深め、パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。 ・キャリアプランのレポートについて事前説明を行う。	・どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。 ・レポート作成の準備をする。
14	キャリアプランのレポートの作成	キャリアプランのレポートを授業中に作成し、提出する。	レポート作成の準備をする。
15	総括(まとめ)	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目 キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			

参考書

キャリア形成科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢、提出物(ワークシートやレポート)などから総合的に評価します。			
学生への メッセージ	社会人の先輩たちとの出会いもある授業です。出席を重視してがんばってください。			
担当者の 研究室等	7号館5階(浅野研究室)			
備考	事前および事後に1時間以上の学習を要する			



科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠, 赤澤 春彦, 後藤 一章, 林田 敏子

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。さらに後半(11月以降)は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択を行います。
到達目標	社会の仕組みや様々な業界を知ること、今後の自分のキャリアプランについて考え、それを就職活動にも活かせるようにすることを目標とします。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。通常は3クラスに分かれて授業を行います。第2～6回(計5回)は合同(大教室)で授業を行いますので、教室変更に注意してください。
科目学習の効果(資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	就職の現状と就活の対策 <合同授業>	・就職部の職員および外国語学部教員による講義を聴いて、就職活動の現状や対策について学ぶ。 ・ワークシートの提出	就職活動について調べてみる。
3	OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談(1) <合同授業>	・OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談を聴く。また、学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。 ・ワークシートの提出	関心のある職業について調べてみる。
4	OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談(2) <合同授業>	・OB/OGや4年生による就活や仕事の体験談を聴く。また、学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。 ・ワークシートの提出	関心のある職業について調べてみる。
5	自分の進路や職業について <合同授業>	・キャリア教育推進室の教員による講義を聴き、就活やキャリアについての理解を深める。また、自分の進路や職業について考える。 ・ワークシートの提出	自分の進路や将来の職業について考え、調べてみる。
6	社会人としての礼儀やマナー、仕事や就職に関する資格 <合同授業>	・キャリア教育推進室の教員および資格サポートセンターの職員による講義を聴き、礼儀・マナーや資格などについて学ぶ。 ・ワークシートの提出	礼儀・マナー、資格などについて調べてみる。
7	パッケージプログラムの紹介(1)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
8	パッケージプログラムの紹介(2)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
9	パッケージプログラムの紹介(3)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
10	パッケージプログラムの紹介(4)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
11	パッケージプログラムの紹介(5)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
12	パッケージプログラムの紹介(6)	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの提出	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
13	パッケージプログラムの確認と、その選択申請	・パッケージプログラムの理解を深め、パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。 ・キャリアプランのレポートについて事前説明を行う。	・どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。 ・レポート作成の準備をする。
14	キャリアプランのレポートの作成	キャリアプランのレポートを授業中に作成し、提出する。	レポート作成の準備をする。
15	総括(まとめ)	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
参考書				

キャリア形成科目

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢、提出物(ワークシートやレポート)などから総合的に評価します。			
学生への メッセージ	社会人の先輩たちとの出会いもある授業です。出席を重視してがんばってください。			
担当者の 研究室等	7号館4階 (住吉 研究室)			
備考	事前および事後に1時間以上の学習を要する			

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠, 山岡 亮太

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考	

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
----------	-----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 教子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習	

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--



科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 教子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
----	--



# 教 職 科 目





科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。これから英語教師になる学生は、それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、過去の英語教育の歴史を始め、英語教授法や授業のスキル等を身につけてもらうことが、この授業の目的である。当然、更なる英語力の伸長やレベルの高いプレゼンテーション能力向上も培ってもらいたい。																																																																		
到達目標	1. 指導案が書けるようになる。 2. 工夫した授業ができるようになる。 3. 自らのパフォーマンスを客観的に見て、弱点を改善することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では基本的に講義と演習（発表）を併用して展開します。必ず予習をして出席すること。授業での発表、態度、出席状況は特に重視する。																																																																		
科目学習の 効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語科教育法とは 実力診断テスト</td> <td>序章</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>日本の英語教育の歴史</td> <td>第1章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>学習指導要領</td> <td>第2章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教授法 (1) 及び指導案作成</td> <td>第3章 (前半) (1h)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教授法 (2) 及び模擬授業</td> <td>第3章 (後半) (1h)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教員の役割等</td> <td>第4章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>第1言語習得と第2言語習得</td> <td>第5章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>学習者理論</td> <td>第6章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>コミュニケーション能力・国際理解教育</td> <td>第7章・第8章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>4 技能の指導(1)</td> <td>第11章・第12章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>4 技能の指導(2)</td> <td>第13章・第14章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>語彙・文法指導</td> <td>第15章・第16章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>中学校での指導</td> <td>第18章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>高等学校での指導</td> <td>第19章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>総復習</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テスト	序章	2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第1章 (1h)	3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第2章 (1h)	4	英語教育の基礎理論	英語教授法 (1) 及び指導案作成	第3章 (前半) (1h)	5	英語教育の基礎理論	英語教授法 (2) 及び模擬授業	第3章 (後半) (1h)	6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第4章 (1h)	7	英語教育の基礎理論	第1言語習得と第2言語習得	第5章 (1h)	8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第6章 (1h)	9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第7章・第8章 (1h)	10	英語教育の実践編	4 技能の指導(1)	第11章・第12章 (1h)	11	英語教育の実践編	4 技能の指導(2)	第13章・第14章 (1h)	12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第15章・第16章 (1h)	13	英語教育の実践編	中学校での指導	第18章 (1h)	14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第19章 (1h)	15	まとめ	総復習	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テスト	序章																																																																
2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第1章 (1h)																																																																
3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第2章 (1h)																																																																
4	英語教育の基礎理論	英語教授法 (1) 及び指導案作成	第3章 (前半) (1h)																																																																
5	英語教育の基礎理論	英語教授法 (2) 及び模擬授業	第3章 (後半) (1h)																																																																
6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第4章 (1h)																																																																
7	英語教育の基礎理論	第1言語習得と第2言語習得	第5章 (1h)																																																																
8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第6章 (1h)																																																																
9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第7章・第8章 (1h)																																																																
10	英語教育の実践編	4 技能の指導(1)	第11章・第12章 (1h)																																																																
11	英語教育の実践編	4 技能の指導(2)	第13章・第14章 (1h)																																																																
12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第15章・第16章 (1h)																																																																
13	英語教育の実践編	中学校での指導	第18章 (1h)																																																																
14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第19章 (1h)																																																																
15	まとめ	総復習	—————																																																																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英語科教育法 改訂版</td> <td>望月昭彦 (編著)</td> <td>大修館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Common Errors in English Writing</td> <td>Haruo Kizuka</td> <td>ネリーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英語科教育法 改訂版	望月昭彦 (編著)	大修館	2	Common Errors in English Writing	Haruo Kizuka	ネリーズ	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	英語科教育法 改訂版	望月昭彦 (編著)	大修館																																																																
2	Common Errors in English Writing	Haruo Kizuka	ネリーズ																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	模擬授業(10%)+学習指導案(5%)+授業中の参加度(5%)+テスト(80%)で評価する。 模擬授業はわかりやすさと工夫度を評価する。																																																																		
学生への メッセージ	英語教師を希望する人に、英語教育の初歩から応用まで、英語教育学全般を全てを学んでもらいたいと思います。この授業が皆さんの英語教師への道のりに役に立てばと思います。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館4階(家口研究室)																																																																		
備考	高い英語力を身につけること。 中学校の教科書を別途購入してもらう予定です。(1冊300円ほど)																																																																		

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名(英文)	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任を持って多様な学習者や社会の変化に対応できる、英語の教授法や具体的な指導のスキルを身につける。</li> <li>スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や授業分析、評価などを演習を通して学ぶ。</li> <li>教育機器の効果的な使い方を覚えたり、他者の目でみたクラス構築の重要な手法も紹介する。</li> <li>他の受講生と、互いの授業を改善するための建設的なディスカッション方法も学ぶ。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の日本の中学校・高等学校を想定した、英語による英語の授業を計画できるようになる。</li> <li>十分な計画の推敲と練習を行う習慣を身につける。</li> <li>学習者のモデルになるような、正確な英語による模擬授業ができるようになる。</li> <li>学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。</li> <li>自分の、そして他の学生による模擬授業を分析的に見て、授業展開のオプションを検討できるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々が短い授業を企画し、実技で発表する。</li> <li>各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時追加など個別指導を行う。</li> </ul> 留意点： <ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業で予習・参加・復習が必須。</li> <li>ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。</li> <li>「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。</li> </ul>

科目学習の 効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-----------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習(読み方・聞き分け・調音の仕組み)
	2	英語の文法・構文指導 小学校での外国語活動(1)	文法・語彙指導とその方法 小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(1)
	3	コミュニケーション・デザイン 小学校での外国語活動(2)	言葉を介したコミュニケーションの土台となる対人関係について 小学校での外国語活動の学習活動体験	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(2)
	4	リーディング 中学校の検定教科書(1)	読解の指導・スキミングやスキヤニング等を中心に 中学校の検定教科書を分析する	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(3)
	5	リスニング 中学校の検定教科書(2)	リスニング力の向上の方法に関して 中学校で学ぶ語彙・文法について	公立高校の入試問題を解く(1)
	6	スピーキング	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く(2)
	7	ライティング 高等学校の検定教科書(1)	ライティングの指導法・方法論に関して 高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(1)
	8	教材研究の仕方 高等学校の検定教科書(2)	普段の授業準備・日常の研修について 高等学校のさまざまな検定教科書を比較する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(2)
	9	板書と教材作成	板書と教材: アイディアを最大限に生かす形で実現するには	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
	10	教科書の選び方	レベルと指導法・授業目標を中心に 指導案の書き方(1)	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(1)
	11	カリキュラムの立て方	カリキュラムの理論: 基礎と作り方 指導案の書き方(2)	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(2)
	12	英語での模擬授業(1)	自分で企画した授業をクラスで実践する	授業の練習
	13	英語での模擬授業(2)	自分で企画した授業をクラスで実践する	授業の練習
	14	英語での模擬授業(3)	自分で企画した授業をクラスで実践する	授業の練習
	15	授業の自己分析と評価	分析と改善	復習

関連科目	教職科目全般 英語科目全般
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language	Brigit Viney	Oxford UP
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (レクシンプラン作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート) (2) 筆記試験 どちらも100点満点中 60点以上であることが、科目の合格に必要な。
----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、履修時にTOEIC550点程度の英語の知識が必要です。</li> <li>3年次7月までにTOEIC600点以上を、教育実習までにTOEIC730点・英検準1級の取得をめざしましょう。</li> <li>英語の文法、語彙、スペル、発音等、中学生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。</li> </ul>
-----------	--



担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。</li> <li>・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。</li> </ul>

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名(英文)	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任を持って多様な学習者や社会の変化に対応できる、英語の教授法や具体的な指導のスキルを身につけることが、この授業の目的である。</li> <li>スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や授業分析、評価などを演習を通して学ぶ。</li> <li>教育機器の効果的な使い方を覚えたり、他者の目でみたクラス構築の重要な手法も紹介する。</li> <li>他の受講生と、互いの授業を改善するための建設的なディスカッション方法も学ぶ。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の日本の中学校・高等学校を想定した、英語による英語の授業を計画できるようになる。</li> <li>十分な計画の推敲と練習を行う習慣を身につける。</li> <li>学習者のモデルになるような、正確な英語による模擬授業ができるようになる。</li> <li>学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。</li> <li>自分の、そして他の学生による模擬授業を分析的に見て、授業展開のオプションを検討できるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。</li> <li>各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時追加など個別指導を行う。</li> </ul> 留意点： <ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業で予習・参加・復習が必須。</li> <li>プロクンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。</li> <li>「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。</li> </ul>

科目学習の 効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-----------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	音声指導(1)+指導案作成	調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	音声指導(2)+指導案作成	英語の音と日本語の音のちがいが	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	音声指導(3)+模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	対面のコミュニケーションを教える(1)+指導案作成	対面コミュニケーションを支える要素	自分のスピーチをビデオ録画で観察する
5	対面のコミュニケーションを教える(2)+指導案作成	言語と非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションを意識的に変えてみる
6	対面のコミュニケーションを教える(3)+模擬授業	上達のためのコーチング	日常生活の中から、質問のパリエーションを広げる
7	教材開発：身近な題材(1)+指導案作成	何でも教材になる	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材開発：身近な題材(2)+模擬授業	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	教材開発：機器を使う(1)+指導案作成	使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のパリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	教材開発：機器を使う(2)+模擬授業	授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	模擬授業と指導案の分析(1)	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
12	模擬授業と指導案の分析(2)	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
13	模擬授業と指導案の分析(3)	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
14	外国語教育に関する報道	社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する	復習
15	アクションリサーチとは	問題があることに気づく・解決のために行動する 今学期の自分の変化を語る・今後の目標と到達のための手がかりを探す	これまでの自分の学習を振り返る

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職科目全般</li> <li>英語科目全般</li> </ul>
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月 昭彦 編著	大修館書店
2	The History of the English Language	Brigit Viney	Oxford UP
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (レクシンプラン作成・15回の授業時間間に行う実技・レポート) (2) 筆記試験 どちらも100点満点中 60点以上であることが、科目の合格に必要。
----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、履修時にTOEIC550点程度の英語の知識が必要です。</li> <li>3年次7月までにTOEIC600点以上を、教育実習までにTOEIC730点・英検準1級の取得をめざしましょう。</li> </ul>
-----------	--

教職科目

	・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名(英文)	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的  
現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。これから英語教師になる学生は、それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、過去の英語教育の歴史を始め、英語教授法や授業のスキル等を身につけてもらうことが、この授業の目的である。当然、更なる英語力の伸長やレベルの高いプレゼンテーション能力向上も培ってもらいたい。

到達目標  
1. 指導案が書けるようになる。  
2. 工夫した授業ができるようになる。  
3. 自らのパフォーマンスを客観的に見て、弱点を改善することができる。

授業方法と留意点  
授業では基本的に講義と演習(発表)を併用して展開します。必ず予習をして出席すること。授業での発表、態度、出席状況は特に重視する。

科目学習の効果(資格)  
英語教員免許(中・高)  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目:教育課程及び指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項:各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テストの実施	序章(1h)
2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第1章(1h)
3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第2章(1h)
4	英語教育の基礎理論	英語教授法(1)及び指導案作成	第3章(前半)(1h)
5	英語教育の基礎理論	英語教授法(2)及び模擬授業	第3章(後半)(1h)
6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第4章(1h)
7	英語教育の基礎理論	第1言語習得と第2言語習得	第5章(1h)
8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第6章(1h)
9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第7章・第8章(1h)
10	英語教育の実践編	4技能の指導(1)	第11章・第12章(1h)
11	英語教育の実践編	4技能の指導(2)	第13章・第14章(1h)
12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第15章・第16章(1h)
13	英語教育の実践編	中学校での指導	第18章(1h)
14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第19章(1h)
15	まとめ	総復習	—————

関連科目  
「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語科教育法 改訂版	望月昭彦	大修館
2	Common Errors in English Writing	Haruo Kizuka	ネリーズ
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
模擬授業(10%)+学習指導案(5%)+授業中の参加度(5%)+テスト(80%)で評価する。  
模擬授業はわかりやすさと工夫度を評価する。

学生へのメッセージ  
英語教師を希望する人に、英語教育の初歩から応用まで、英語教育学全般を全てを学んでもらいたいと思います。この授業が皆さんの英語教師への道のりに役に立てばと思います。

担当者の研究室等  
7号館4階(家口研究室)

備考  
高い英語力を身につけること。

教職科目

科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画、かつ、実践し、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくこと。さらに各々の卒業校(中学校、高等学校)の学校概要について情報収集しておくことが望ましい。また本授業用のノートを1冊準備すること。授業でレジュメを配布予定としているが、板書やパワーポイント資料の中の重要キーワードについては口頭で説明することもあるので、そういった内容を記述するためのノートを1冊準備しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
	2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
	3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
	4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
	5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
	6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	9	新しい教育課程 その2	「人権教育/平和教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	10	新しい教育課程 その3	「シティズンシップ」教育について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	12	教育課程と教育改革 その2	特色のある学校づくり＝高校編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
	15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
	2	教育課程・方法論—コンピテンシーを育てる授業デザイン	松尾知明	学文社
	3	中学校・高等学校学習指導要領解説	文部科学省	ぎょうせい他

評価方法(基準) 出席(8割以上必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ  
 1. 第一回目の授業は必ず出席すること。  
 2. 欠席・遅刻はしない。  
 3. 私語はしない。  
 4. 授業では何事にも積極的に取り組む。

	5. 授業内容の復習を怠らないこと。 6. 授業内容で分からない点については遠慮せずに質問する。
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちに与ってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育行政学 改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

教職科目

	1		適宜指示します。	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。			



科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについても一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目指します。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ベスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デュエイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育思想史	眞壁宏幹編	慶應義塾大学出版会
2	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房
3			

教職科目

評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子

授業概要・目的	(1) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供し、これらにもとづく討議ならびにビデオ等を用いた演習を交えて授業を展開する。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに教育実習生としての基本的心がまえについての理解を深める。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 来年度の教育実習に向けて、高い授業力や指導力を身に付ける。 (2) 学校組織のあり方、学校が抱える諸問題等、近年の学校教育全体の動向について興味関心を持ち、それらへの理解を深める。
授業方法と留意点	テキスト(授業内で指示する)を中心にプリント、視聴覚教材等を用いた演習方式を進める。また、模擬授業、レポートや各自の中学校・高等学校時代の経験発表などにより理解を深める。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後学習課題
1	教育実習の意義	・オリエンテーション ・教育実習の目的と意義について(グループワーク)	事前課題	テキストの該当する部分を読んでおく。
2	教育実習の現状について	・中学校/高等学校の現状と課題について(講義と全体討論) ※可能であれば中高での実習経験者にオブザーバーとして授業に参加してもらおう。	事前課題	課題資料の要約(詳細は第一回目の授業で指示する)
3	教育実習の内容・方法・心構え	・前半:教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について(視聴覚教材使用予定) ・後半:授業前半を受けてグループワーク	宿題(事後学習)	授業のまとめ
4	教育実習の実際(中学校)	・ビデオ等教材を通して、中学校での実習への理解を深める ・意見交換及び討議 ※可能であれば中学校での教育実習経験者に授業へオブザーバーとして参加してもらおう。	宿題(事後学習)	授業のまとめ
5	教育実習の実際(高等学校)	・ビデオ等教材を通して、高等学校での実習への理解を深める ・意見交換及び討議 ※可能であれば高等学校での教育実習経験者に授業へオブザーバーとして参加してもらおう。	宿題(事後学習)	授業のまとめ
6	授業づくりの方法と準備	・学習指導と教材研究について(各自、集めてきた教材の発表を行う。)	事前課題	各自授業を行うと仮定し、その授業に必要な教材を集めてくる。
7	学習指導案の作成(1)	・前半:授業の準備と配慮事項・学習指導案の書き方・教科指導の学習指導案を作成について。 ・後半:グループに分かれ、簡単な指導案を作成する。	事前課題	テキストの該当する分を読んでおく(第6回授業で詳細は指示する)。
8	学習指導案の作成(2)	・板書計画について ・授業の自己評価とその観点について	事前課題	第7回で作成した指導案を各自見直してくる。
9	模擬授業(1)	・実際に模擬授業(30分間の短縮バージョン)を行い、全体で評価し合う。 ※模擬授業をしないものは模擬授業に対して必ずコメントする。	課題	コメントカードの提出
10	模擬授業(2)	・実際に模擬授業(30分間の短縮バージョン)を行い、全体で評価し合う。 ※模擬授業をしないものは模擬授業に対して必ずコメントする。	課題	コメントカードの提出
11	実習中の勤務の要領	・学校の一日、一週間の流れ・学校の組織と運営の概要について	事前課題	テキストの該当する部分、および配布資料を読んでおく(詳細は第10回授業終了時に指示する)。
12	学校における人権教育等について	・人権教育とは ・人権教育の現状と課題について(人権教育に関するワークショップの実施)	事前課題	人権教育に関する資料(第11回授業で配布)を読んでおく。
13	特別支援教育の現状と課題	・特別支援教育について・障害の種類と配慮事項 ・障害児理解と交流教育について	事前課題	事前配布資料を読み、まとめてくる(第12回授業時に配布)。
14	事後学習と研究レポート	・実習で学んだことの整理・考察・評価と研究レポートの作成 ・グループワークと全体での意見交換	宿題(事後学習)	授業のまとめ(研究レポート)
15	期末レポート作成、および可能であればその発表	_____	_____	_____

関連科目 教職科目全般と関連があるので、これまで学習した内容について、復習し整理しておくことが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

教職科目

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席状況、課題レポート、模擬授業（予定）、学習指導案（予定）等及び平常点によって総合評価を行う。遅刻は欠席とする。			
学生への メッセージ	教職科目の特質をよく理解し、「学ぶこと」を通して「教えること」への実践的理解を深めることが大切である。また、「教育実習」はこれまでの学習の総まとめであることを自覚して、実習に備えること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	状況により授業計画が変更されることがある。また、学外活動（学校現場への授業見学等）を課すことがあるので参加すること。			

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合があるので、ガイダンス時の指示に従うこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)
	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
	教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。
----------	--

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)教育実習体験発表会(6月～7月)は教員採用試験の日程により後期に実施を延期する場合があるので、ガイダンス時の指示に従うこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
		教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
		教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
		教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)
		前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
		教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
		後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
		教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
		教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
		教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがあ場合は、単位を認定しない。
----------	--

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護体験が義務化されている。
----	-----------------------------------

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子

**授業概要・目的**  
 近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

**到達目標**  
 本講義の到達目標は以下の通りです。  
 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。  
 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。  
 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。  
 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

**授業方法と留意点**  
 講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題について発表し、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み(事前配布かテキスト使用)、それを講義日までに各自要約してきてもらいます(毎回要約を提出してもらうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外します。)  
 ○準備学習の具体的な方法  
 指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい(まとめかたは自由)。※ノートは提出してもらうこともあります。

**科目学習の効果(資格)**  
 (1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：教育の基礎理論に関する科目  
 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師-生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考える。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策;海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：教科書の第10章の要約。

**関連科目**  
 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『〔教師教育テキストシリーズ5〕教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3		
評価方法 (基準)	出席・授業貢献度、試験（毎時間行う小テストと期末試験）、課題（毎時間の要約）・ノートにより総合的に評価する。 ※出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とします（期末試験の受験資格なし）。		
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは過去に「長期間」にわたり経験したことがある）ことが必須条件です。学校での活動経験のない者については履修期間中、学校で活動することを義務づけることがあります。 また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。		
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)		
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。		



科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)……道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を實踐—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	

教職科目

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的  
教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。

到達目標  
教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点  
講義と演習を組み合わせで行う。

科目学習の効果(資格)  
教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目  
各科目に含める必要事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目  
教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
グループ発表 50% 期末試験 50%

学生へのメッセージ  
これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等  
7号館3階(吉田研究室)

備考

教職科目

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応し、多角的な教育方法の実践的探究をめざすスタンダードなテキストにもとづいた講義、授業の力量を高めるための基礎的な技術の紹介、授業の対象・目標の決定、教材の研究・作成、発問・指示の具体化等、一連の授業づくりをチームで行うマイクロティーチングの実施により授業を構成する。受け身ではなく能動的な学びを経験することになる。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とするような授業を構想する。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が専門性を向上させるだけでなく、相互に学び合える同僚性を構築すること、教育諸科学研究から新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。</p>
---------	--

到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要な場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・現代教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座④板書の技術	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐる	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	授業をどうデザインするか(計画論) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	教育の道具・素材・環境(教材論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	何をどう評価するか(評価論) チーム授業顔合わせ・自己紹介	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	欧米における授業の歴史 チーム授業①打ち合わせ	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	日本における授業の歴史 チーム授業②第1グループのマイクロ・ティーチング実施	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) チーム授業③第2グループのマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① チーム授業④第3グループのマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
12	ICTを活用した授業をつくる② チーム授業⑤第4グループ	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	のマイクロ・テーチング実施																		
13	インクルーシブな授業をつくる 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導 チーム授業⑥マイクロティーチングの振り返り	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
14	授業のユニバーサルデザイン化 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	教育の方法	佐藤学	左右社																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																		
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																		
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																		
備考																			

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の目的、内容方法についての確認</li> <li>・各自の教育実習後の課題についての確認</li> <li>・3回以降のグループ学習の各課題の確認</li> </ul>	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事かどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生	(事前) 自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。

			を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。																	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前) 自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。																
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。																
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践の力量を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子																			
備考																				

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第1章
3	教師教育と教職の専門性(1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第10章
4	教師教育と教職の専門性(2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第4章・第12章
5	教師教育と教職の専門性(3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第3章
6	教師教育と教職の専門性(4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第11章
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第2章・終章
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第5章・第8章
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第7章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第9章

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 教職論—「よい教師」への扉を開く—	佐島群巳・小池俊夫編	学文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的な態度も成績判定の資料とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。  
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井眞治・熊谷信順編著	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。  
授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

教職科目



科目名	中国語科教育法 I	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的 中国語および中国語教育についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。授業の成果を踏まえ、授業案を書く練習、それに基づく模擬授業の練習もおこなう。

到達目標 中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。

授業方法と留意点 講義形式を主にするが、教材分析などでは学生に発表も課する。

科目学習の効果(資格) 中国語教員免許の必須科目である。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教育課程及び指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	中国語概論 I	中国語の歴史・性格・構造について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
2	中国語概論 II	中国語が使われる範囲や中国語教育の概要について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
3	中国語の学習段階と学習目標 I	中国語教育における初級・中級・上級段階とは何かを考える。	教科書の該当部分を予習しておく
4	中国語の学習段階と学習目標 II	引き続き、初級を中心にその内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
5	教授法概論 I	各種の外国語教授法について概説する。	教科書の該当部分を予習しておく
6	教授法概論 II	引き続き中国語の教授法について考えていく。特に学習指導案に重点を置く。	教科書の該当部分を予習しておく
7	初級教材研究 I	初級教材の内容について中国で出版された教科書を使いながら具体的に分析していく。	教科書の該当部分を予習しておく
8	初級教材研究 II	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
9	初級教材研究 III	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
10	中級教材研究	中級段階の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
11	上級教材研究	上級段階の内容について引き続き考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
12	高校中国語研究 I	高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
13	高校中国語研究 II	引き続き高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
14	高校中国語研究 III	引き続き高校中国語教育の内容について考えていき、学習指導案を実際に書いてみる。	教科書の該当部分を予習しておく
15	まとめ	前回は作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う。それを通して、日本における中国語教育のまとめをおこなう	教科書の該当部分を予習しておく

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語の教え方・学び方	興水優	日本大学文学学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 授業参加とレポート

学生へのメッセージ 授業中は私語を慎み、集中して授業内容の理解に努めて下さい。開講もない科目なので試行錯誤が続くかもしれませんが、いっしょに勉強していきましょう。

担当者の研究室等 7号館3階(瀬戸研究室)

備考

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえて、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」という体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には： 1. 日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が必要でないかを学ぶ。 2. 学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 3. 学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。
到達目標	教える能力としては、教育実習の場面で学習歴、クラスサイズ、教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができることを目標とする。  教科内容については、中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて、学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につける。
授業方法と留意点	教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。したがって実習にじゅうぶんな時間を当てる。
科目学習の効果(資格)	中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
2	学習指導案作成Ⅰ(発音篇)	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パターンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回は作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
5	学習指導案作成Ⅱ(講読・作文篇)	動詞「是」の学習を想定する。英語のbe動詞との比較やパターン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業をしてみる。パターン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
7	リスニング指導と関連機器	テープ・MD・CD・PC・DVDなどメディアの特性に加えてLLやCALLの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
8	学習指導案作成Ⅲ(リスニング篇)	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
9	ディクテーションとシャドウイング	LL教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
11	テストを作ってみる	授業2～3回分の既習事項を確認するためのショートテストをWordで作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
12	学習者へのフィードバックと成績管理	(1) 服務の宣誓 (2) 信用失墜行為の禁止 (3) 兼職の禁止 等について	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
13	マルチメディアを利用する(1)	CDやDVDあるいはWebで入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
14	マルチメディアを利用する(2)	eラーニング及びさまざまなWebサービスを利用した授業を考える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
15	マルチメディアを利用する(3)	CALL教室で模擬授業をする。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

教職科目

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出課題と授業参加状況。			
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんといっしょに考えて生きたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考				

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	中国語教科教育法Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に、中国語教科教育法に関する中国語の論文を読みます。中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上を同時に目指します。
到達目標	中国での中国語教育の現状と理論の概要が理解できます。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読します。高度な内容の論文を読むので必ず予習が必要です。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらいます。
科目学習の効果(資格)	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
2	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
3	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
4	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
5	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
6	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
7	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
8	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
9	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
10	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
11	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法的心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
12	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法的語言学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
13	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法的語言学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
14	まとめ1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教科書の該当部分を予習しておく
15	まとめ2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめをおこなう。	教科書の該当部分を予習しておく

関連科目	中国語教科教育法Ⅳ.
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加およびレポート
----------	-------------

学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力がつきます。
-----------	--------------------

担当者の研究室等	7号館3階(瀬戸研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

教職科目

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の4つの分野を学ばなければなりません。この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読みます。中国語教科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指します。
到達目標	異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学びます。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読します。高度な内容の論文を読むので必ず予習が必要です。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらいます。
科目学習の効果(資格)	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておく
	2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておく
	3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 1	教科書の該当部分を予習しておく
	4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 2	教科書の該当部分を予習しておく
	5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 3	教科書の該当部分を予習しておく
	6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 4	教科書の該当部分を予習しておく
	7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
	8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
	9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
	10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
	11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておく
	12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
	13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
	14	まとめ 1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。
	15	まとめ 2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめをおこなう。	レポートを書く。

関連科目	中国語教科教育法Ⅲ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加およびレポート
----------	-------------

学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力がつきます。
-----------	--------------------

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加え、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付け、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道徳教育の内容①:自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②:他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道徳教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道徳性の発達理論を検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。 ②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	授業時に指示する。

	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶編</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶編	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹

授業概要・目的	(1) 学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動（児童会活動）、学校行事、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議を行い、発表・交流する。
到達目標	将来、学級担任として、望ましい集団活動を育て、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学級経営や学級づくりを行う必要があることから、その前段階として、学校支援ボランティアの学生の立場で教員と協力・連携しながら学級集団への適切なサポートができるようになる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにするが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第1章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動の目的・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動（ホームルーム活動）その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもとの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動（ホームルーム活動）その2 ワーク③学級活動（係・班・当番・委員）の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動（児童会活動）・学級行事 ワーク④学校行事（運動会・体育祭・文化祭等）の思い出	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験の持つ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①はじめ（その1）	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②はじめ（その2）	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③非行	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 グループ討議・発表・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④不登校	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤インクルーシブ教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥進路指導・キャリア教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7・14章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	現行学習指導要領について グループワーク⑦体罰	現行学習指導要領における改定の要点、言語能力・体験活動の重視 グループ討議・発表・交流	教科書第3章及び資料編を読んでおく。学習事項を整理する。
14	特別活動の指導計画・指導案の作成 グループワーク⑧ジェンダー	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目 すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」「生徒指導論」「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房



	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				